

福 井 遺 跡

-茨木市豊原町所在-

2003年3月

大阪府教育委員会

福 井 遺 跡

-茨木市豊原町所在-

2003年3月

大阪府教育委員会

はしがき

福井遺跡は、茨木市豊原町・西福井に所在する弥生時代から中世にいたる遺跡です。平成12年度の試掘調査で新規発見されました。調査地周辺には、海北塚古墳、紫金山古墳、青松塚古墳、南塚古墳等、学史を飾る著名な古墳が立地しています。今回の調査地にも、これらに関連する遺跡・遺構が存在することが考えられていました。

調査では、弥生時代後期中ごろの溝や古墳時代後期の掘立柱建物5棟・竪穴住居3軒、平安時代の掘立柱建物3棟、鎌倉時代の掘立柱建物1棟等をはじめとして、調査地の全面にわたって夥しい数の遺構が検出されました。とりわけ、古墳時代後期の建物の廻りには溝が巡っており、掘立柱建物と竪穴住居がセットで見つかり、居住域の様子などが明らかになるなど多くの成果を得ることが出来ました。

調査に際しましては、地元自治会、茨木市教育委員会、大阪府建築都市部住宅整備課並びに関係各位に多くのご協力・ご助言をいただきました。記して、深く感謝いたします。引き続き、皆様方のご理解とご協力をお願ひいたします。

平成15年3月

大阪府教育委員会
文化財保護課長 小林 栄

例　　言

- 1 本書は、府営福井住宅（第1期）建て替え事業に伴って、大阪府教育委員会が実施した茨木市豊原町に所在する福井遺跡発掘調査報告書である。
- 2 現地調査は、大阪府建築都市部住宅整備課の依頼を受け、文化財保護課技師宮崎泰史を担当者として、2001年9月13日～2002年1月30日まで実施した。報告書作成にかかる整理作業は、2002年度に調査管理グループ技師山田隆…・小浜 成が担当し、2003年3月すべての作業を終了した。
- 3 調査・整理に要した経費は、国土交通省の補助金を得て、大阪府建築都市部が全額負担した。
- 4 調査の実施にあたっては、地元自治会をはじめ茨市教育委員会、大阪府建築都市部住宅整備課など多くの方々の協力をいただいた。
- 5 現地調査及び報告書作成にあたっては、宮脇 薫（茨市教育委員会）、野田芳正（堺市埋蔵文化財センター）、別所秀高（東大阪市文化財協会）氏等の御指導及び御教示を得た。
- 6 本書に掲載した遺物写真の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
- 7 航空写真測量は株式会社アコードに委託して行った。なお、撮影フィルムは同社において保管している。
- 8 本書の執筆・編集は宮崎泰史が行った。
- 9 本報告書は300部作成し、一部あたりの単価は2,657円である。

凡　　例

- 1 本書に使用した標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で示した。また座標は、国土座標第VI座標系に基づいているもので、北は座標北を示す。なお、X・Y座標値の単位はmで表示。
- 2 掃図中の遺構平面図の縮尺は、1/80、1/100、断面図は1/40、1/60としている。
- 3 遺構の規模については適時m、cmを併用している。
- 4 本書に掲載している遺物は、一連の通し番号を付している。この番号は、本文掃図・図版写真ともに共通する。
- 5 遺物実測図の縮尺は、土器及び石製品は1/4、金属器については1/1としている。遺物写真は、原則的に集合写真については約1/2、単品写真については適時縮尺を変えている。
- 6 本文中で使用している「生駒西麓」の胎土とは、土器の表面観察により、胎土中に多量の角閃石を含むものを示し、必ずしも生駒の西麓で作られたものであるという意ではない。
- 7 土層断面及び遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」第5版に一部準拠し、JIS記号で表示している。

福井遺跡

-茨木市豊原町所在 -

目 次

第Ⅰ章 調査経過と方法	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の方法	2
第3節 位置表示および地区割りについて	4
第Ⅱ章 A区の調査成果	5
第1節 基本層序と概要	5
第2節 検出された遺構と遺物	7
掘立柱建物	7
土坑	21
小溝	27
自然河川	28
豎穴住居	18
溝	23
ピット	28
落ち込み	29
第Ⅲ章 B・C区の調査成果	31
第1節 基本層序と概要	31
第2節 検出された遺構と遺物	33
溝	33
ピット	45
落ち込み	47
土坑	44
自然河川	46
第Ⅳ章 まとめ	50
別表	
図版	
抄録	
付図	

第Ⅰ章 調査経過と方法

第1節 調査に至る経過

福井遺跡は、大阪府茨木市のほぼ中央に位置し、弥生時代後期から平安時代を中心とする遺跡で、府営福井住宅建て替え工事に先立つ試掘調査によって新たに発見された（第1図）。

遺跡発見の経緯は、この地に本府住宅整備課から遺跡の有無についての照会を受け、文化財保護課は協議の上、府営福井住宅建て替え建設予定地内に試掘調査（調査番号00035）を実施したことによる。

試掘調査は、平成12年10月2日から10月10日にかけて、大阪府教育委員会が実施した。包含層及び遺構の有無とその形成時期、遺構面の枚数の確認と地山までの深度を明らかにすることを目的に、対象面積41000m²の建設予定地内に、5箇所のトレンチ（436m）を設定して行った。

その結果、弥生時代後期の溝、古墳時代後期の溝、平安から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が検出され、集落遺跡が存在することが明らかとなった。このため新規発見のこの遺跡を「福井遺跡」と命名し、府営福井住宅第1期建て替え工事に先立ち、発掘調査を実施することになった。





第2図 福井遺跡 調査区配置図（1/5000）

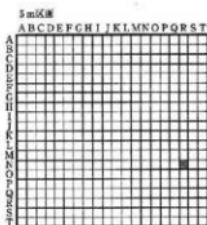
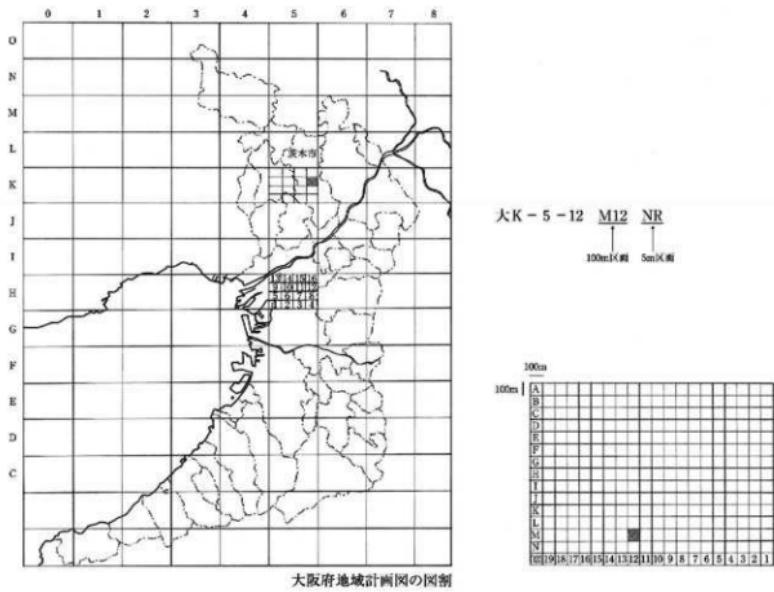
今回の調査は、府営福井住宅建て替え第1期工事に伴う事前調査で、2001年9月13日～2002年1月30日まで、大阪府教育委員会が実施した。調査番号は01019。

調査は、予定される住宅棟に添うかたちで長さ135m、幅約24mのトレンチ1本（西トレンチ）、設備棟に添うかたちで長さ27.5m、幅約15mのトレンチ1本（東トレンチ）を設定して行っている。なお、調査の開始にあたっては、調査によって排出される土砂置き場の確保の問題から、3つの地区に分けている。具体的には西トレンチを中心部において南北に二分し、北側をA区、南側をB区とし、東トレンチをC区と呼称している（第2図）。

調査の実施にあたっては2回に分けて行った。その手順は、B区とC区より開始し、その埋め戻し終了後に、A区の調査に着手することとした。なお、調査の途中である2002年1月19日に、地元住民を対象とした現地説明会を開催し、約250名の参加を得た。

第2節 調査の方法

調査は、盛土及び旧耕作土の機械掘削終了後、新平面直角座標第VI座標系により3級・4級杭を打設し、それを基準に遺物取り上げの単位である 5×5 mの区画を設定した。層序は、調査区が南北に長いため、出来る限り対応させて把握するよう努めた。また、各調査区間の層序についても、連続して理解するよう心掛けた。そのため、機械掘削終了後の人工作業に先立ち、排水溝



第3図 地区割の方法

を兼ねた断面観察用の側溝を調査区の四周に設定し、土層の堆積状況を観察した上で、基本層序の把握に留意した。

人力掘削は、土層の堆積状況を把握した上で、基本的に各層ごとに行っている。遺物の取り上げも各層ごとに、 $5 \times 5\text{ m}$ の区画ごとに行った。

遺構番号は、調査区ごとに、検出した順に、種類別（溝・土坑・ピット・落ち込み等）に通し番号を付けている。なお、併行して調査を実施したB区・C区については、1番から付けている。A区については200番台を使用している。たとえば、B区・C区で最初に検出した溝は、溝1としている。A区で5番目に検出したピットは、ピット205としている。

ただし、報告書作成にあたり、掘立柱建物及び竪穴住居については、別途に掘立柱建物1・2・3、竪穴住居1・2としている。

第3節 位置表示および地区割りについて

遺跡の位置表示は、第VI座標系を使用してX、Yの座標で示している。遺構の位置は座標で示す場合と地区名で示す場合がある。なお、本文挿図では遺構の位置は座標で示す。現地での作業の場合は遺構の中心的な地区名で表示している。遺物を取り上げる単位は $5 \times 5\text{ m}$ (25m^2) を原則的に最大とした。

調査区の地区割りは、1/2500地形図（都市計画図）を基本（東西2km、南北1.5km）として、この地図を300等分し、100m四方の区画をつくる。この区画はアルファベットとアラビア数字で表現する。縦方向に15行（北から南へA～O）、横方向に20列（東から西へ1～20）あり、区画を表す場合は縦方向を優先して記載する。たとえば、M12。さらに、100m区画を400等分して5m四方の区画をつくる。この区画は2つのアルファベットで表現する。縦方向に20行（北から南へA～T）、横方向に20列（西から東へA～T）あり、区画を表す場合は縦方向を優先して記載する。この区画の名称は、M12-NRで表現される。遺物取り上げの際の地区名はこの区画名を記入している。

なお、本文中では使用していないが、現地では100m区画を100等分して10m四方の区画も併用している。この区画はアルファベットとアラビア数字で表現する。縦方向に10行（北から南へa～j）、横方向に10列（東から西へ1～10）あり、区画を表す場合は縦方向を優先している。

したがって、今回調査を行った福井遺跡は大K-5-12-M12-11-N12-11の100m区画内に位置する（第3図）。

本書の記述にあたっては、A区、B・C区と大きく2つの地区に分けて行っている。

第Ⅱ章 福井遺跡A区の調査成果

第1節 基本層序と概要

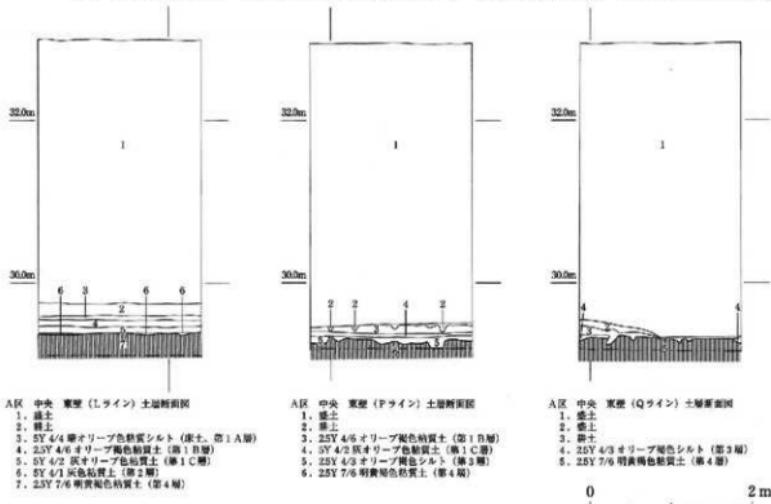
A区は幅約24m、延長約80mをはかる。現地表面の標高は調査区北端で33.01m、南端で32.51mをはかり、比高さ約50cmの緩斜面に位置する。調査前は、建て替えに備えて整地されていた。

本調査区の基本層序は、調査区東側の土層断面で観察される土層を基本土層としている。層序は第0層～第4層に大別される（第4図）。

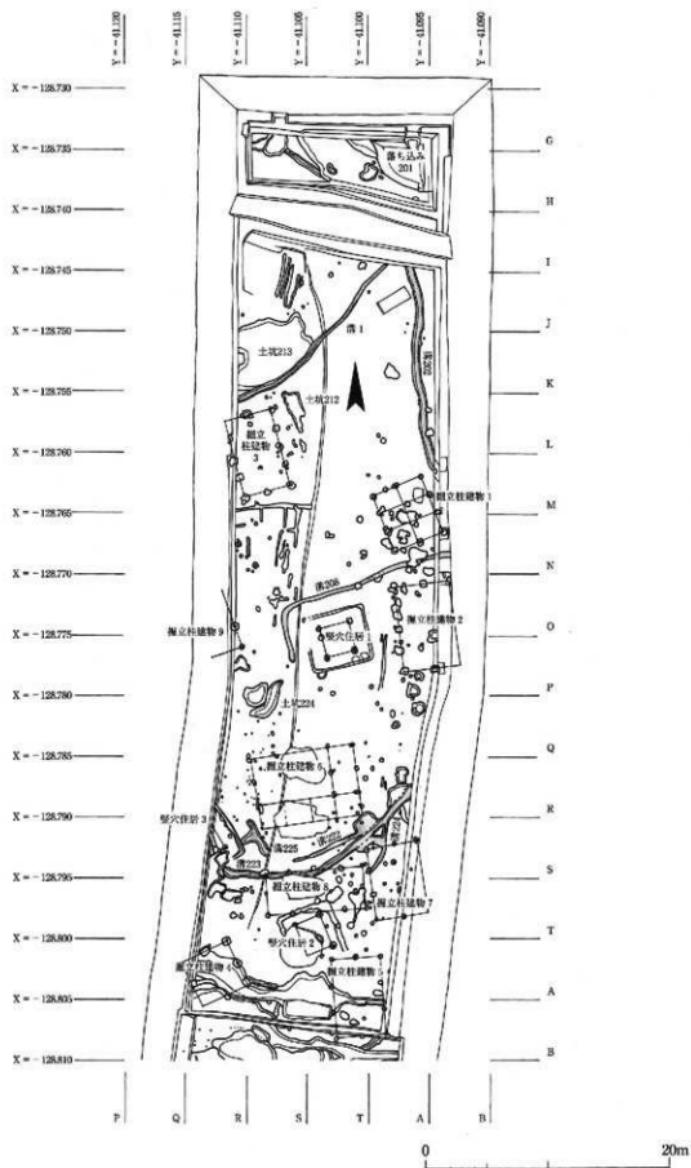
第0層 盛土及び旧耕作土に相当する。盛土は層厚3.6~3.7m、旧耕作土の層厚は約0.2mをはかる。

第1層 中世から昭和30年代の耕作土及び包含層に相当する。層厚約0.2mをはかる。層中から古墳時代後期から奈良時代の須恵器、土師器、綠釉陶器など、鎌倉時代から室町時代の瓦器碗、土師質皿・羽釜、白磁、青磁、東播系練鉢、常滑、不明陶器、瀬戸など、安土桃山時代の美濃天目碗、備前窯など、江戸時代以降の染付け、肥前系陶磁器、不明磁器、瓦など、砥石等の遺物が出土している。第1層は基本的にA、B、C層に細別される。

調査区東側の土層断面では、第1A層は調査北半部（I～Oライン）で確認。O～Qラインでは旧耕土の下は第1B層となる。第1B・C層は調査区南半部では確認されず、



第4図 A区 土層柱状断面図 (1/60)



第5図 A区 主要遺構配置図 (1/400)

I～Qラインでのみ確認。L～Oラインでは、第1C層の下は第4層（地山層）となる。なお、調査区西側の土層断面では第1層は南に向かって層が徐々に厚くなる。

第2層 5Y4/1灰色粘質土。層厚は約0.1mで、調査区の北半部（I～Lライン）でのみ確認された。層中から弥生時代後期の土器、古墳時代後期の須恵器壺身・壺蓋、土師器片等、奈良時代から平安時代の須恵器壺身・壺蓋、黒色土器、土師器片等、鎌倉時代から室町時代の瓦器梶・皿、瓦質羽釜・鍋、瓦片等が出土している。

第3層 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト。層厚は約0.1mで、調査区のほぼ中央（O～Qライン）でのみ観察された。

第4層 2.5Y7/6明黄褐色粘質土。上面で古墳時代後期から中世の遺構が検出されている。今回検出した最終遺構面にあたる。第4層（地山）上面の標高は、北西隅が30.16m、北東隅が29.92m、南西隅が29.66m、南東隅が29.22mである。

A区の調査では、掘立柱建物9棟・竪穴住居3軒・溝數十条・土坑數十基・柱穴數百基など、多くの遺構を検出している。これらはすべて地山上面で確認されたものである（第5図）。

第2節 検出された遺構と遺物

掘立柱建物

掘立柱建物1

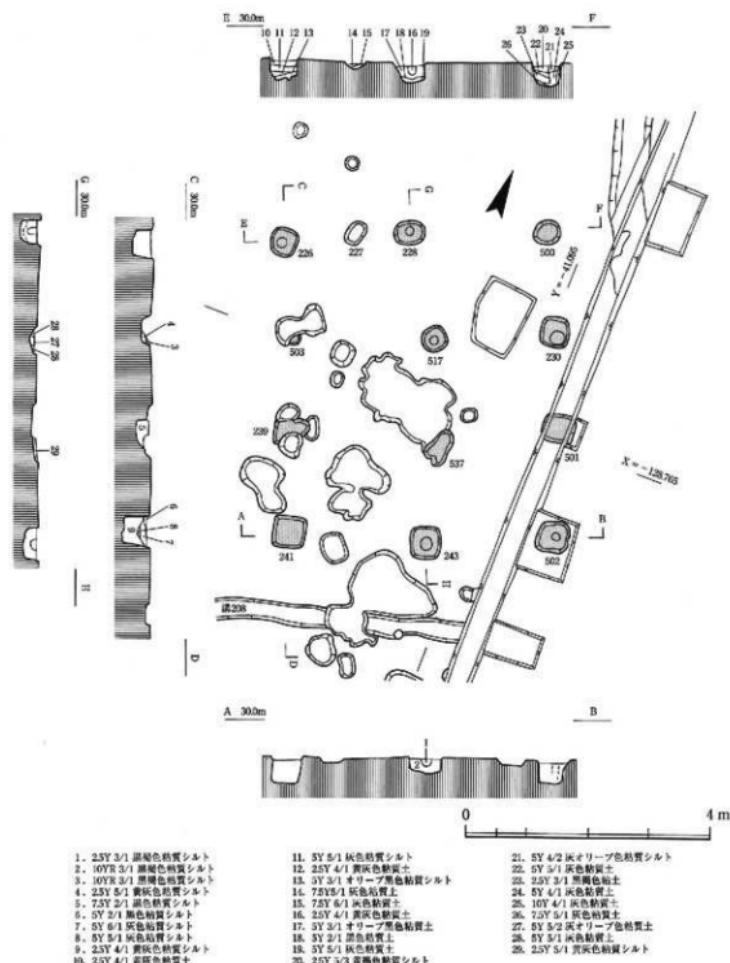
調査区のほぼ中央東寄りに位置する南北棟建物（第5・6図、図版12）。梁行2間（4.4m）・桁行3間（5.2m）の規模を有し、棟方位はN-22°-Wである。内部の柱筋にも側柱同様の柱拘方をもつ、総柱の掘立柱建物である。床面積は約22.9m²。平均柱間は桁行が1.73m、梁間で2.2mをはかるが、桁行は実際には中央間と脇間に明らかな広狭の差が認められた。中央間（ピット230～501間）が1.5mであるのに対して脇間はピット500～230間・ピット501～502間がそれぞれ1.8mをはかる。

柱拘方径は21～60cmで、平均47cm、深さは8～47cmで、平均28cm。南側妻柱及び西側桁行柱（ピット503・239）の拘方は、他の側柱に比べて浅い。

また、建物内部の柱（ピット517・513）の拘方の径は側柱に比較してやや小振りで、深さもそれぞれ13cm・14cmと浅い。柱痕跡はピット226・228・230・243・500・502・517で確認され、径は11～20cmをはかる。

<出土遺物>

ピット226から須恵器壺蓋片、ピット239・241・243から土師器片等が出土しているが、いずれも細片で図化することが出来ない。このため時期等については、明らかに出来ない。ただし、約1m南側に併行して設けられた古墳時代後期の溝208が、後述する竪穴住居1との間を画するように巡ることから、古墳時代後期頃と推測される。

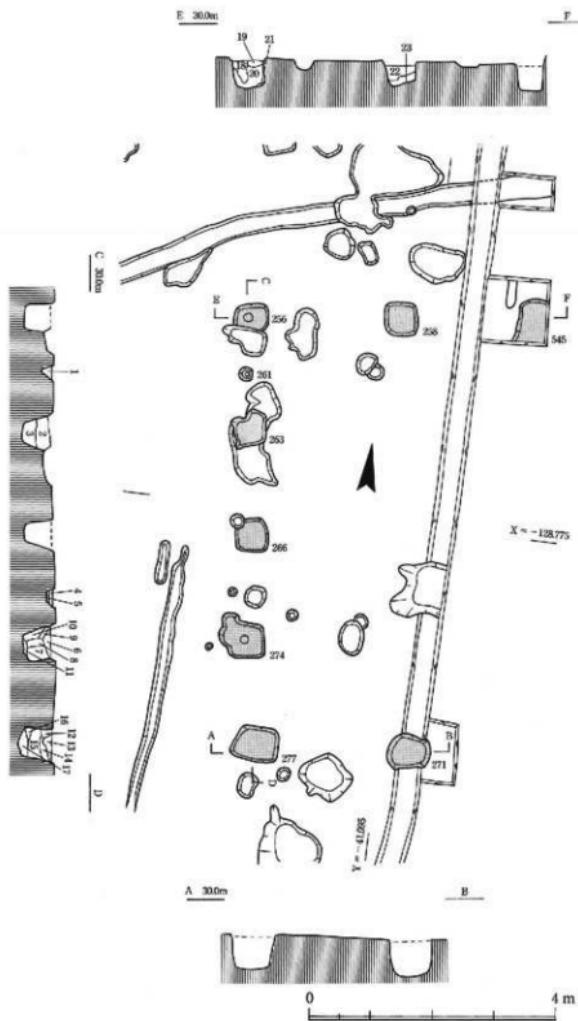


第6図 A区 掘立柱建物1 平面・断面図 (1/80)

掘立柱建物2

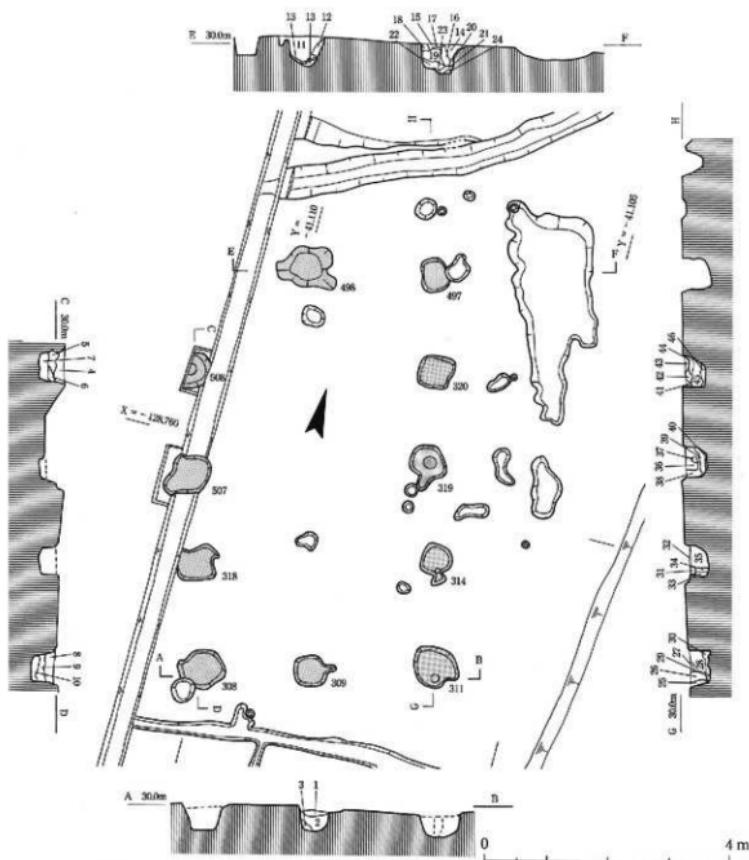
調査区のはば中央東壁寄り、掘立柱建物1の約3m南側に位置する南北棟建物（第5・7図、図版9）。梁間2間（4.94m）・桁行4間（7.1m）の規模を有する。床面積は35.07m²。棟方位はN -7.5° - W。平均柱間は桁行が1.76m、梁間で2.47mをはかる。

柱掘方の平面は隅丸方形を呈し、一辺47~81cmで、平均62cm、深さは43~69cmで、平均54cm



25Y 4/2 黄褐色系シルト
25Y 2/1 淡褐色系シルト
25Y 4/2 淡褐色系シルト
25Y 4/2 淡褐色系シルト
25Z 5/4 淡褐色系
25Y 4/2 黄褐色系シルト
25Y 4/1 淡褐色系土
8 Y 1/1 灰褐色系土
17 HGG 6/1 綠褐色系粘土
15 ZP 4/1 黄褐色系粘土
18 Y 1/1 灰褐色系土
20 ZY 4/1 灰褐色系粘土
21 ZGY 6/1 灰褐色系砂
25 ZY 5/1 灰褐色系砂
14 7/2 7/3 黄褐色系粘土
16 7/2 7/3 黄褐色系砂
17 HGG 6/1 灰褐色系粘土
15 ZP 4/1 黄褐色系粘土
18 Y 1/1 灰褐色系土
20 ZY 4/1 灰褐色系粘土
21 ZGY 6/1 灰褐色系砂
25 ZY 5/1 灰褐色系砂
14 7/2 7/3 黄褐色系粘土
16 7/2 7/3 黄褐色系砂
17 HGG 6/1 灰褐色系粘土
15 ZP 4/1 黄褐色系粘土
18 Y 1/1 灰褐色系土
20 ZY 4/1 灰褐色系粘土
21 ZGY 6/1 灰褐色系砂
25 ZY 5/1 灰褐色系砂

第7図 A区 掘立柱建物2 平面・断面図 (1/80)



第8図 A区 掘立柱建物3 平面・断面図 (1/80)

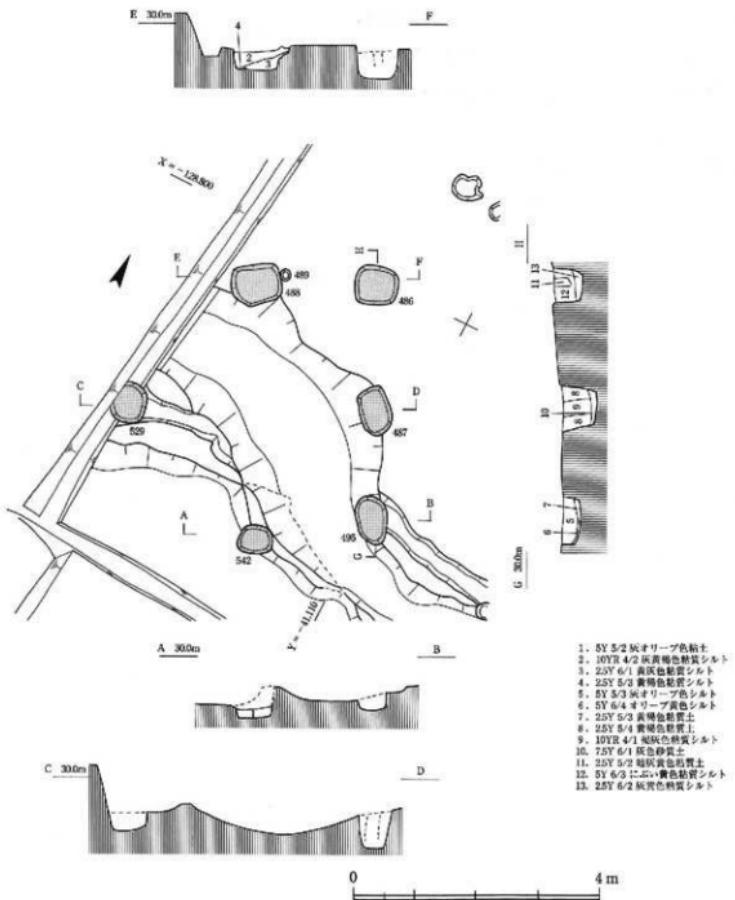
をはかる。柱痕跡はピット256・271・274で確認され、径はそれぞれ13cm・12cm・12cmをはかる。

ピット277・545から土師器片等が出土しているが、いずれも細片で図化することが出来ない。このため時期等については、明らかに出来ない。ただし、約1.2~2.8m北側に併行して設けられた古墳時代後期の溝208が、後述する竪穴住居1と掘立柱建物2をネットにして囲っている配置

関係から、掘立柱建物 1 と同様に、古墳時代後期頃と推測される。

掘立柱建物 3

調査区の北寄り、西壁近くで検出された掘立柱建物（第5・8図、図版8）。梁間2間（3.9m）・桁行4間（6.67m）の規模を有する。床面積は約26m²。主軸方位はN-14°-W。平均柱間は桁行が1.67m、梁間で1.95mをはかる。柱掘方径は49~85cmで、平均63cm、深さは35~52cmで、平均42cm。柱痕跡はピット311・314・319で確認され、径は9~19cmをはかる。なお、ピッ



第9図 A区 掘立柱建物 4 平面・断面図 (1/80)

ト311・498の底には、根石として使用したのであろうか、拳大の石が数個置かれていた（図版8a）。

なお、遺物はまったく出土していない。このため時期等については、明らかに出来ない。ただし、約1m北側に設けられた古墳時代後期の溝202が、配置関係から居住域を画するように巡っていることから、古墳時代後期頃と推測される。

掘立柱建物4

調査区の南西隅にて検出した掘立柱建物（第5・9図、図版13a）。2間×2間（2m以上・4.2m）の規模を有し、東側柱列での方位はN-26°-W。南西隅のピットは自然河川202によつて失い、上部は自然河川201によって削平されていた。柱間寸法は東側柱列で2.1m・2.1m、西および南側柱列で2.0m。建物内部の柱の有無については、中央を自然河川201により削平を受けているため不明である。

柱掘方の平面は隅丸長方形を呈し、一辺45~81cmで、平均63.5cm、深さは23~63cmで、平均は40cmをはかる。柱痕跡はピット486・487で確認され、径はそれぞれ18cm・22cm。

<出土遺物>

ピット486・487・529から土師器片等が出土しているが、いずれも細片で図化することが出来ない。このため時期等については、明らかに出来ないが、柱掘方の大きさ及び覆土の堆積状況が掘立柱建物3に共通する点で、古墳時代後期と推定しておきたい。

掘立柱建物5

調査区の南東隅にて検出した（第5・10図、図版14a）。梁間2間（4.1m）・桁行3間（6.6m）の規模を有し、床面積は約27.1m²。棟方位はN-4°-W。南側柱列のピット76・77は、B区にかかる。柱間寸法は桁行きで2.2m等間、梁行きで2.0m・2.1m。柱掘方の平面はほぼ円形を呈し、径は15~46cmで、平均32.9cm、深さは13~45cmで、平均29cmをはかる。なお、南東の隅柱の掘方は、他の側柱に比べて深い。柱痕跡はピット430・518・519・521・541で確認され、径11~14cmをはかる。

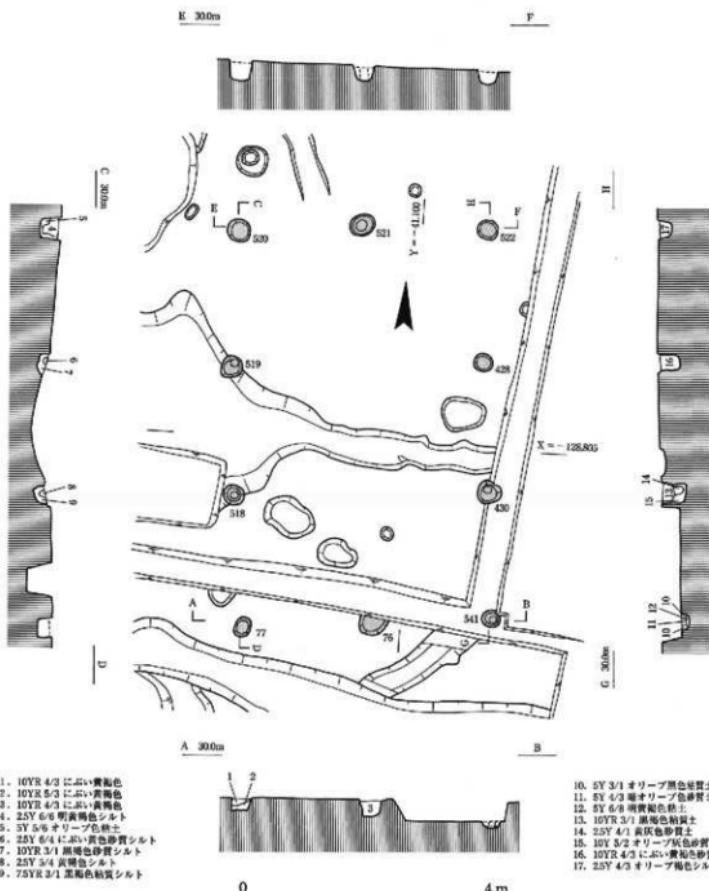
<出土遺物>（第11図、図版24a）

ピット518から須恵器瓶の口縁部（3）、土師器片。ピット519から須恵器壺蓋（221）。ピット541から黒色土器A類坏（222）。ピット428・430・520・522・541から土師器片等が出土している。これらの遺物から、建物の時期は平安時代（10世紀）と考えられる。

掘立柱建物6

調査区の中央やや南寄りで検出された東西棟建物（第5・11図、図版14b）。現代の建物基礎坑によって柱掘方の一部を失うものの、3間×2間の身舎に東庇・南庇がついた形式をとり、全体としては桁行4間（8.5m）・梁間3間（5.7m）の規模を有する。棟方位はN-9°-Wである。

平均柱間は、柱痕跡を残す例がなく、柱間寸法については確定しがたいものの、桁行が2.16m、梁間が2.0mをはかる。柱掘方の間隔は全体として、桁行・梁間ともによく揃っている。

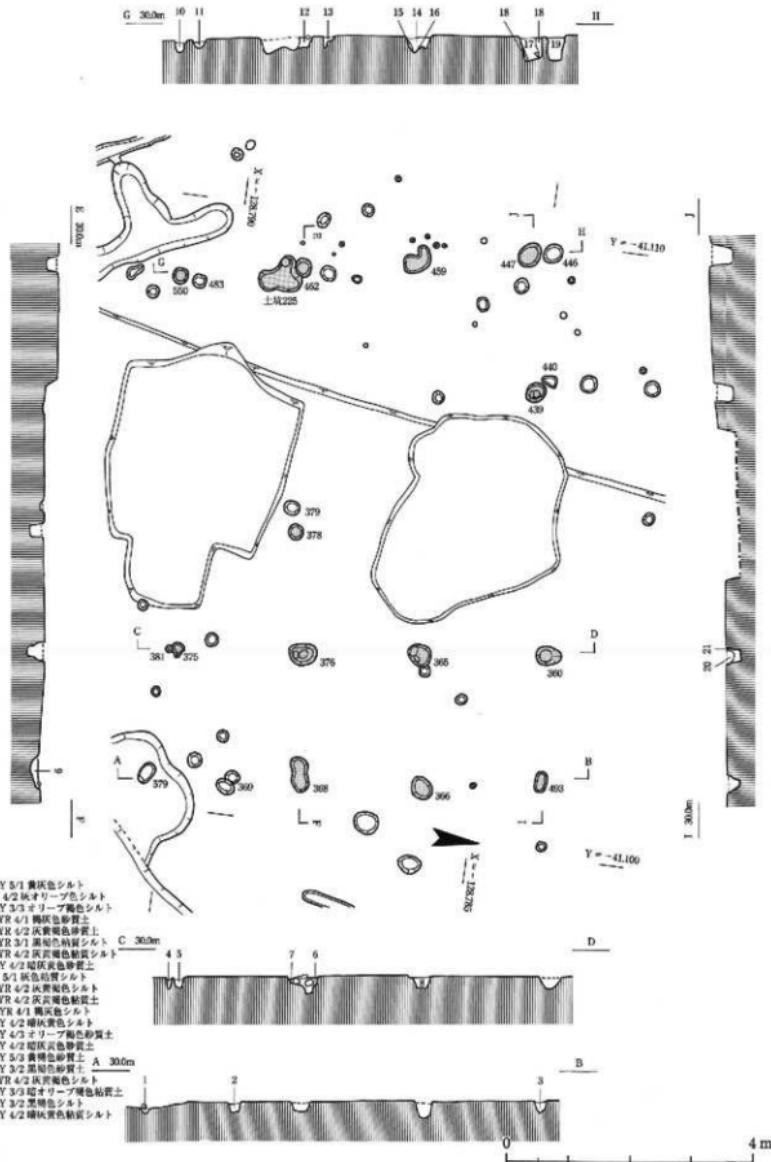


第10図 A区 掘立柱建物5 平面・断面図 (1/80)

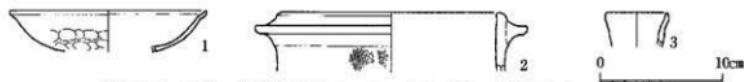
柱掘方の平面形・大きさにややばらつきがあり、径は19~58cmで、平均34.9cm、深さは19~44cmで、平均27.7cmをはかる。なお、身舎に対して庇の柱掘方は、やや小振りである。

また、一部のピット（ピット447と446、ピット439と440、土坑225とピット462、ピット550と483、ピット375と381）に重複もしくは接するものがあり、補修された可能性が有る。
 <出土遺物>（第12図、図版24a）

ピット459から土師器壺（1）、黒色土器A類壺（216）。ピット360から土師器羽釜（2・212）・壺（213）、黒色土器A類壺（211）、不明陶器片（214）。ピット447から土師器皿（210）。ピット



第11図 A区 掘立柱建物6 平面・断面図 (1/80)



第12図 A区 挖立柱建物6・5 出土土器 実測図(1/4)

376から黒色土器A類坏(215)、緑釉陶器、土師器片。ピット439から緑釉陶器(217)、磨石。ピット366・368・375・493から土師器片等の遺物が出土している。以上の遺物から考えて、建物の時期は、10世紀頃と考えられる。

掘立柱建物7

調査区南半部の東際にて検出した(第5・13図、図版11b)。東側についてはほとんどが調査区外にあるため、全体の規模や構造は明らかでない。一応、西側柱列を桁行の柱筋とする建物を想定しておきたい。この場合、梁間2間(4.25m)・桁行3間(5.9m)の規模となる。棟方位はN-85°-Wである。柱間寸法は梁間で西から2.25m・2.0m、桁行で北から1.7m・2.1m・2.1mをはかる。

柱掘方径は24~47cmで、平均37.4cm、深さは23~59cmで、平均41.5cm。なお、南側柱列のピット405・560については他の側柱掘方に比べて、小振りであることから、底になる可能性も考えておきたい。この場合は東西棟の建物になる。柱痕跡はピット396・399・405・533・548・560で確認され、径10~18cmをはかる。

溝224と重複し、これを切る。

<出土遺物>

ピット388から土師器片等が出土しているが、いずれも細片のため器形は不明であり、図化できない。このため時期については、明らかでない。

掘立柱建物8

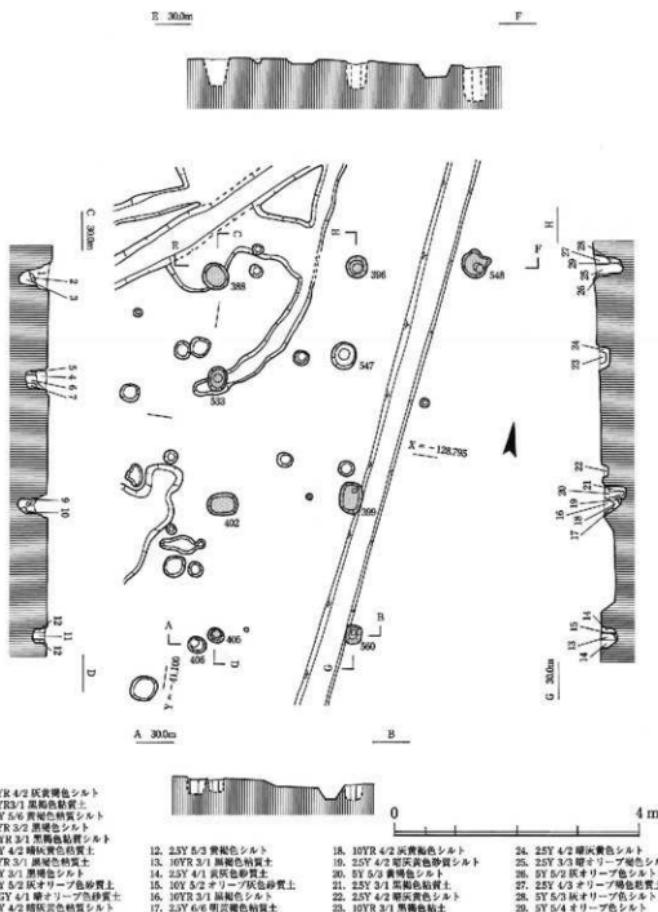
調査区南半部のほぼ中央、掘立柱建物7の西側に接して検出された東西棟の掘立柱建物である(第5・14図、図版11b)。梁間(3.6m)・桁行4間(8.1m)の規模を有し、床面積は29.2m²。棟方位はE-4°-N。桁行きは、南側柱列で西から2.1m・2.1m・2.1m・1.8m。梁間の柱間寸法は1.8m等間である。

柱掘方径は20~84cmで、平均36.6cm、深さは25~49cmで、平均35.3cm。なお、梁間の中間柱は、他の側柱の掘方径に比べていずれも小さい。柱痕跡はピット419で確認され、径9cmをはかる。竪穴住居2及び溝223と重複し、これを切る。

<出土遺物> (図版24a)

ピット387から瓦器椀(219)、土師器把手(218)。ピット407から黒色土器A類坏底部(220)。ピット390・419・423・525・571から須恵器・土師器片。ピット391から土師器片。ピット411から土師器片。ピット412から須恵器片等の遺物が出土している。

時期については、いずれも小片のため確定しにくいが、ピット387から出土した瓦器椀の特徴から考えて、13世紀を上限とする。

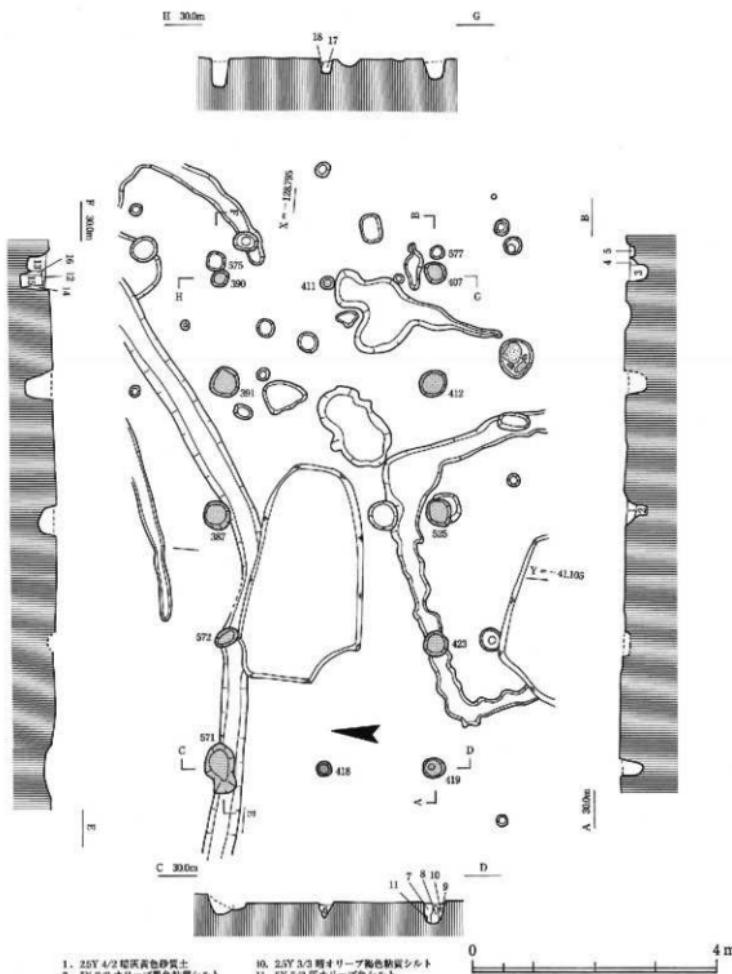


第13図 A区 掘立柱建物7 平面・断面図 (1/80)

掘立柱建物 9

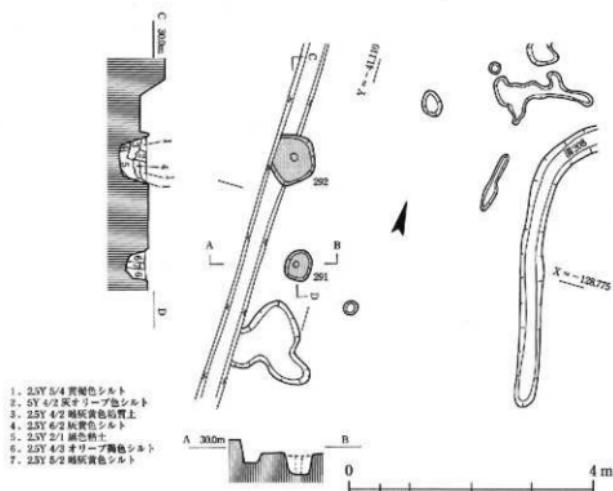
調査区中央部の西壁にかかるて検出された掘立柱建物（第5・15図、図版9a）。確認したピットは2個にすぎず、全体の規模や構造については不明である。一応、ピット292・291を東側平行の柱筋とする建物を想定しておきたい。この場合の棟方位はN-17.5°-Wとなる。柱間寸法は1.75mをはかる。

柱掘方の平面形は隅丸方形を呈し、径は41~85cmで、平均62.3cm、深さは36~48cmで、平均42cm。柱痕跡はピット291・292で確認され、径10~13cmをはかる。



第14図 A区 挖立柱建物8 平面・断面図 (1/80)

なお、柱掘方からは遺物はまったく出土していない。このため、掘立柱建物9の年代を直接示すことは出来ないが、柱掘方の大きさ及び覆土の堆積状況が掘立柱建物1に似かよる点から、古墳時代後期頃と推定しておきたい。



第15図 A区 掘立柱建物9 平面・断面図 (1/80)

豊穴住居

豊穴住居1

調査区のはば中央に位置する（第5・16図、図版9・10）。西側の壁溝の一部は、不明瞭となり、途切れている。これは後世の削平による。また、カマドの有無は確認できなかった。平面形は東西方向にやや長い方形を呈する。規模は南北4.7m、東西5.15mで、主軸方位はN-13.5°-Wである。柱間寸法は2.5mで、よく揃っている。

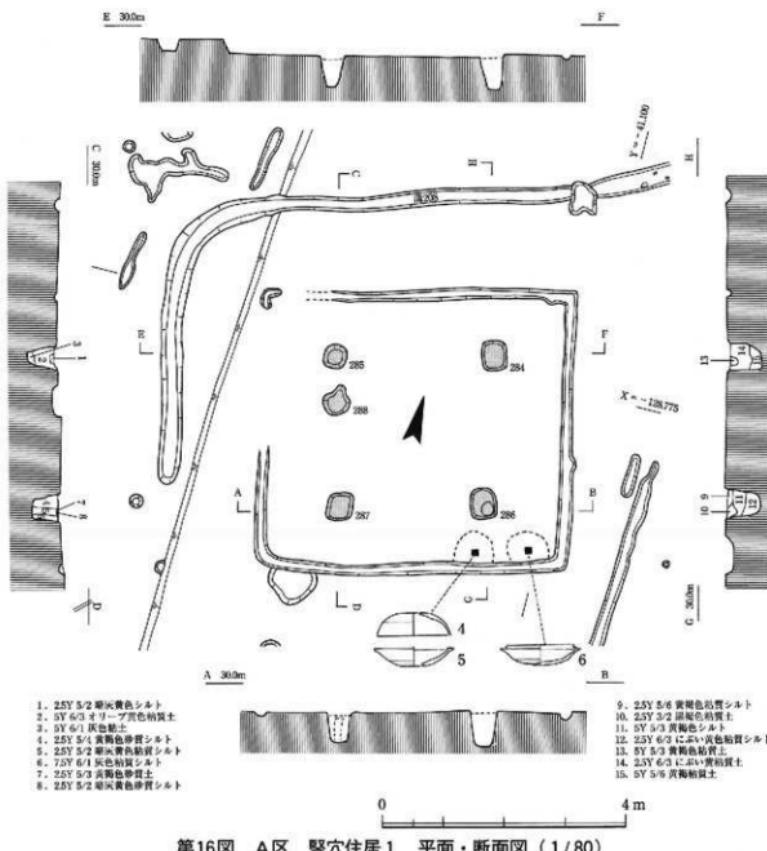
柱掘方の平面は隅丸方形を呈し、径は平均44.6cm（最大55cm・最小径40cm）で、深さは55.3cm（最大60cm・最小51cm）。壁溝は幅約22cm、深さ約10cm。柱痕跡はピット287で確認され、径12cmをはかる。住居の1.6m西及び北側には、住居の区画および排水溝を兼ねた溝208が「L」の字状に巡っている。

<出土遺物> (第17図、図版23a)

南東隅付近で、東西に2基の土坑が確認され、東側の土坑から須恵器坏身（6）と土師器片、西側の土坑から須恵器坏蓋（4）、須恵器坏身（5）が重なるようにして出土した（図版9b）。

須恵器坏蓋（4）は復原口径11.9cm、器高3.7cmをはかる。須恵器坏身（5）は受け部径13cm、残存器高2.9cmをはかる。（4・5）は生焼きで、磨耗のため調整はいずれも不明である。

須恵器坏身（6）は口径10.6cm、器高3.45cmをはかる。底部を回転ヘラケズリ調整する。この土器は器形不明の土師器片を下に敷いた状態で出土した。以上の遺物から、豊穴住居1は陶邑編年Ⅱ型式第4～5段階の時期に相当すると考えられる。



第16図 A区 竪穴住居1 平面・断面図 (1/80)

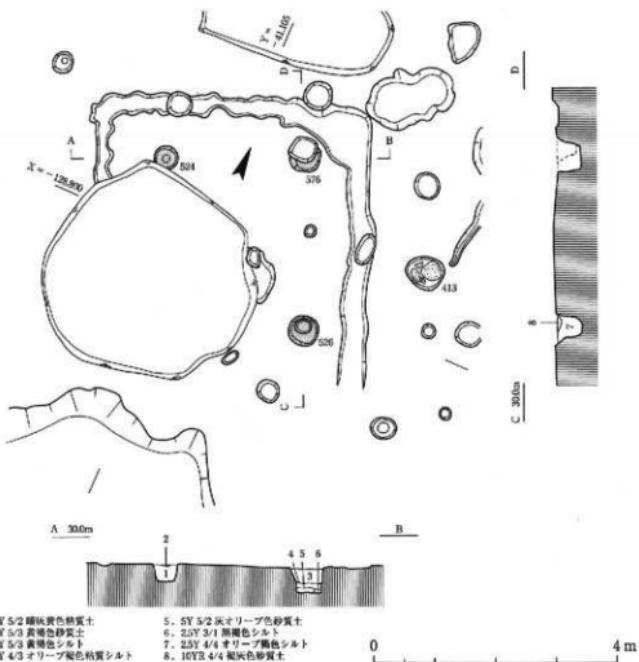
竪穴住居 2

調査区の南半ほば中央にて検出された（第5・18図、図版11b）。南西側は現代の建物の基礎坑によって搅乱を受けている。また、全体に中世以降の耕作により削平されたため、南側の壁溝及びカマドの有無は確認できなかった。平面形は東辺が北辺より長い方形を呈する。規模は4.7×5.15m前後で、主軸方位はN-23.5°-Wである。

柱間寸法は主軸方向が3.4m、直交方向が2.9mで、主軸方向の柱間がやや長い。柱掘方の平面はほぼ円形を呈し、径は33~51cmで、平均45cm、深さは31~46cmで、平均41cm。壁溝は幅約20cm、深さ2cmをはかる。ピット524・526で柱痕跡が確認された。



第17図 A区 竪穴住居1 出土土器 実測図 (1/4)



第18図 A区 竪穴住居2 平面・断面図 (1/80)

掘立柱建物5および掘立柱建物8のピット423・525及びピット416・540・425・578・417、土坑222に重複し、これらに切られる。

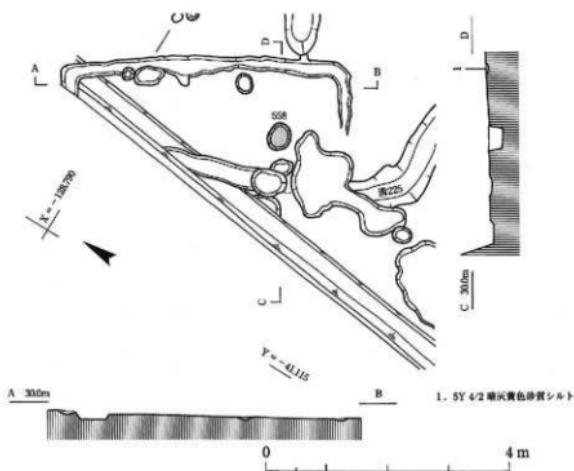
<出土遺物>

遺物はいずれも小片で、器種・器形等は不明である。このため竪穴住居2の時期は確定できないが、土坑213・224、溝202と埋土が共通することから、古墳時代後期頃と推定される。

竪穴住居3

A区の南半部、竪穴住居2の北西約8mに位置する（第5・19図、図版11a）。調査区の西壁沿いで検出されたため、北及び西辺は調査区外にある。確認したのは住居跡の東半部である。全体に後世の削平を受け、カマドの有無は確認できなかった。さらに、上部はピット475・479～482・土坑220によって搅乱されていた。また溝223と重複するが、前後関係は明らかに出来なかった。平面形は方形を呈し、規模は4.7×5.15m前後である。主軸方位はN-31°-W。主柱穴はピット558のみで、柱間寸法については不明である。

柱掘方径は48×37cmで、深さは25cm。壁溝は幅約20cm、深さ約10cmをはかる。柱痕跡は確認されなかった。



第19図 A区 穹穴住居3 平面・断面図 (1/80)

<出土遺物>

壁溝内から須恵器、土師器等が出土しているが、いずれも細片のため器形及び時期については不明である。

土坑

土坑204

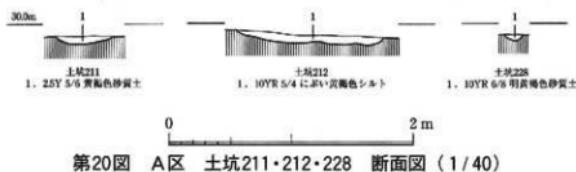
調査区中央のやや東寄り、M11-MB・NB区に位置する(付図1、図版12a)。平面プランは不定形を呈し、径170×105cm、深さ14cmをはかる。埋土は基本層序の第1層。掘立柱建物1のピット537を切る。

<出土遺物>(図版23b)。

埋土中より、須恵器壊身(207)、土師器片等の遺物が出土している。いずれも細片で図化することが出来ない。

土坑212

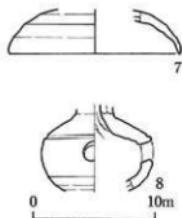
調査区の北半やや西寄り、M12-LS区に位置する土坑(第8・20図、図8a)。径は長軸378cm、短軸131cm、深さは12cmをはかる。土坑の長軸が掘立柱建物3の桁行にはほぼ平行することから、付帯する遺構と考えられる。土坑211・228も同じ。遺物はなし。



第20図 A区 土坑211・212・228 断面図 (1/40)



第21図 A区 溝202、土坑213 断面図 (1/40)

第22図 A区 土坑213
出土土器 実測図
(1/4)

土坑213

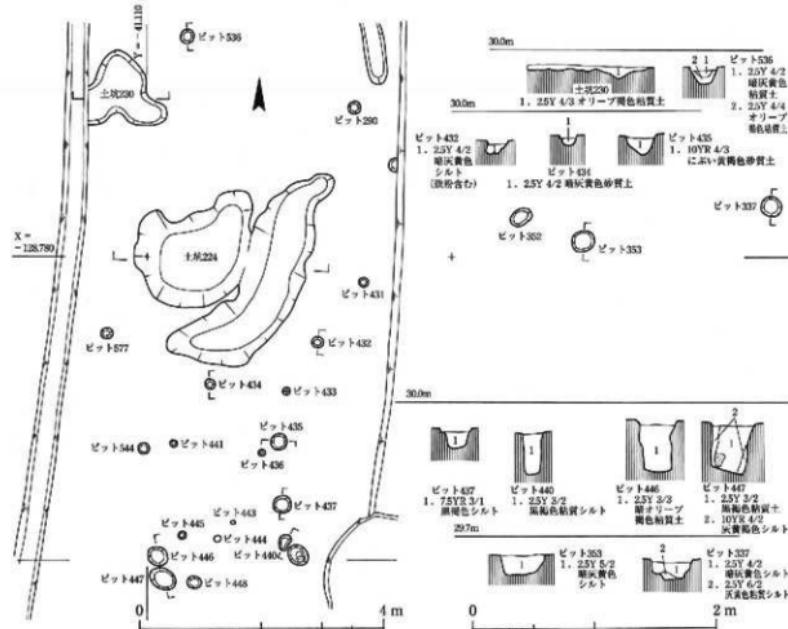
調査区北半の西寄り、M12-JR・JS・KR~KTにて検出した(第5・21図)。平面プランは不定形を呈し、径486×655cm以上、深さ20cmをはかる。南側で溝202に重複する。

<出土遺物>(第22図、図版23)

埋土中より須恵器壺蓋(7・204)・壺身・甌(8)・提瓶(205)、土師器等の遺物が出土している。

須恵器壺蓋(7)は復原口径14cm、残存器高3.6cmをはかる。頂部を回転ヘラケズリする。

甌(8)は残存器高6.95cm、体部径9.1cmをはかる。底部外面下半に回転ヘラケズリする。これらは陶邑編年のII型式第4段階に相当する。



第23図 A区 中央部 ピット、土坑 平面 (1/80)・断面図 (1/40)



土坑220

調査区南半の西寄り、M12-S R区に位置する（付図1、図版11a）。平面プランは不定形を呈し、径223×122cm、深さ12~19cmをはかる。竪穴住居3、溝223に重複し、これらを切る。

埋土中から黒色土器、須恵器、土師器片等が出土している。

土坑224

掘立柱建物9の南東3m、M12-P S・Q S区にて検出された大型の土坑である（第5・23・24図、図版9aの右下）。平面プランは2つの土坑が繋がったような不定形を呈し、径280×395cm、深さ32cm。埋土は大きく3つに分けられる（第24図）。遺物には土師器片等があるが、細片で図化することが出来ない。このため時期等については明らかにすることが出来ないが、埋土の堆積状況が土坑213に近似する点（黒褐色系）、一応、古墳時代後期と想定しておきたい。

土坑226

調査区の南半やや東寄り、M12-T T区に位置する（第28図、図版11b）。平面プランは不定形を呈し、径286×131cm、深さ28cmをはかる。掘立柱建物8に重複し、これを切る。

＜出土遺物＞（第36図、図版23b）

埋土中より、瓦器楕、土師器、須恵器壺蓋（17）等の遺物が出土している。

溝

溝201

A区の北半部にて検出された（第5・25図、図版6b）。北北西から南南東へ走行する。溝の幅は遺存状況の良好なところで、幅58cmをはかり、深さは25cmをはかる。溝底の標高は北端で29.22m、南端で29.24mと緩やかに傾斜する。掘立柱建物1に沿うようなかたちで、その東側を画するように巡ることから、排水溝を兼ね備えた区画溝と考えられる。

＜出土遺物＞（第26図、図版23b）

須恵器壺蓋（9）・壺身（206）、土師器片等が出土している。須恵器壺蓋（9）は復原口径13.0cmをはかる。遺物からみて、溝の時期は陶邑編年のII型式第4段階に相当する頃と考えられる。

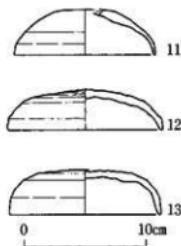


溝202

A区の北半部、掘立柱建物3の北1.5mに位置する（第5・21図、図版6b）。掘立柱建物3の北東角付近で屈曲して、南西から北東方向に伸びる。溝の幅は遺存状況の良好なところで、幅55cmをはかり、深さは51cmをはかる。東側は旧水田の段差によって、かなり削平を受け、深さは約2~3cmとなる。溝底の標高は南西端で29.71m、北東端で29.40mと比高さ31cmをはかる。

埋土は大きく2つに分けられ、上層は黒褐色系の粘質土、下層は灰色系の砂質シルトである。掘立柱建物3の北側を画するように巡ることから、排水溝を兼ね備えた区画溝と考えられる。南西から北東へ走行する。土坑213と重複する。埋土中より土師器片等が出土しているが、いずれも細片で図化することができない。このため時期等については、明らかに出来ない。先述したように掘立柱建物との配置関係から、掘立柱建物3と同様に、古墳時代後期頃と推測される。

溝208



第27図 A区 溝208
出土土器 実測図 (1/4)

調査区のほぼ中央部、M12-NB~PS区にて検出した（第5・16・25図、図版10、付図1）。溝の幅は遺存状況の良好なところで、幅35cmをはかり、深さは22cmをはかる。東側は旧水田の段差によって、かなり削平を受け、深さは約9cmとなる。溝底の標高は西端で29.68m、東端で29.26mと比高さ42cmをはかる。竪穴住居1の西辺および北辺に沿うような形でL字状に巡りながら、直線的に東北東の方向に伸びる。さらに、東側ではいくぶん屈曲して、掘立柱建物1と掘立柱建物2の間を繋うようなかたちで走行する。このことから、溝208は竪穴住居1、掘立柱建物1・2を意識して設けられた排水機能を兼ね備えた区画溝と考えられる。

埋土は2層に分けられる。上層は黄灰色粘質土、下層は黄褐色砂質土である。

<出土遺物> (第27図、図版23)

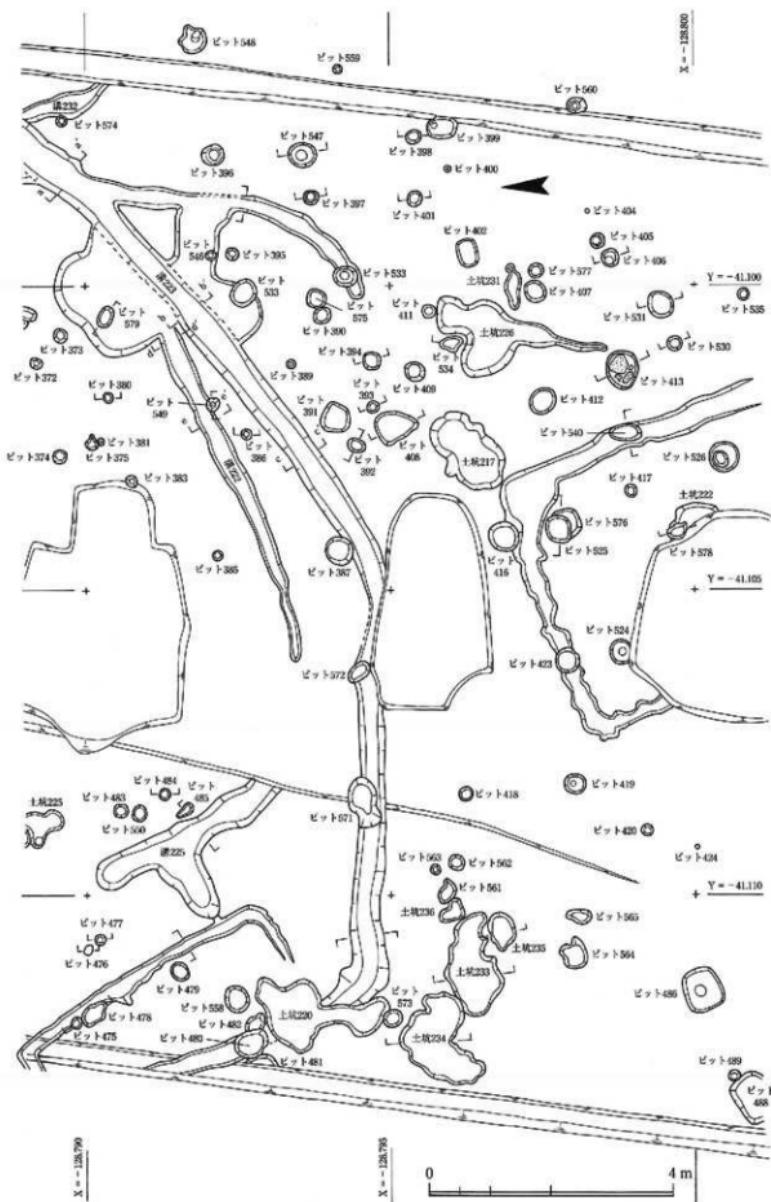
溝内より須恵器壺蓋(11~13)、土師器片等が出土している。(11)は口径11.5cm、残存器高3.7cmをはかる。生焼けで、表面磨耗のため調整等は不明。(12)は口径12.5cm、器高3.35cmをはかる。(13)は口径12.1cm、器高3.65cmをはかる。(12・13)はいずれも東端で出土したものである(付図1参照)。

遺物からみて、溝の時期は陶邑編年のII型式第4段階に相当する頃と考えられる。

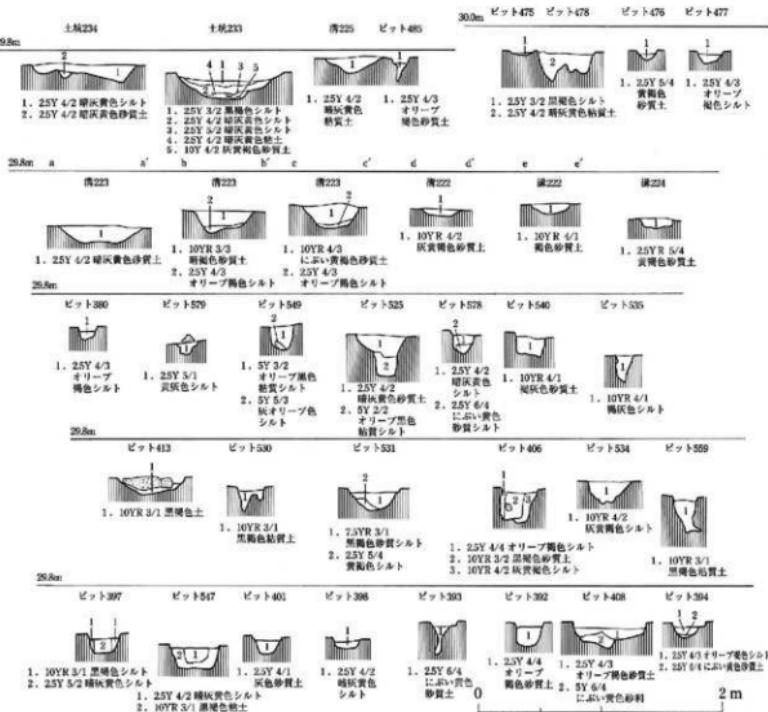
溝222

調査区の南半部、M12-SS~ST区に位置する（第5・28・29図、図版13b）。幅39cm、深さ6~10cmをはかる。西側で検出している溝225と同一溝と考えられる。東側では区画溝223と重複するが、前後関係を明らかにすることは出来なかった。

溝内より、古墳時代後期の須恵器、土師器片が出土している。いずれも細片で図化することができない。



第28図 A区 南半部 ピット、土坑、溝 平面 (1/80)



第29図 A区 南半部 ピット、土坑、溝 断面 (1/40)

溝223

調査区の南半部にて検出された区画溝である（第5・28・29図、図版13b）。幅56cm、深さ15～24cmをはかる。西から東方向へ曲折しながら伸びる。溝222、堅穴住居3と重複し、掘立柱建物8の掘方および土坑220によって切られる。

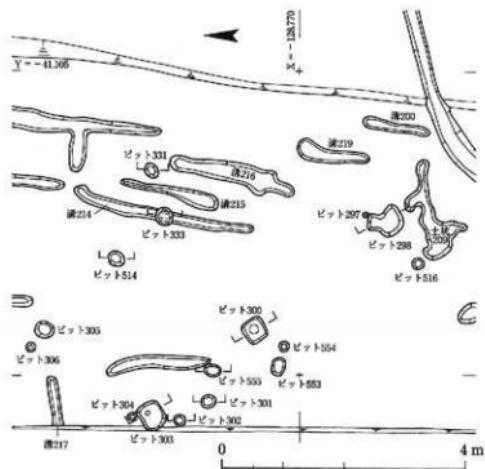
<出土遺物>（第26図、図版23b）

須恵器壺蓋・壺身（10）・甌（208）・長脚二段高坏（209）、土師器等が出土している。長脚二段高坏（209）は脚部のみの破片であるが、2方に2段の透かしを有する。時期は、溝222と同様、古墳時代後期と考えられる。

溝224

調査区の南半部にて検出された区画溝である（第5・28・29図、図版13b）。幅56cm、深さ15～24cmをはかる。東側で溝223と重複し、掘立柱建物7の掘方によって切られる。溝内より須恵器、土師器等の小片が出土している。

時期は、溝222・223と同様、古墳時代後期と考えられる。



第30図 A区 北半部 ピット、土坑、溝 平面(1/80) 第31図 A区 北半部 ピット、土坑、溝 断面図(1/40)

清225

調査区南半部の西寄りで検出された区画溝である（第5・28・29図、図版13b）。幅41~73cm、深さ14cmをはかる。西接する竪穴住居3との配置関係から、排水機能を兼ね備えた区画の溝であると考えられる。溝222とは同一溝。溝内より土師器等の小片が出土している。時期は、溝222~224と同様、古墳時代後期と考えられる。

小講

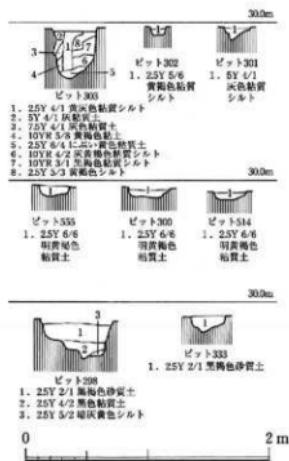
清216

調査区中央西寄り、M12-N S区で検出した（第30図、図版9a、付図1）。径42cm、深さ7cmをはかる。埋土は10Y R5/6黄褐色シルトである。

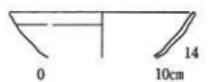
〈出土遺物〉(第32図、図版24 b)

層中より土師質土器片、瓦器碗等を得ている。瓦器碗（14）は復原口径15.2cmをはかる。時期は13世紀頃と考えられる。

他に、A区の北西部、M12-I S・J S区で溝203~207。A区のほぼ中央東寄り、M11-O A・P A区で溝209。A区中央西寄り、M12-M S・N S・O S区で溝210~221。A区中央南東寄り、M11-R A区で溝226・227を検出した(図版3・4、付図1)。これらは、中世の畑作の畝に伴う溝と考えられる。出土遺物は、溝209・210から瓦器腕片、溝215から土師質土器片、溝219から須恵器片等が出土している。時期については、埋土が溝216に共通することから、13世紀頃と考えられる。



第31図 A区 北半部 ピット、土坑、溝 断面図 (1/40)



が溝 第32図 A区 溝216 出土
土器 実測図(1/4)

ピット

ピット303

調査区中央の西壁際、M12-N R区に位置する（第30・31図、図版7）。柱掘方径は39×49cm、深さは42cmをはかる。柱痕跡は径8cm。単独のピットではあるが、掘立柱建物1の柱掘方と比べても、遜色のない大きさを有している。このため西側の調査区外に新規の掘立柱建物の存在を予想することも可能と考えられる。なお、遺物は全く出土せず、ピットの時期は不明である。

ピット234

M11-MA・MB区に位置する（付図1）。径43×36cm、深さ21cmをはかる。埋土は基本層序の第1層で、層中より土師器片、須恵器坏蓋（図版24b-227）等が出土している。

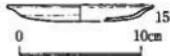
ピット244

M12-NT区に位置する（付図1、図版12a）。径54×43cm、深さ19cmをはかる。埋土は基本層序の第1層で、層中より瓦器椀片、瓦質羽釜（図版24b-224）等が出土している。

ピット252

M11-NA区に位置する（付図1、図版12a）。径51×52cm、深さ10cmをはかる。埋土は基本層序の第1層で、層中より黒色土器A類、埴輪片（図版24b-226）等が出土している。

ピット435



掘立柱建物6の北1.5m、M12-Q S区に位置する（第23図、図版4）。径27cm、深さ17cmをはかる。

第33図 A区 ピット435

出土土器 実測図

(1/4)

<出土遺物>（第33図、図版24b）

土師質小皿（15・225）が出土している。（15）は復原口径11.8

cm、器高1.3cmをはかる。「て」字状口縁部をもつ。

ピット547

調査区南半部、M11-SA区に位置する（第28・29図）。径43×41cm、深さ21cmをはかる。柱痕跡は径19cm。掘立柱建物7に重複する。埋土中より瓦器椀、黒色土器A類椀、土師器片等が出土している。

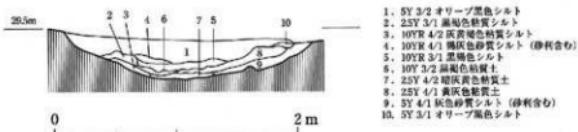
ピット579

調査区南半部のやや東寄り、M12-ST区に位置する（第28・29図）。径35×23cm、深さ10cmをはかる。掘立柱建物6の南庇柱となる可能性も考えておきたい。埋土中より土師器羽釜（図版24b-223）、土師器片等が出土している。

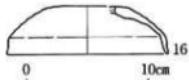
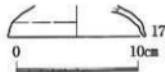
自然河川

自然河川201

調査区南端にて検出した（第34図、図版13a、付図1）。幅0.5～3.8m、深さは43cmをはかる。南接する自然河川202および掘立柱建物4・5の柱掘方と重複し、これらを切る。埋土中より須恵器坏蓋（第35図16）、黒色土器、土師器等が出土している。



第34図 A区 自然河川201 断面図 (1/40)

第35図 A区 自然河川201 出土
土器 実測図 (1/4)第36図 A区 土坑226 出土土器
実測図 (1/4)

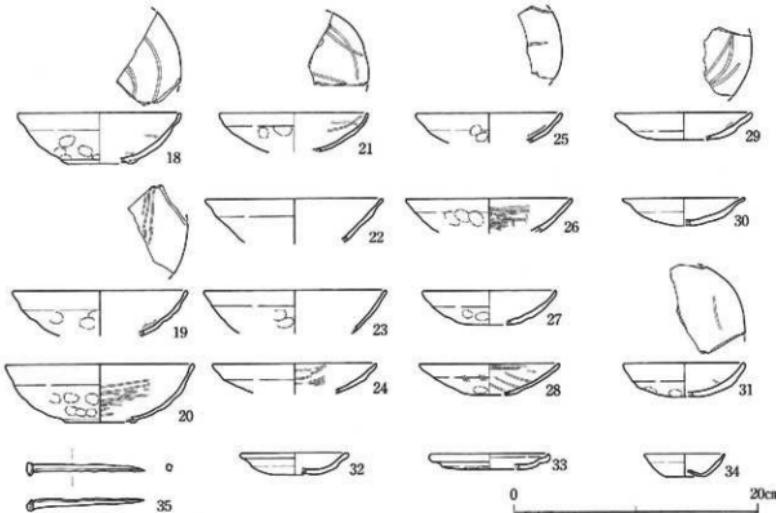
自然河川202

調査区の南端にて検出した幅2.0m以上、深さ0.66mをはかる自然河川（付図1、図版13a）。南側はB区で検出された自然河川1-Bへと続く。自然河川201に重複し、これに切られる。また、掘立柱建物4の柱掘方ピット542を切る。埋土中より須恵器、土師器片等が出土している。

落ち込み

落ち込み201

A区の北端にて検出した（第5図、図版5、付図1）。北西から南東へ走行する自然流路である。北肩は調査区外にあり、幅10m以上、深さ1.77mをはかる。埋土は大きく5層に分けられる。



第37図 A区 落ち込み201 出土土器・鉄釘 実測図 (1/4)

1層は黄色ブロック土（整地土）、2層は暗灰色砂質土（3～5mm前後の黄白色粒を含む）、3層は暗灰色粘質土（3～5mm前後の黄白色粒を含む）、4層は暗灰色砂質土、5層は砂疊層である。
＜出土遺物＞（第37図、図版24 b・25 a・35）。

2層から土師器、瓦器椀（23・27）、土師質小皿・羽釜、青磁椀、白磁、唐津椀、肥前系椀、備前擂鉢、須恵器、瓦。3層から瓦器椀（21・25・29・231）・皿、土師質小皿（34・234）・羽釜、瓦質三足（235）、陶器、備前甕、白磁椀、青磁椀（233）、東播系練鉢、瀬戸おろし皿（232）。4層から瓦器椀（20・22・24・26・30）・皿（32）、土師質小皿（33）、須恵器、瓦質羽釜、鉄釘（35）。5層から土師器高坏（228）・甕（229・230）等の遺物が出土している。また、西肩から瓦器椀（18・19）、瓦器小椀（31）が出土している。

瓦器椀（18～22・24～26・29・30・231）は、高台をもつ（18～20）、高台をもたない（27～29）がある。前者は口径13.2～15.4cm・器高4.2～4.75cm、後者は口径10.1～11.5cm・器高2.2～2.8cmをはかる。（30・31）は小椀で、（30）は口径10.0cm、器高2.3cm。（31）は口径9.7、器高2.8cmをはかる。

これらの遺物から、2層は近世、3層は室町時代、4層は鎌倉～室町時代、5層は古墳時代前期頃に形成されたものと考えられる。このことから、実際に自然河川として機能していたのは鎌倉時代以前であると考えられる。なお、3層から皇宋通宝1点、不明錢貨1片が出土している。

第Ⅲ章 B・C区の調査成果

第1節 基本層序と概要

B区はA区の南端に接する。幅は北端で24m、南端で19.5m、延長約55mをはかる。現地表面の標高は調査区北端で32.6m、南端で29.65mをはかり、途中に段をもって南へ急傾斜する。

C区は幅15m、延長約26.5mをはかる。現地表面の標高は調査区北端で31.9m、南端で29.7mをはかり、南へ急傾斜する。いずれの調査区も調査前は、建て替えに備えて整地されていた。

本調査区の基本層序は、B区東側の土層断面で観察される土層を基本土層としている。A区のものと基本的に同じである。第0層～第4層に大別される（第38図）。

第0層 盛土及び旧耕作土・床土に相当する。 C区では盛土は層厚3.2～0.8m、旧耕作・床土は約20cmをはかる。B区では盛土は層厚3.3～0.5m、旧耕作土・床土は約20cmをはかる。

第1層 中近世から昭和30年代の耕作土・床土及び包含層に相当する。層厚約20cmをはかる。

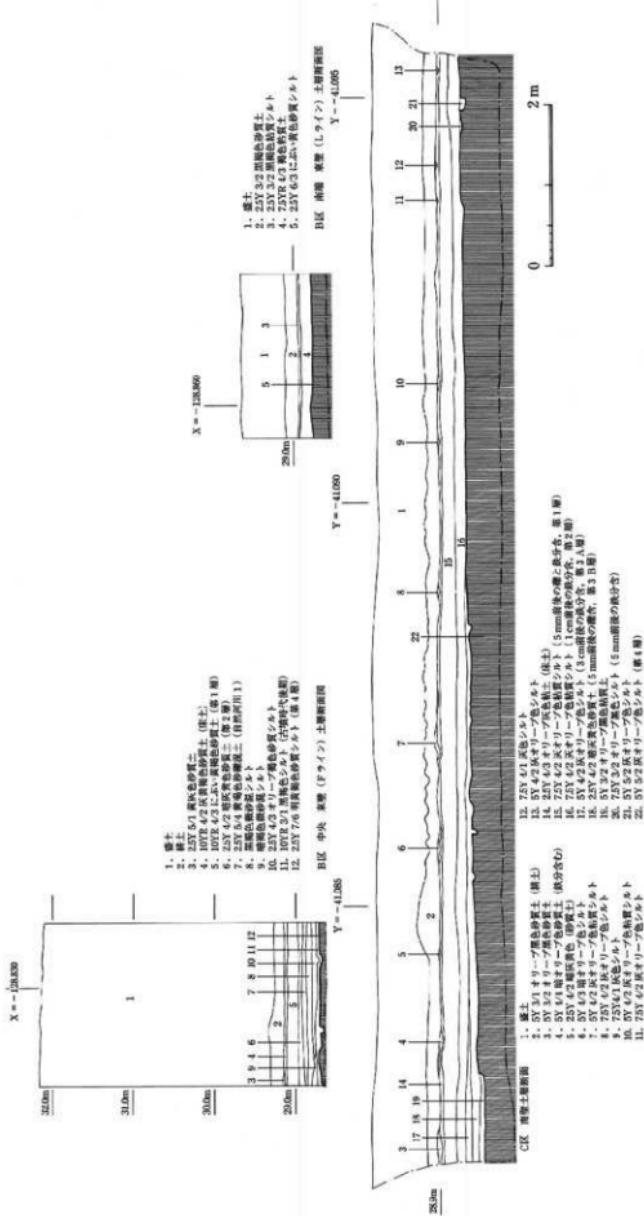
B区では、層中より14世紀の瓦質羽釜・鍋・擂鉢、13世紀の瓦器椀、5～6世紀の須恵器坏蓋・坏身、8世紀の須恵器坏蓋・土師質羽釜・皿、備前焼、13～14世紀の東播系甕・練鉢、青磁椀・白磁椀・皿、瀬戸美濃焼、黒色土器、陶器、土師器、招福元宝、元豊通宝、弥生土器等の資料を得ている。C区では、須恵器坏蓋・坏身・土師質皿・鍋、瓦器椀（13世紀～14世紀）、陶器、東播系練鉢、瓦質土器、瀬戸美濃焼、美濃天目、土鍤、青磁、白磁、備前擂鉢・甕・瓦、弥生後期土器等の資料を得ている。

第2層 2.5Y R4/2暗灰黄色砂質土・7.5Y R4/2灰オリーブ色粘質シルト。 層厚10～15cmで、B区の北半部を除いて広く堆積している。B区では、層中より須恵器坏身（8世紀）、須恵器、瓦器椀、青磁、白磁、土師質皿・土師器、熙寧元宝、弥生土器片等の資料を得ている。C区では、瓦器椀（13世紀）、土師質土器、須恵器、須恵器（7世紀）、瓦質羽釜、青磁椀、弥生後期土器等の資料を得ている。

第3層 C区の東半部においてのみ、その堆積が確認された。 層厚は10～15cm。2つに細別される。A層は5Y4/2灰オリーブ色シルト、B層は2.5Y4/2暗灰黄色砂質土（5mm前後の礫をわずかに含む）に分けられる。層中より須恵器、土師器、弥生土器等が出土しており、第3層は弥生時代から古墳時代にかけての包含層と考えられる。

第4層 2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト。 上面で弥生時代後期から中世の遺構が検出されている。

B・C区の調査では、弥生時代後期から中世にかけての溝數十条・土坑數十基・柱穴數十個・落ち込み等、多くの遺構を検出している。これらはほとんどが第4層（地山）上面で確認された。



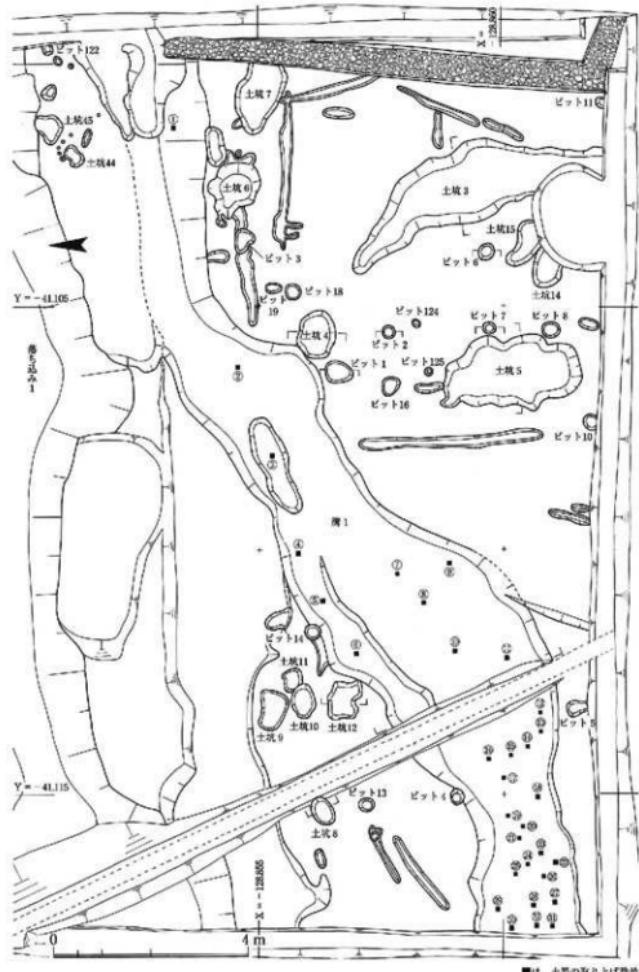
第38図 B・C区 土層断面図 (1/60)

第2節 検出された遺構と遺物

溝

溝1

B区の南寄りにて検出した、南西隅から北東方向へ走行する弥生時代後期の溝である（第39・40図、図版16）。C区の溝33と同一の溝。西側で落ち込み1と重複し、これに切られる。



第39図 B区 南半部 土坑、溝、ピット 平面図 (1/100)

溝の幅は残存状況の良好なところで、幅3.55mをはかり、深さは31cmをはかる。溝内から弥生時代後期中頃の土器が集中して出土している。中には完形を維持したものも認められた。

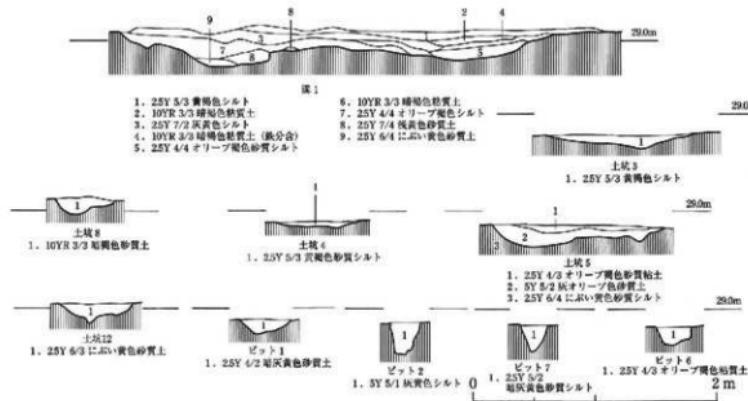
<出土遺物> (第41~43図、図版25 b ~28)

(36~40・49~51) は広口壺で、(40) は口径13.8cm、器高20.8cm、底径4.6cmをはかる。(41) は直口の小壺で、復原口径6.0cm、器高9.8cm、底径2.6cmをはかる。細頸壺 (42) は口頸部のみ残存し、口径8.6cmをはかる。

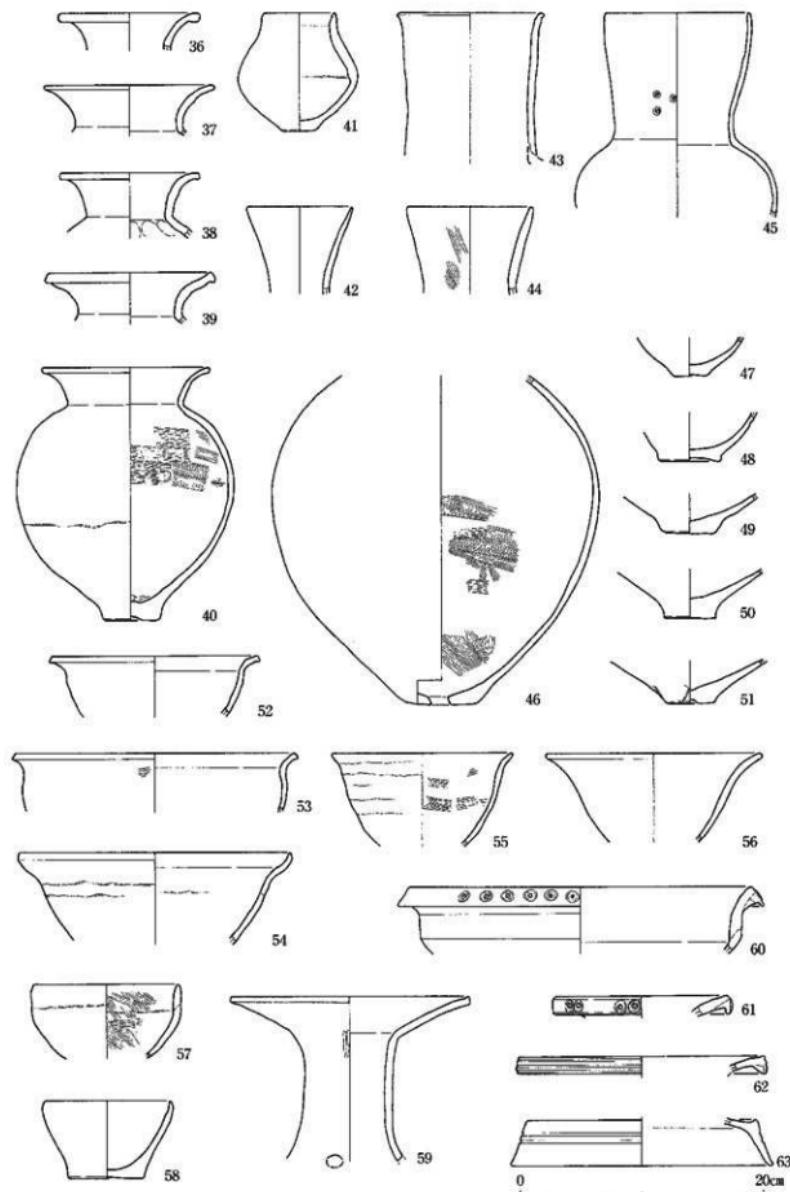
長頸壺には口頸部が円筒状のもの (43)、外傾気味に立ち上がるるもの (44) がある。甕には口縁部が「く」の字状に外反するもの (75・76) と、外反して端部に面をもつもの (80・81・84)、端部を軽くつまみ上げるもの (82・85・86)、端部を上下に肥厚させ、面をもつもの (90)、受け口状を呈するもの (87~89) がある。(90) は復原口径16.2cmをはかり、口縁端部外面に沈線を2条めぐらしている。

(65・67~69・72) は高杯で、(72) は裾径14.4cmをはかり、裾部はいくぶん内湾気味に広がっている。中実の脚部をもつ。(61・62・236・237) は器台で、口縁部端部に円形浮紋や竹管紋、沈線紋を飾っている。(238) は両把手付鉢で、左右に逆U字形の把手を取り付けるタイプのものである。

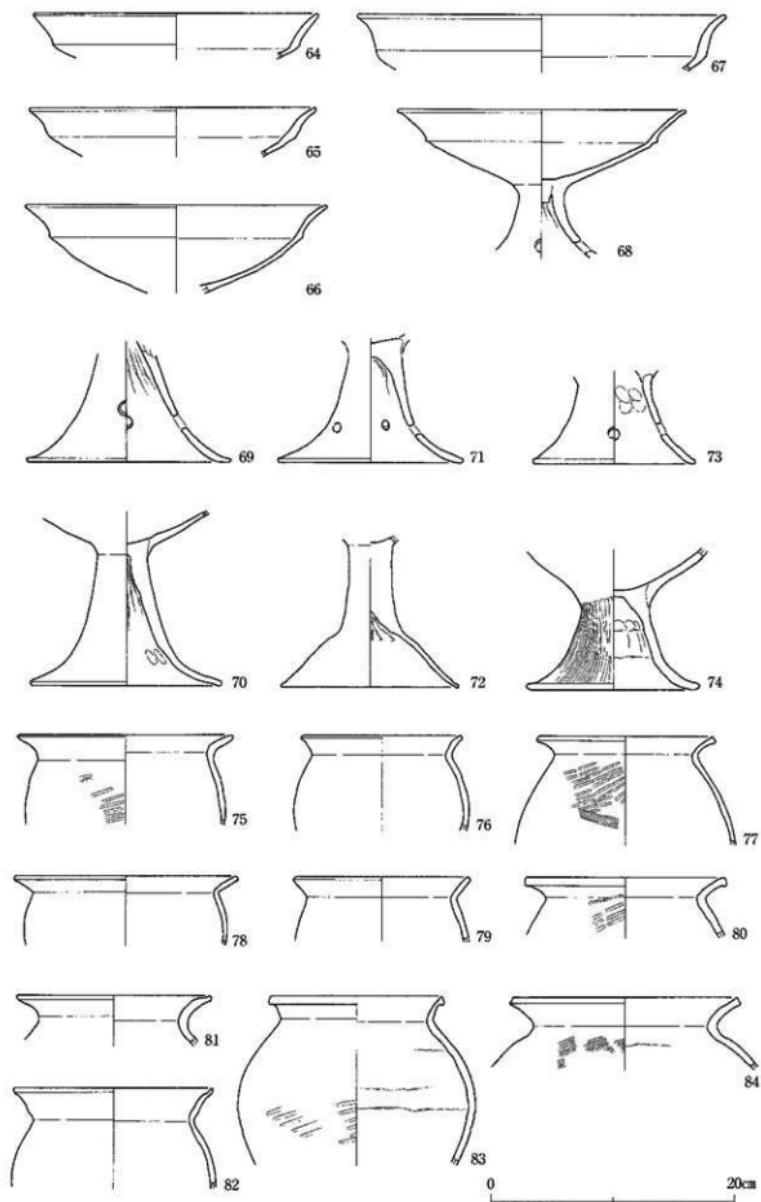
(60) は大型の装饰高杯で、復原口径は27.9cmをはかる。端部に円形浮紋+竹管紋を施し、その上に赤色顔料を塗布している。生駒西麓産の胎土をもつ。鉢 (52~55) には、口縁部が「く」の字状に緩やかに外反するもの (52・53・55)、受け口状を呈するもの (54) がある。(57・58) は口縁部が内湾気味に立ち上がる小型鉢で、口径はそれぞれ11.7cm・11.2cmをはかる。(63) は器台もしくは装饰高杯の脚部と考えられる。(103) は底部有孔土器で、底部に1cm前後の孔を焼成前に穿つ。



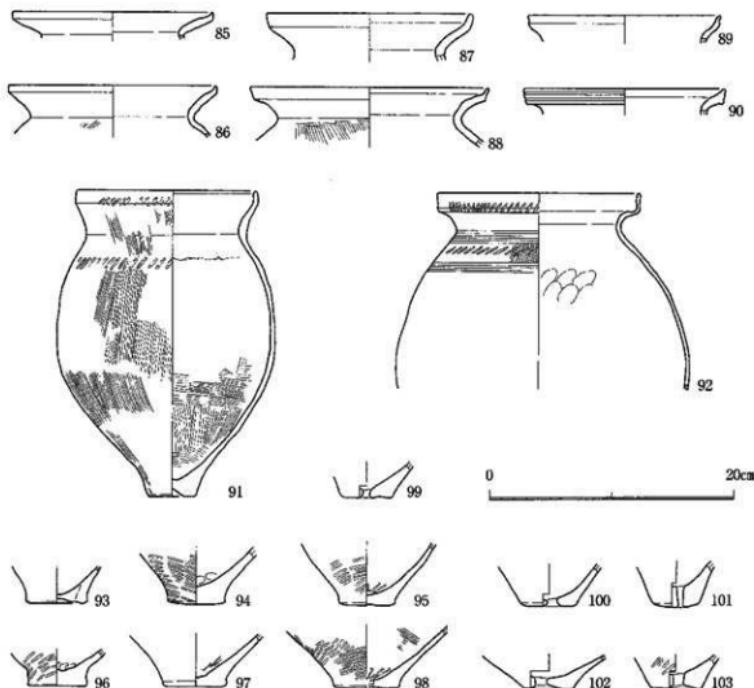
第40図 B区 南半部 溝1、土坑3~5・8~12、ピット1・2・6・7 断面図 (1/40)



第41図 B区 满1、土坑1、土坑2 出土土器 実測図 (1/4)



第42図 B区 溝1、土坑1、土坑2 出土土器 実測図 (1/4)



第43図 B区 溝1、土坑1、土坑2 出土土器 実測図（1/4）

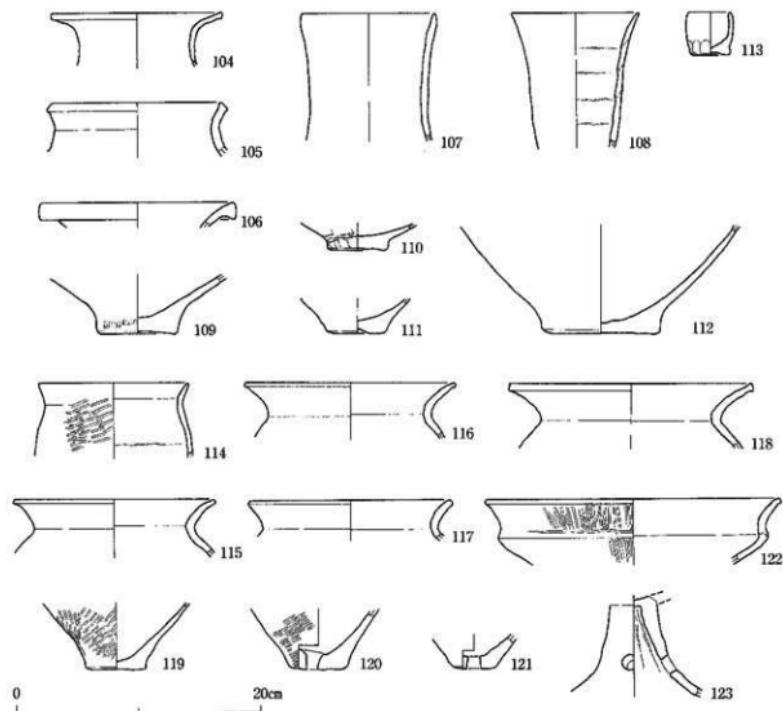
溝2

B区のほぼ中央で検出した、東西方向に走行する弥生時代後期の溝である（図版18a・21b、付図2）。C区では、向きを北東方向にとる。B区では溝の上部及び西側部分は、昭和40年代の建物の基礎坑によりかなり擾乱され、西側部分については溝の痕跡すら明らかに出来なかった。

溝の幅は残存状況の良好なところで、幅6.20mをはかり、深さ28cmをはかる。溝内から弥生時代後期中頃の壺、甕、長頸壺、高坏、ミニチュア、底部有孔土器等が出土している。埋土は黒色微砂層である。

<出土遺物>（第44図、図版30）

(104~106・109~112)は壺形土器。(114~119)は甕形土器。(107)は長頸壺形土器で、復原口径10.8cmをはかる。(108)は細頸壺形土器で、復原口径10.3cmをはかる。(122・123)は高坏形土器である。(122)は復原口径23.8cmをはかる。溝1出土のものと比べて口縁部の開きが弱い。坏部外側及び底部外側は縦方向にヘラミガキ調整を施している。(113)はミニチュア土器。(120・121)は底部有孔土器である。



第44図 B・C区 溝2 出土土器 実測図(1/4)

溝4

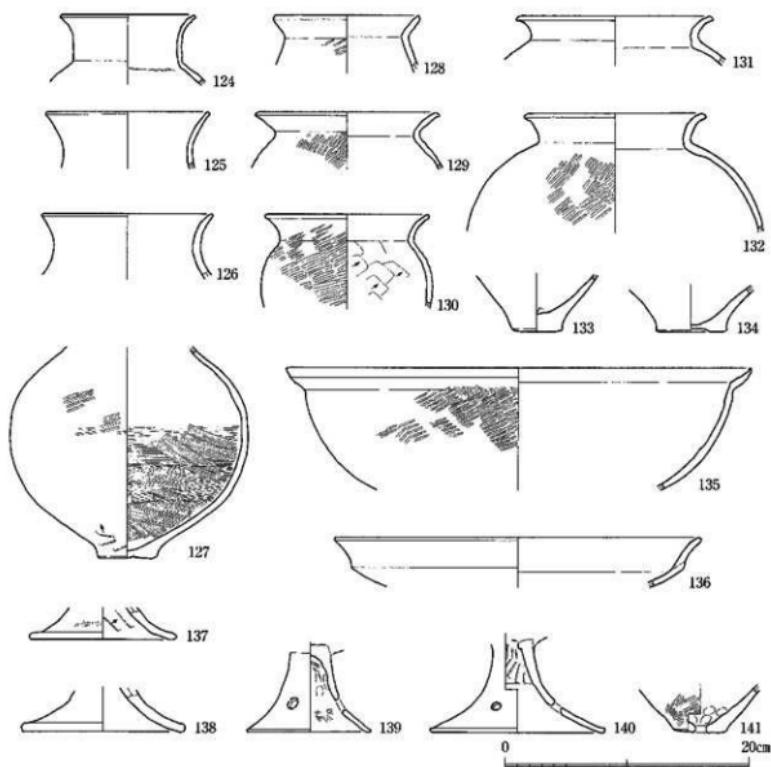
C区の北東隅にて検出した、北西から南東方向に走行する弥生時代後期の溝である（付図2、図版22b）。幅は約2.5m、深さ約1mをはかる。埋土は大きく2つに分けられ、上層は黒褐色粘質土、下層は黒褐色粘質土（砂礫混じり）である。溝3と重複し、これに切られる。

<出土遺物>（第45図、図版31）

(124~127・134)は壺形土器。(128~133)は壺形土器。(136~140)は高環形土器。(135)は鉢形土器。(141)は底部有孔土器。なお、(125・129~131・133・138・140)は上層から、(124・126~128・132・134~137・139・141)は下層から出土した。

溝5

B区の北半部で検出した、西から東方向へ走行する自然流路である（図版19、付図2）。幅は残存状況の良好なところで、幅11.2mをはかり、深さ2.63cmをはかる。埋土は、1~5層に分けられる。1層は暗灰色砂質粘土、2層は暗灰色砂質シルト、3層は暗灰色砂質土、4層は疊+粗砂、5層は疊層である。



第45図 C区 溝4 出土土器 実測図 (1/4)

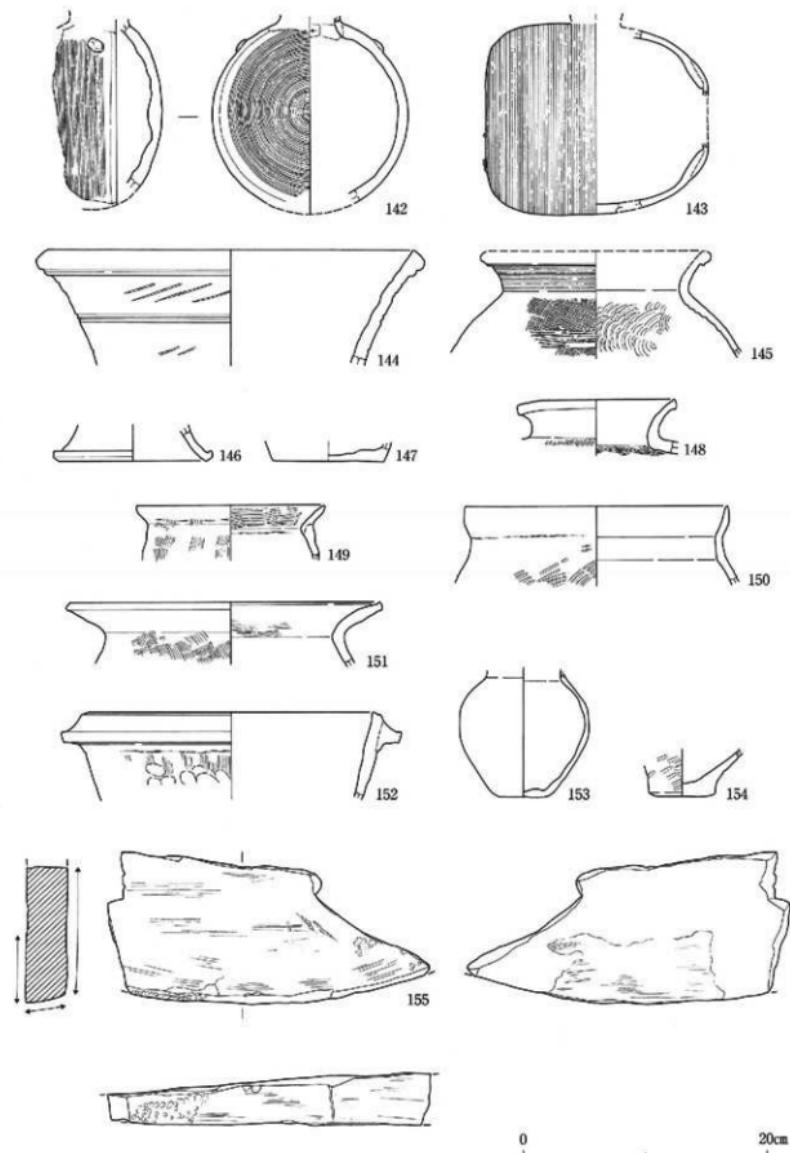
<出土遺物> (第46図、図版32)

須恵器提瓶 (142)・横瓶 (143・148)・甕 (144)・壺 (145)・脚部 (146)、土師器甕 (149~151)・壺 (153)・羽釜 (152)、弥生土器甕底部 (154)、砥石 (155) 等が出土している。

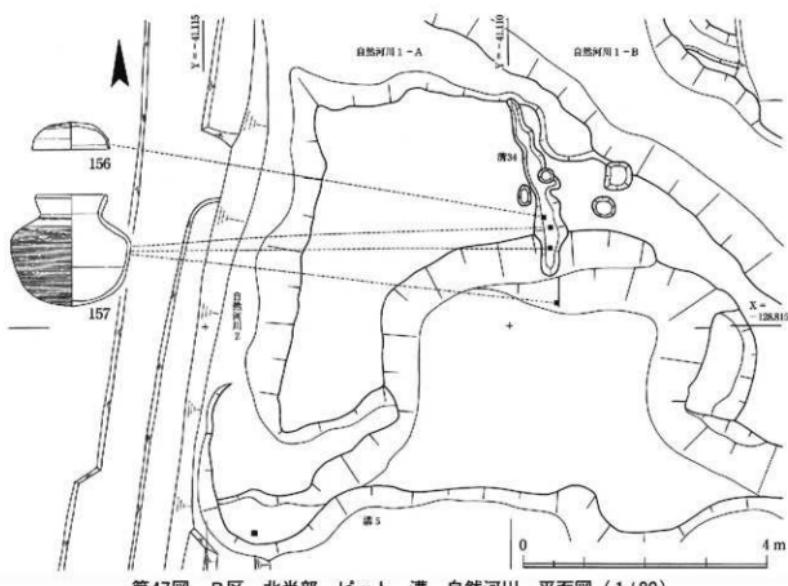
なお、1層から須恵器壺底部 (147)。1~2層から須恵器甕 (144)。3層から須恵器横瓶 (143)、土師器甕 (151)・羽釜 (152)、砥石 (155)。4層から須恵器横瓶 (148)、土師器甕 (150)、弥生土器甕底部 (154)。5層から須恵器壺 (145)・脚部 (146)、土師器甕 (159)、弥生土器甕底部 (154)。南側肩口に堆積する黒褐色微砂から須恵器提瓶 (142)。北肩口の黒色土(最下層)から土師器壺 (153) が出土した。土師器壺 (153) は口縁部を欠損し、現存高10.7cm、体部最大径10.5cm、底径3.5cmをはかる。

溝34

B区の北半部、N12-C S区にて検出した (第47図、図版20)。幅32cm、深さ20cmをはかる。



第46図 B区 溝5 出土土器・石製品 実測図 (1/4)



第47図 B区 北半部 ピット、溝、自然河川 平面図 (1/80)

延長2.99mを確認している。溝5と重複する。

<出土遺物> (第48図、図版33a)

須恵器壺蓋 (156)・短頸壺 (157)、土師器甕片等が出土している。須恵器壺蓋 (156) は復原口径12.3cm、器高4.5cmをはかる。頂部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。短頸壺 (157) は口径11.3cm、器高18.2cm、体部最大径は19.5cmをはかる。口縁部内外面は回転ナデ、体部外面は回転カキ目、内面はナデ調整を施している。なお、破片の一部は溝5より出土した。

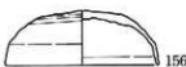
溝36A

B区の北端、N11・12-B T・B A区に位置する (第49・50図、図版21a)。西から東方向へ走行する。幅は残存状況の良好なところで、幅74cmをはかり、深さ26cmをはかる。

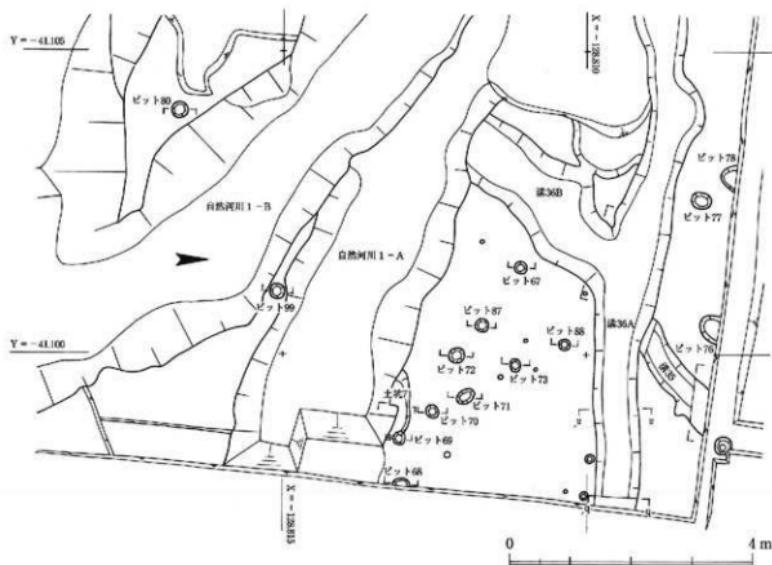
溝36Bと重複し、溝35を切る。溝内より土師器甕片が出土している。時期は10世紀頃と推定される。

溝32

C区の南寄り、N11-K C・L D区にて検出した弧状の溝である (第51・52図、図版22b)。幅は残存状況の良好なところで、幅19cmをはかり、深さ13cmをはかる。



第48図 B区 溝34 出出土器実測図 (1/4)



第49図 B区 北端 ピット、溝 平面図 (1/80)

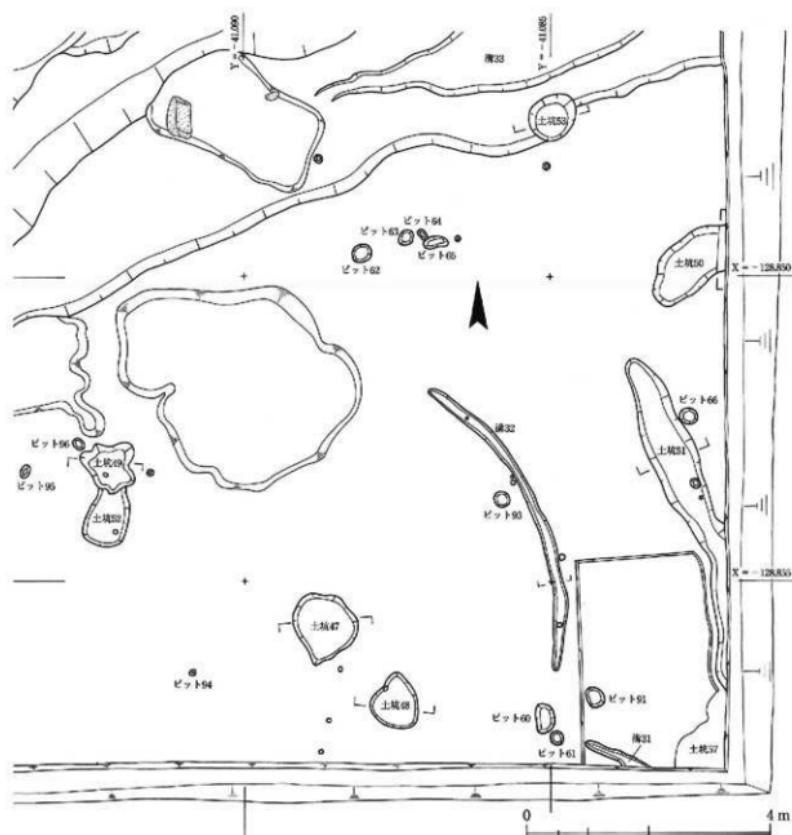


第50図 B区 北端 ピット、溝 断面図 (1/40)

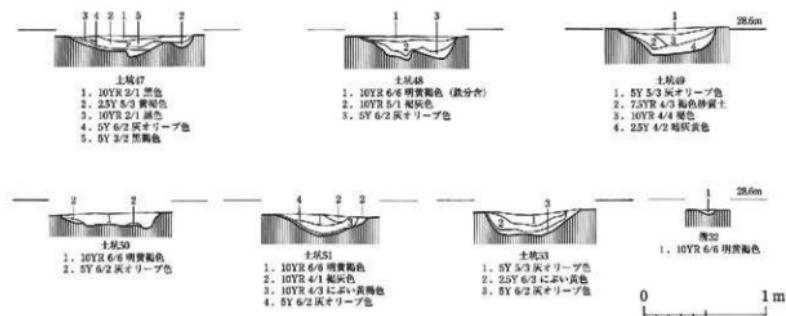
埋土中より、弥生時代後期の壺片が出土している。土坑47とセットになるかもしれない。

清33

C区のはば中央部で検出した（第51図、図版22b）。上部は蒸し込み1に削平される。B区で



第51図 C区 土坑、ピット、溝 平面図 (1/80)



第52図 C区 南半部 土坑47~51・53、溝32 断面図 (1/40)

検出されている弥生時代後期の溝1と同一の溝。

土坑

土坑1

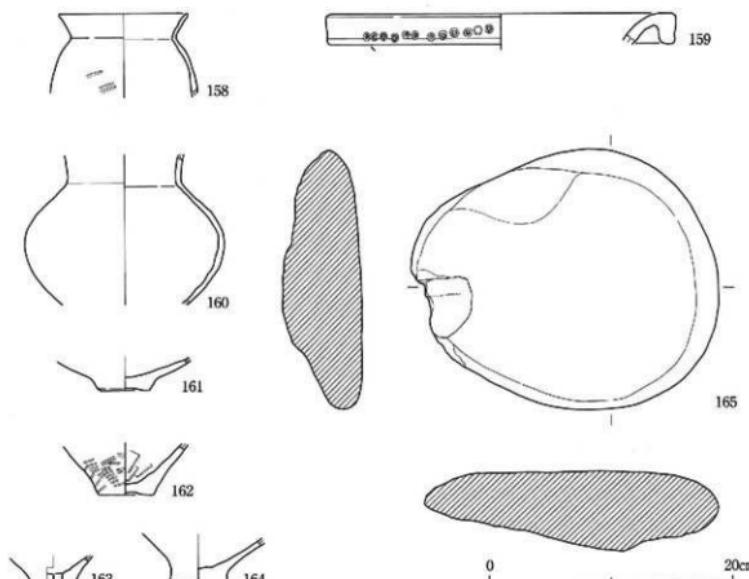
B区南端の東壁際、KA・KT区にて検出した（第39図、図版17）。本来は、土坑2とともに溝1と同一の遺構で、溝1の窪みに相当する。径 2.26×1.15 m、深さ28cmをはかる。坑内より弥生時代後期の壺・甕・高坏・器台・両把手付鉢・有孔底部等が出土している。

<出土遺物>（第41～43図、図版25b・26・29a）

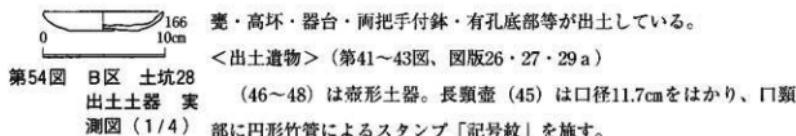
器台（59）は口径19.3cmをはかる小型品で、縁部には三方に円形の透かし孔をあけている。外側はヘラミガキ調整、内面は磨耗のため不明。土坑2にまたがって出土した。甕（77・79）は「く」の字状に外反する口縁部をもつ。（66・71・74）は高坏で、（74）は鉢の脚部の可能性もある。両把手付鉢（239）は逆U字形の把手が剥がれたもの。（102）は底部有孔土器で、底部に1cm前後の孔を焼成前に穿っている。

土坑2

B区南端の東壁際、KA・KT区にて検出した（第39図、図版17）。本来は、土坑2とともに溝1と同一の遺構で、溝1の窪みに相当する。土坑1に切られることから、溝1の堆積土の下位に相当する。径は 2.32×0.97 m、深さは30cmをはかる。坑内より弥生時代後期の壺・長頸壺・



第53図 B・C区 土坑3-54-57-72、ピット91 出土土器・石製品 実測図(1/4)



壺 (78・83・91・92・97) には口縁部が「く」の字状に外反するもの (78)、外反して端部に面をもつものの (83)、受け口状を呈する近江系のもの (91・92) がある。(91) は口径14.6cm、器高25.0cm、底径2.4cmをはかる。口縁端部外面および肩部に櫛描き列点紋を巡らしている。(92) は口径16.4cmをはかる。口縁端部外面に櫛描き列点紋、肩部に櫛描き直線紋と列点紋を巡らしている。高坏 (64・70・73) のうち (73) は鉢の脚部の可能性もある。(56) は鉢。(100・101) は底部有孔土器で、底部に1cm前後の孔を焼成前に穿っている。

土坑3

B区の南端東寄り、N12-L T・M Tに位置する溝状の大型土坑である (第39・40図、図版18b)。平面プランは不定形を呈し、径5.65×1.65m、深さ14cmをはかる。坑内より弥生時代後期の壺・壺 (第53図158、図版29b)・高坏等が出土している。

土坑28

B区中央やや北寄り、N12-F S区に位置する (付図2、図版19)。平面プランは不定形を呈し、径5.94×2.15m、深さ67cmをはかる。坑内より土師器小皿 (第54図166) が出土している。口径9.8cm、器高1.6cmをはかる。底部外面に回転糸切り痕が観察された。

土坑54

B区、N12-I Q区に位置する (付図2)。径は89×67cmをはかる。坑内より弥生土器壺底部 (第53図161、図版29b)、須恵器片等が出土している。

土坑57

C区の南東隅、N11-L Dに位置する (第51図、図版22b)。土坑の大半は調査区外に広がっているため、規模・性格等は明らかではない。現状で径は1.45以上×0.82m以上をはかる。

<出土遺物> (第53図、図版29b・35)

弥生時代後期の壺 (162・240~242)・高坏・壺、磨り石 (165) 等が出土している。壺 (241) は近江系の受け口状口縁部で、端部外面に櫛描き列点紋を巡らしている。

土坑72

B区北半部、N12-E T区に位置する (付図2、図版19)。径2.02×0.76m、深さ約15cmをはかる。北接する溝5に北側の大半を削平されているため、規模・性格等は明らかではない。

出土遺物は弥生時代後期の長頸壺 (160)・底部有孔土器 (163) がある (第53図、図版29b)。

ピット

ピット91

C区の南東隅、N11-L D区に位置する (第51図、図版22b)。径は35×29cm、深さは9cmを

はかる。出土遺物に弥生時代後期の器台がある。器台（159）は復原口径27.4cmをはかる大型品。口縁端部外面に円形竹管紋を巡らし、その上に赤色顔料を塗布している。胎土は生駒西麓産。なお、壺形土器の可能性も考えられる（第53図、図版24b）。

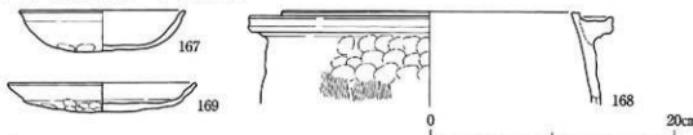
自然河川

自然河川1

B区の北半部では、旧耕土を除去すると、基本層序の第1層、そして砂礫層の堆積が認められた。調査時点では、この砂礫層を自然河川1としていた。本來、この砂礫層は自然河川1-A・B及び溝5の最上層に相当するものである。B区の中央から北端にかけて堆積していた。

<出土遺物>（第55図、図版33）

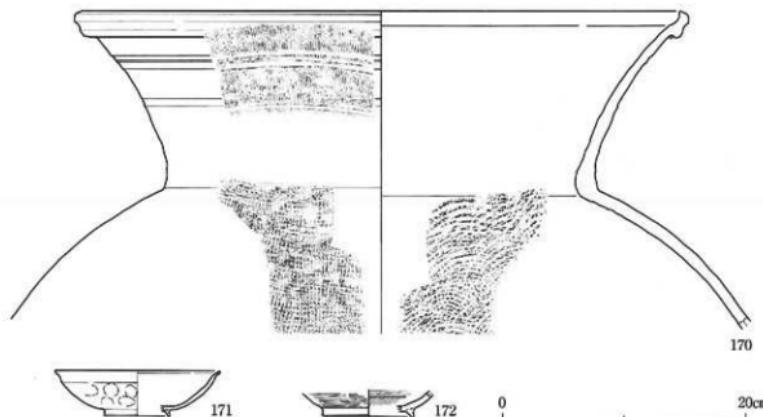
黒色土器A類坏、須恵器壺、土師器坏（167）・羽釜（168）、埴輪（252）、灰釉陶器？等が出土している。土師器坏（167）は口径13.5cm、器高3.4cmをはかる。土師器羽釜（168）は口径23.2cmをはかる。体部外面はハケ日調整。



第55図 B区 自然河川1・2 出土土器 実測図（1/4）

自然河川1-A

B区の北端付近で検出された、北西から南東方向に走行する自然河川である（第49図、図版21a、付図2）。自然河川1-Bと重複し、これを切る。幅は残存状況の良好なところで、幅2.3



第56図 B区 自然河川1-A 出土土器 実測図（1/4）

mをはかり、深さ60cmをはかる。

<出土遺物> (第56図、図版33 b)

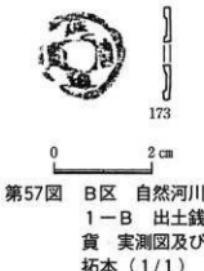
須恵器壺 (170)、土師器坏 (171・243・244)・皿 (245)・楕 (246・247)・把手 (249)、黒色土器B類楕 (172)、黒色土器A類坏 (250)、埴輪 (248・251) 等が出土している。須恵器壺 (170) は口径50.2cmをはかる大型品。なお、埴輪 (248・251) は、5世紀後半～末頃のもので混入品であろう。

自然河川1-B

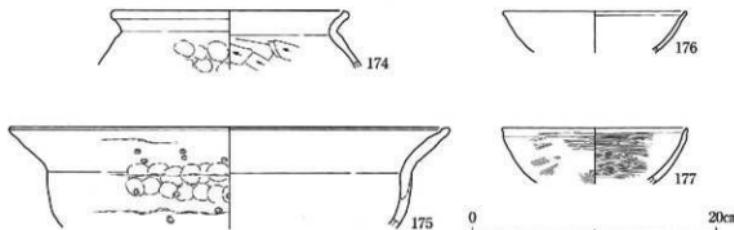
B区の北端付近で検出された、北西から南東方向に走行する自然河川である (第49図、図版21a、付図2)。自然河川1-Aと重複し、これに切られる。幅は残存状況の良好なところで、幅2.8mをはかり、深さ0.82～1.0mをはかる。北西隅の2ヶ所に杭列をもうけている。

<出土遺物> (第57・58図、図版34・35)

土師器楕 (176)・坏 (254)・壺 (174・255・256)・鍋 (175)、黒色土器B類楕 (177)、黒色土器A類坏 (253)、延喜通宝 (173)、須恵器壺 (257)・堤瓶、等が出土している。延喜通宝 (173) は延喜7(907)年に鋳造された皇朝十二文銭で、径1.9×1.85cm、厚さ0.15cmをはかる。



第57図 B区 自然河川
1-B 出土銭
貨 実測図及び
拓本 (1/1)



第58図 B区 自然河川1-B 出土土器 実測図 (1/4)

自然河川2

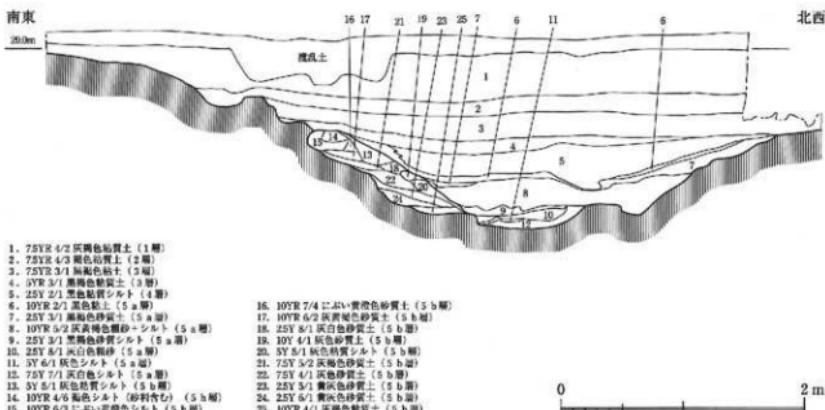
B区の北端西壁際で検出された (第47図、図版19)。北から南方向に走行する自然河川である。西肩は調査範囲外にあるため、規模等は明らかでないが、幅は1.6m以上をはかり、深さ1.17mをはかる。自然河川1-B、溝5に重複する。

<出土遺物> (第55図、図版33 a)

土師器皿 (169)・刷把手、須恵器等が出土している。土師器皿 (169) は口径15.1cm、器高2.45cmをはかる。口縁部は内外面に横ナデ調整を施している。

落ち込み

落ち込み1



第59図 B区 落ち込み1 東壁 断面図 (1/40)

B～C区の南西部にて検出した（付図2、図版16a・22）。幅約8m、深さ1.46～1.91cmをはかる。南西から北東方向に走行する。埋土は大きく5つに分けられる（第59図）。1層は灰褐色粘質土、2層は鉄分を多く含む褐色粘質土、3層は黒褐色粘質土、4層は粘土ブロック土、5層は砂疊+シルト。なお、5層はa・bの2つに細分される。出土遺物から、5b層は弥生時代後期に形成されたものと考えられる。

<出土遺物>（第60図、図版34b・35）

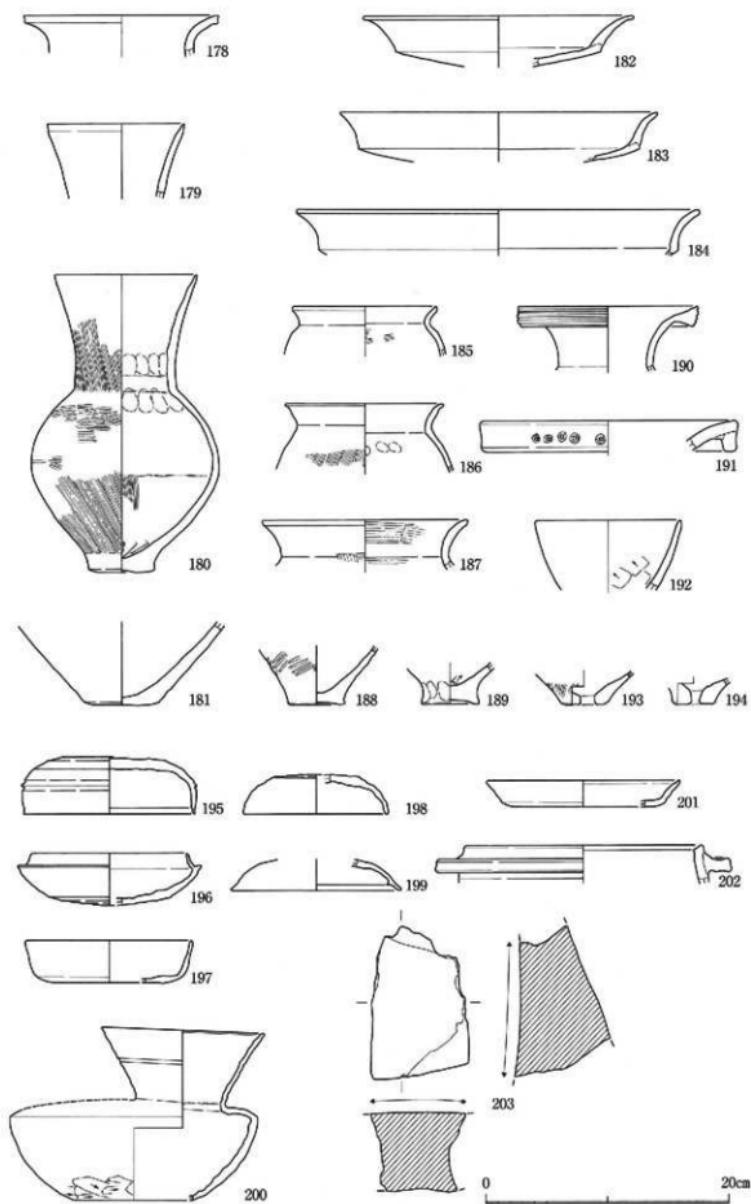
弥生時代後期の壺（178・181）・長頸壺（179・180）・壺または器台（190・191）・高坏（182～184）・鉢（192）・甕（185・186・187・188・189）・底部有孔土器（193・194）・須恵器坏蓋（195・198・199）・坏身（196・197）・平瓶（200）・土師器羽釜（202）・皿（201）、砥石（164）等が出土している。

1層から弥生時代後期の甕（185）・器台（191）・底部有孔土器（194）・須恵器坏身（197）・すり鉢、黒色土器A類椀、土師器羽釜（202）、東播系練鉢。2層から弥生時代後期の底部有孔土器（193）、土師器、須恵器。3層から弥生時代後期の甕（189）・高坏、砥石（164）。4層から弥生時代後期の高坏・壺（178・181）・長頸壺（179・180）・甕、須恵器。5層から弥生時代後期の長頸壺・壺（187）・甕（186）・鉢（192）・高坏（182～184）、須恵器提瓶・坏蓋（195・199）。

なお、C区の3層以下から土師器皿（201）、須恵器坏身（196）。下層より弥生時代後期の壺または器台（190）、須恵器坏蓋（198）、平瓶（200）が出土した。

落ち込み2

C区のほぼ中央、東壁際にて検出した（付図2、図版22b）。幅100～250cm、深さ48cmをはかる。落ち込み1に重複する。遺物は、弥生時代後期の土器片を得ている。



第60図 B・C区 落ち込み1 出土土器・石製品 実測図 (1/4)

第Ⅳ章 まとめ

福井遺跡は、弥生時代後期から平安時代を中心とする遺跡であることが、今回の調査によって明らかとなった。

調査によって、掘立柱建物9棟、竪穴住居3軒、溝數十条、土坑數十基、柱穴約七百基・自然河川など、多くの遺構を検出している。これらはすべて基本層序の第4層（地山）上面で確認されたものである。

（弥生時代）

B・C区にて検出している。いずれも弥生時代後期中ごろに属する。溝1～4、溝32、土坑57、落ち込み1の最下層、ピット91等がある。溝1・2は弥生時代後期中ごろの集落域の北縁を画する溝である可能性が考えられた。なお、遺構の密度及び包含層の厚さから、当該期の中心は調査区の南東に広がっているものと推測される。

（古墳時代）

前期の遺構は、A区で検出された自然河川（落ち込み201の最下層）のみで、遺構の中心は、古墳時代後期で、調査区の全域で検出された。おもな遺構は、掘立柱建物5棟、竪穴住居3軒、溝34・201・202・208・222～225、自然河川（溝5）等をあげることができる。

掘立柱建物、竪穴住居はいずれもA区で検出され、その配置関係によって大きく北と南の2群に分けることができる。北群は掘立柱建物1～3・9および竪穴住居1。南群は掘立柱建物4および竪穴住居2・3である（第5図）。各々の建物は溝によって区画されていた。これらの溝は、自然地形によりながらも建物を意識して設けられていることから判断して、計画的に配置されたものと考えられる。

なお、竪穴住居1を除くとほかの建物から出土した遺物は僅少で、時期の推定はその周りを巡る区画溝より出土した土器によって推定している。各群の間には、大幅な時期差を認めることができないため、各群は何らかの関わりをもつ居住単位であると想定された。

（平安時代）

A～C区で、掘立柱建物、溝、ピット、自然流路（自然河川201・202・1-A・1-B・2、落ち込み1）等を検出している。掘立柱建物は3棟で、いずれもA区で検出された。主軸を描えている点と各建物のピットから出土した土器から、ほぼ同時期に設けられたものと考えられた。A区は居住域、B・C区は自然河川と明確に性格がことなることが明らかとなった。

（鎌倉時代）

平安時代に継続して、A区は居住域として利用している。3間×4間の東西棟の掘立柱建物8がこの時期に相当する。一方、B・C区では、ほとんど機能を失った自然河川を耕作面として利用していることが明らかとなった。

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(1)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	往來た幅 cm	高さ cm	底レベル cm	時期	出土遺物	備考
埋込込み201	A	M12-M11	d1-d10	HT-NB GT-G8	1005以上	177以上	27.57		土師器、陶瓦類、瓦類 陶片、土師瓦片、鉢	自然段落
構201	A	M11	a10~g10	IA~MB	58	25	29.14	古墳後期	須恵器灰陶、土師器	獨立往跡構1をめぐる。区画端
構202	A	M11~M12	e10~f1	IA~LB	55	51	29.4~29.7	古墳後期	土師器、	土塀21と重複。区画端
構203	A	M12	a1	IS~JS	25	4	30.06	中近世		缺
構204	A	M12	a1	IS~JS	19	5	30.03	中近世		缺
構205	A	M12	a1	IS~JS	35	4	30.02	中近世		缺
構206	A	M12	a1	JS	21	4	29.98	中近世		缺
構207	A	M12	a1	JS	21	1	29.98	中近世		缺
構208	A	M11~M12	e10~h1	NB~PS	35	9~22	29.34~29.57	古墳後期	須恵器灰陶、土師器	独立往跡構1をめぐる。区画端
構209	A	M11	b10	OA~PA	21	2	29.47	中近世		
構210	A	M11	g2~g1	MR~MT	35	9	29.91	中近世	瓦類陶	
構211	A	M12	a1	ME~NS	15	2	29.91	中近世		
構212	A	M12	a1	MS~NS	17	3	29.85	中近世		
構213	A	M12	a1	MS~NS	32	7	29.79	中近世		
構214	A	M12	a1	NS	29	4	29.89	中近世		
構215	A	M12	a1	NS	26	4	29.86	中近世	土師器片	
構216	A	M12	a1	NS	42	7	29.81	中近世	土師器片、瓦類陶	
構217	A	M12	a2	NR	17	2	29.91	中近世		
構218	A	M12	a1	NS	22	4	29.92	中近世		
構219	A	M12	a1	OS	26	4	29.81	中近世	須恵器片。	
構220	A	M12	a1	OS	19	2	29.76	中近世		
構221	A	M12	a1	OS	19	3	29.82	中近世		
構222	A	M12	J1	SS-ST	39	6~10	29.83~29.45	古墳後期	須恵器6世紀、土師器	構223と同一層と考えられる。
構223	A	M12	J1	SR-ST	56	15~24	29.2~29.42	古墳後期	須恵器灰陶、灰身、はな 土師器。	獨立往跡構1に切られる。
構224	A	M12~J1	J1~J10	ST-SA	36	8	29.34	古墳後期	須恵器、土師器	獨立往跡構1に切られる。
構225	A	M12	J2~J1	SR-SB	41~73	14	29.62	古墳後期	土師器	独立往跡構1に重複。構222と同一層と考えられる。
構226	A	M11	i10	RA	21	2	29.74	中近世		
構227	A	M11	i10	RA	13	2	29.41	中近世		
構228	A	N12	a1	BS	25	3	29.65			
構229	A	M11	i10	OS	16	2	28.3	中近世		
構230	A	N12	a1	AS	38	7	29.44			
構231	A	N12	a2	AR	35	12	29.49			
構232	A	M11	i10	RA	45	6	29.27	古墳後期		独立往跡構4のピット39を切る。
構233	A	M12	j~i2	RR-SR	29	10	29	古墳後期		構233と重複。
										独立往跡構3を切る。
上坑201	A	M12	a1	IT	72×45	14	29.31	中近世	須恵器片	埋土は第1層。
上坑202	A	M11	a9	KA	128×125	7	28.4	中近世	瓦類陶、須恵器片	埋土は第1層で踏み込み部。
上坑203	A	M11	a9	LA~LB	85×46	20	29.21			埋土は第2層
上坑204	A	M11	a10	MB~NB	170×105	14	29.34	中近世		土師器片、須恵器灰陶 埋土は第1層。独立往跡構1の セグメントを切る。
上坑205	A	M11	a10	NB	128×108	15	29.23	中近世		瓦類陶片、土師質土器片、 土師器。
上坑206	A	M11	a10	NB	104×73	17	29.24	中近世	瓦類陶片、土師質土器	埋土は第1層。
上坑207	A	M11	a10	NB	316×149	16	29.21	中近世	土師質土器、土師器片	埋土は第1層。構206を切る。
上坑208	A	M12	h1	OS~PS						欠番
上坑209	A	M12	h1	OS	166×66	6	29.79		土師質土器片	
上坑210	A	M12	h1	OS						欠番
上坑211	A	M12	fl	LS	102×49	7	29.83			
上坑212	A	M12	fl	LS	378×131	12	29.82			
上坑213	A	M12	g2~d	KB~KS	486×656以上	29	29.91	古墳後期	須恵器灰陶、身・はな、 土師器	
上坑214	A	M11	i10	RA	143×94	13	29.32	中近世	瓦類陶、黑色土器、須 恵器	
上坑215	A	M11	i10	RA						
上坑216	A	M12	jl	SS						欠番
上坑217	A	M12	jl	TT	149×92	17	29.34		須恵器、土師器	
上坑218	A	N12	a1	HT	87×57	16	29.12			埋土は自然河川201の砂礫
上坑219	A	N12	a1	HT	66×47	7	29.18			埋土は自然河川201の砂礫

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(2)

遺構名	地区	10m区画	10m区画	5m区画	幅または幅	深さ	高さ	時期	出土遺物	備考
土坑220	A	M12	II	SR	223×122	12~19	29.53~29.61	中世	黑色土器、領瓦器、土師器	横234を切る。
土坑221	A	M12	II	AT						欠番
土坑222	A	M12-N12	II+I	TT+AT	94	13	29.32		土師器、陶生土器片	領瓦器2個を切る。
土坑223	A	M11	II	TA						欠番
土坑224	A	M12	II+I	PS-QS	280×395	33	29.52	古墳後期	土師器	埴土は土坑212と同じ。
土坑225	A	M12	II	RS	60×58	32	29.48	平安	土師器	獨立性遺物。2つのピット。
土坑226	A	M12	II	TT	286×131	28	29.17	中世	瓦器類、土師器、領瓦器	
土坑227	A	M11	II	GA	85×59	23	29.18			
土坑228	A	M12	II	LS	64×36	5	29.86			
土坑229	A	M12	II+I	LS-MS	60×19	3	29.88			
土坑230	A	M12	II+I	PR-PS	142×105	11	29.77			
土坑231	A	M12-II	II+II	TT-TA	76×29	6	29.36			
土坑232	A	M11	II	TA						欠番
土坑233	A	M12	II	TR	171×88	22	28.4	中世	黑色土器、陶生土器、土師器	
土坑234	A	M12	II	TR	158×85	15	29.54	中世	黑色土器、土師器	
土坑235	A	M12	II	TR	61×42	11	29.44	中世	土師器	
土坑236	A	M12	II	TR	41×33	13	29.49			
土坑237	A	M12	II	PT	81×655上	6	29.49	中世	土師器	監穴化麻疹1を切る。
ピット201	A	M12	I	IT	21×12	2	29.52			
ピット202	A	M12	I	JT	34×32	11	29.41			
ピット203	A	M11	I+II	JA	29×23	5	29.42			
ピット204	A	M11	I+II	IA	46×37	7	29.27		土師器	
ピット205	A	M11	I+II	JA	17×13	2	29.41			
ピット206	A	M11	I+II	JA	17×17	1	29.44			
ピット207	A	M11	I+II	JA	12×10	1	29.37			杭跡
ピット208	A	M12	I	JR	34×35	25	29.11			
ピット209	A	M12	I	JS	12×13	2	29.96			杭跡
ピット210	A	M12	I	JS	9	4	29.96			杭跡
ピット211	A	M12	I	JS	22×29	3	29.94			
ピット212	A	M12	I	JT	10×11	3	29.95			杭跡
ピット213	A	M11	I+II	JA	20×17	2	29.39			横201を切る
ピット214	A	M11	I+II	JA	17×18	1	29.41			横201を切る
ピット215	A	M11	I+II	LA	17×22	5	29.33			埴土は第2層、横201を切る
ピット216	A	M11	I+II	IA	17×19	4.5	29.34			埴土は第2層、横201を切る
ピット217	A	M11	I+II	IA	10×12	5	29.34			埴土は第2層、横201を切る
ピット218	A	M11	I+II	LA-LB	45×35	20	29.35			埴土は第2層、横201を切る
ピット219	A	M11	I+II	LA	36×29	14	29.33		土師質土器片	埴土は第1層、横201を切る。
ピット220	A	M11	I+II	LA	43×40	14	29.33		土師質土器片	埴土は第1層、横201を切る。
ピット221	A	M12	I	MT						欠番
ピット222	A	M11	I+II	MA						欠番
ピット223	A	M12	I	MT	25×22	14	29.33	中世	土師質小皿	
ピット224	A	M11	I+II	MA						欠番
ピット225	A	M11	I+II	MA	21×22	2	29.37	中世	土師質小皿	
ピット226	A	M11	I+II	MA	42×46	37	29.96	古墳後期	黑漆漆耳壺	獨立性遺物1、上部でのみ柱痕跡で幅10cm。
ピット227	A	M11	I+II	MA	39×27	14	29.28			
ピット228	A	M11	I+II	MA	49×39	34	29.61	古墳後期		獨立性遺物1、柱痕跡は幅10cm。
ピット229	A	M11	I+II	MA						欠番
ピット230	A	M11	I+II	MA-MB	49×48	36	29	古墳後期		獨立性遺物1、柱痕跡は幅20cm。
ピット231	A	M11	I+II	MA						欠番
ピット232	A	M11	I+II	MA						欠番
ピット233	A	M11	I+II	MA						独立性遺物1、柱痕跡は幅10cm。
ピット234	A	M11	I+II	MA-MB	43×36	21	29.18	中世	土師器片、圓窓器坪壠(6~7世紀)	埴土は第1層。
ピット235	A	M11	I+II	NA	29×22	8	29.29	中世		埴土は第1層。
ピット236	A	M11	I+II	NA						欠番

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(3)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	縦または幅 cm	深さ cm	高さ cm	時期	出土物	備考
ピット237	A	M11	gl0	NA	37×36	7	29.33	中世		獨立柱建物1層、独立住居物1の ピット237を認める。
ピット238	A	M11	gl0	NA	42×28	2	29.41	中世		独立柱建物1層、独立住居物1の ピット238を認める。
ピット239	A	M11	gl0	NA	57	21	29.16	古墳後期	土師器	獨立住居物1、ピット237・238・240 に隣接する。
ピット240	A	M11	gl0	NA	40×33	16	29.3	中世		獨立住居物1、
ピット241	A	M11	gl0	NA	51×34	47	28.94	古墳後期	土師器	獨立住居物1。
ピット242	A	M11	gl0	NA	52×41	8	29.17	中世		獨立住居物1。
ピット243	A	M11	gl0	NA	55×50	27	29.1	古墳後期	土師器	獨立住居物1。住居跡は底10cm。
ピット244	A	M12	gl	NT	84×43	19	29.21	中世	瓦群陶片、瓦質羽釜	獨立住居物1。
ピット245	A	M12	gl	NT	33×45	19	29.36	中世		獨立住居物1。
ピット246	A	M12	gl	NT	56×32	16	29.34	中世		獨立住居物1。
ピット247	A	M12	gl	NT	41×64	15	29.34	中世	黑色十字A輪片	獨立住居物1。
ピット248	A	M12	gl	NT	61×32	9	29.4	中世		獨立住居物1。
ピット249	A	M12	gl	NT	31×25	4	29.47	中世		獨立住居物1。
ピット250	A	M11	gl0	NB	34	2	29.34			獨立住居物2。
ピット251	A	M11	gl0	NA						欠番
ピット252	A	M11	gl0	NA	51×52	10	29.28	中世	黑色土器A類、輪片	獨立住居物1。
ピット253	A	M11	gl0	NA	44×23	4	29.32	中世	黑色土器A類片	獨立住居物1。
ピット254	A	M11	gl0	NA-NB	92×61	9	29.25	中世		獨立住居物1。
ピット255	A	M11	gl0	OA	95×43	8	29.39			?
ピット256	A	M11	gl0	OA	89×49	52	28.9	古墳後期		獨立住居物2、往復跡は底10cm
ピット257	A	M11	gl0	OA	74×44	14	29.25	中世		獨立住居物1。
ピット258	A	M11	gl0	OA	55×54	43	29.54	古墳後期		獨立住居物2
ピット259	A	M11	gl0	OA	39×29	8	29.29	中世	土師器片	獨立住居物1。
ピット260	A	M11	gl0	OA	37	12	29.28			ピット259に切れる。種がわから ない。
ピット261	A	M11	gl0	OA	23×22	20	29.2			獨立住居物2に伴う。
ピット262	A	M11	gl0	OA	96	6	29.28	中世	瓦器残、土師質土器片	獨立住居物1。
ピット263	A	M11	gl0	OA	63×59	53	29.67	古墳後期		獨立住居物2。
ピット264	A	M11	gl0	OA	125×66	17	29.2	中世	土師器片	獨立住居物1。
ピット265	A	M11	gl0	OA	21×22	25	29.16		土師器片	獨立住居物2のピット260の脱け跡 である。
ピット266	A	M11	gl0	OA	58×54	54	29.08	古墳後期		獨立住居物2、ピット265に切られ る。
ピット267	A	M11	gl0	OA						欠番
ピット268	A	M11	gl0	OA～OB	109	24	29.13		土師質小豆、須恵器等 口縫部	獨立住居物2。
ピット269	A	M11	gl0	PA	26	22	29.16			?
ピット270	A	M11	gl0	PA	41×53	11	29.25	中世		獨立住居物1層、ピット269に切る。
ピット271	A	M11	gl0	PA～PB	60×70	69	28.87	古墳後期		獨立住居物2、往復跡12cm
ピット272	A	M11	gl0	PA	18×16	8	29.33			?
ピット273	A	M11	gl0	PA	33×36	10	29.27	中世		獨立住居物1。
ピット274	A	M11	gl0	PA	80×73	52	28.9	古墳後期		獨立住居物2、往復跡12cm
ピット275	A	M11	gl0	PA	13	1	29.44			?
ピット276	A	M11	gl0	PA	11	1	29.44			?
ピット277	A	M11	gl0	PA	58×81	60	28.82	古墳後期	土師器片	獨立住居物2。
ピット278	A	M11	gl0	PA	25×21	7	29.33	中世		獨立住居物1。
ピット279	A	M11	gl0	PA						欠番
ピット280	A	M11	gl0	PA						欠番
ピット281	A	M11	gl0	PA						欠番
ピット282	A	M12	gl	OT						欠番
ピット283	A	M12	gl	OT	64×43	13	29.44			
ピット284	A	M12	gl	OT	55×39	60	28.92	古墳後期		独立穴住居1。
ピット285	A	M12	gl	OT	40×41	51	28.97	古墳後期		独立穴住居1。
ピット286	A	M12	gl	PT	52×44	59	28.94	古墳後期		独立穴住居1。
ピット287	A	M12	gl	PT	46×40	51	29.01	古墳後期		独立穴住居1、往復跡12cm
ピット288	A	M12	gl	PT	32×46	13	29.4			
ピット289	A	M12	gl	PS						欠番
ピット290	A	M12	gl	PS	19×21	11	29.64			独立穴住居1。

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(4)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	径木±2倍	深さ	底面±2倍	時間	出土遺物	備考
ピット291	A	M12	h2	PR	50×42	36	29.31	古墳後期?		獨立柱建物3、柱底盤は径10cm
ピット292	A	M12	h2	OR	85×73	48	29.42	古墳後期?		獨立柱建物3、柱底盤は径10cm
ピット293	A	M12	h1	OS	43×32	3	29.84			柱底盤は径10cm
ピット294	A	M12	h1	OS						欠番
ピット295	A	M12	h1	OS						欠番
ピット296	A	M12	h1	OS						欠番
ピット297	A	M12	h1	OS	16	1	29.84			柱底盤
ピット298	A	M12	h1	OS	59×54	33	29.53			
ピット299	A	M12	h1	OS						欠番
ピット300	A	M12	g1	NS	37×40	8	29.85	土師器片		柱底盤。
ピット301	A	M12	g2	NR	22×25	11	29.85			
ピット302	A	M12	g2	NR	19	7	29.89			
ピット303	A	M12	g2	NR	39×49	42	29.93			柱底盤は径8cm
ピット304	A	M12	g2	NR	14×16	1	29.96			
ピット305	A	M12	g1	NS	30×26	3	29.91			
ピット306	A	M12	g1	NS	12×12	23	29.71			柱底盤
ピット307	A	M12	g2	MR	35×39	2	29.95	土師器片		獨立柱建物3のピット308を認める。
ピット308	A	M12	g2+g1	MR-MS	54×72	41	29.56	古墳後期		独立柱建物3、ピット307に切られること。
ピット309	A	M12	g1	MS	49×50	43	29.44	古墳後期		獨立柱建物3
ピット310	A	M12	g1	MS	66×68	38	29.48	古墳後期		獨立柱建物3、柱底盤は径14cm、瓦や小石、
ピット311	A	M12	g1	MS						欠番
ピット312	A	M12	g1	MS						
ピット313	A	M12	g1	MS						欠番
ピット314	A	M12	g1	MS	58×52	42	29.52	古墳後期		獨立柱建物3、P013に認られる。柱底盤は径8cm
ピット315	A	M12	g1	MS	10×12	1	29.89			
ピット316	A	M12	g1	MS	27×33	5	29.99			
ピット317	A	M12	g1	MS						欠番
ピット318	A	M12	g2	MR	53×60	35	29.60	古墳後期		獨立柱建物3
ピット319	A	M12	n	LS	74×87	41	29.56	古墳後期		獨立柱建物3、柱底盤は径10cm
ピット320	A	M12	n	LS	54×54	41	29.56	古墳後期		獨立柱建物3
ピット321	A	M12	n	LS						欠番
ピット322	A	M12	n	LS						欠番
ピット323	A	M12	n	LS	39×29	2	29.91			欠番
ピット324	A	M12	n	LS						欠番
ピット325	A	M12	n	LS	9	2	29.92			柱底盤
ピット326	A	M12	n	LS						欠番
ピット327	A	M12	n	LS	14×19	10	29.87			獨立柱建物片
ピット328	A	M12	n	LT						欠番
ピット329	A	M12	n	LS	29×35	10	29.92			
ピット330	A	M12	n	LS	14	2	29.84			柱底盤
ピット331	A	M12	g1	NS	26×21	9	29.79			
ピット332	A	M12	g1	NS						欠番
ピット333	A	M12	g1	NS	29×38	14	29.75			埴土は第3層
ピット334	A	M11	h10	PA	41×29	11	29.31	中世	土師器片	埴土は第1層。
ピット335	A	M11	h10	PA	72×83	33	29.03	中世	黑色土器A類	埴土は第1層。
ピット336	A	M11	h10	PA	117×168	32	29.09	中世	土師器片	埴土は第1層。
ピット337	A	M11	h10	PA	34×33	17	29.51			
ピット338	A	M11	h10	QA	25×29	3	29.65			
ピット339	A	M11	h10	QA	27×36	2	29.4			
ピット340	A	M11	h10	QA	60×38	8	29.34	中世		埴土は第1層。
ピット341	A	M11	h10	QA	10	31	29.06			柱底盤
ピット342	A	M11	h10	QA	56×73	20	29.2	中世	埴土器、土師器片	埴土は第1層。
ピット343	A	M11	h10	QA	118×195					中世 土師質、埴土器
ピット344	A	M11	h10	QA						埴土は第1層。
ピット345	A	M11	h10	QA	20×13					欠番
ピット346	A	M11	h10	QA	11					

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(5)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	形状及寸法	開き	高さ	面レベル	時期	出土遺物	備考
ピット347	A	M11	II	QA							欠番
ピット348	A	M11	II	QA-RA							欠番
ピット349	A	M11	II	RA	31×29	3	29.39	中世	瓦器、土師器	埋土は第1層。	
ピット350	A	M11	II	RA	38×31	5	29.38	中世	土師器	埋土は第1層。	
ピット351	A	M11	II	RA							欠番
ピット352	A	M12	II	PT	27×36	4	29.3	中世		埋土は第1層。	
ピット353	A	M12	II	PT	32×36	18	29.38				
ピット354	A	M12	II	QT							欠番
ピット355	A	M12	II	QT							欠番
ピット356	A	M12	II	QT							欠番
ピット357	A	M12	II	QT							欠番
ピット358	A	M12	II	QT							欠番
ピット359	A	M12	II	QT							欠番
ピット360	A	M12	II	QT	31×42	22	29.32	平安	土師器・羽面片、墨色 土器大部	獨立柱建物6。柱痕跡は径14cm。	
ピット361	A	M12	II	QT	36	16	29.38				
ピット362	A	M12	II	QS	21×18	16	29.45				
ピット363	A	M12	II	RT	18×17	6	29.5				
ピット364	A	M12	II	RT	18	24	29.33				
ピット365	A	M12	II	RT	36×33	24	29.33				
ピット366	A	M12	II	RT	39×38	32	29.2	平安	土師器片	獨立柱建物6。	
ピット367	A	M12	II	RT	42×37	9	29.36	中世	瓦器片	埋土は第1層。	
ピット368	A	M12	II	RT	58×29	19	29.3	平安	土師器	獨立柱建物6。	
ピット369	A	M12	II	RT	20	18	29.29				
ピット370	A	M12	II	RT	32×23	2	29.45				
ピット371	A	M12	II	RT							欠番
ピット372	A	M12	II	RT	17×30	6	29.45				
ピット373	A	M12	II	RT	23×22	16	29.4				
ピット374	A	M12	II	RT	23×21	19	29.34				
ピット375	A	M12	II	RT	25×26	17	29.35	平安	土師器片	獨立柱建物6の芯部分。	
ピット376	A	M12	II	RT	46×34	32	29.22	平安	土師器、土師陶、墨色 土器大部	獨立柱建物6。	
ピット377	A	M12	II	RT							欠番
ピット378	A	M12	II	RT	25×33	24	29.29	平安		獨立柱建物6	
ピット379	A	M12	II	RS	25×23	7	29.46				
ピット380	A	M12	II	ST	17×13	10	29.42				
ピット381	A	M12	II	ST	13×11	20	29.34	平安	瓦器器、土師器片	獨立柱建物6の芯部分。	
ピット382	A	M12	II	ST							欠番
ピット383	A	M12	II	ST	17×18	7	29.49				
ピット384	A	M12	II	ST							欠番
ピット385	A	M12	II	ST	18×16	6	29.46		土師器片		
ピット386	A	M12	II	ST	17×18				土師器片		
ピット387	A	M12	II	ST	44×48	29	29.27	繩文	瓦器、土師器、土師器把手	獨立柱建物6、(22)を切る。	
ピット388	A	M12	II	ST	43×36	52	29.36	平安	土師器片	獨立柱建物7。	
ピット389	A	M12	II	ST	14	8	29.42				
ピット390	A	M12	II	ST	60×26	45	29.36	繩文	瓦器、瓦器把手、土師器片	獨立柱建物8。	
ピット391	A	M12	II	ST	31×26	47	29.34	繩文	土師器片	獨立柱建物8。	
ピット392	A	M12	II	ST	31×22	20	29.3				
ピット393	A	M12	II	ST	21×17	27	29.23				
ピット394	A	M12	II	ST	30×29	13	29.37				
ピット395	A	M11	II	SA	8×18	10	29.34				
ピット396	A	M11	II	SA	37×36	49	28.89	平安		獨立柱建物7、柱痕跡は径10cm。 二つのピット。	
ピット397	A	M11	II	SA	24×24	16	29.24				
ピット398	A	M11	II	TA	23×24	9	29.28				
ピット399	A	M11	II	TA	47×43	34	28.88	平安		獨立柱建物7、柱痕跡は径10cm。 二つのピット。	
ピット400	A	M11	II	TA	25×32	16	29.24				
ピット401	A	M11	II	TA	47×33	48	28.9	平安		独立柱跡	
ピット402	A	M11	II	TA							

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(6)

遺構名	地区	10m区画	10m区画	5m区画	幅さ cm	深さ cm	層レベル m	時間	出土遺物	備考
ピット403	A	M11	J8	TA						欠番
ピット404	A	M11	J8	TA	7	19	29.2			杭底跡
ピット405	A	M11	J8	TA	24×25	23	29.14			側立柱跡7、柱底跡12箇12cm
ピット406	A	M11	J8	TA	29×27	30	29.11			住居跡12箇14cm
ピット407	A	M12-11	J-10	TT-TA	39×34	35	29.08			黑色土器A類灰
ピット408	A	M12	J	ST-TT	65×50	23	29.09	中世	土師器片	堆土は第1層。
ピット409	A	M12	J	TT	32×30	14	29.08			七輪器片
ピット410	A	M12	J	TT						欠番
ピット411	A	M12	J	TT	21×20	25	29.18	鎌倉	土師器片	獨立柱建物6.
ピット412	A	M12	J	TT	45×40	37	29.11	鎌倉	安達器片	獨立柱建物6.
ピット413	A	M12	J	TT	64×55	14	29.33			磚石
ピット414	A	M12	J	TT						欠番
ピット415	A	M12	J	TT						欠番
ピット416	A	M12	J	TT	46×45	11	29.39			堆土は第1層
ピット417	A	M12	J	TT	21×19	8	29.39			土師器片、廻穴住居2を切る。
ピット418	A	M12	J	TS	23×22	26	29.3	鎌倉		獨立柱建物6
ピット419	A	M12	J	TS	36×32	38	29.19	鎌倉	漆器、土師器片	獨立柱建物6、柱底跡9cm。
ピット420	A	M12	J	TS	17×16	27	29.31			
ピット421	A	M12	J	TS						欠番
ピット422	A	M12	J	TS						欠番
ピット423	A	M12	J	TS	41					欠番
ピット424	A	N12	ai	AB	9×8	13	29.45	鎌倉	漆器、土師器片	獨立柱建物6、廻穴住居2を切る。
ピット425	A	N12	ai	AT	28×13	34	29.12			杭底跡。
ピット426	A	N12	ai	AT						
ピット427	A	N11	ai	AB	26	11	29.16			欠番
ピット428	A	N11	ai	AB	32×30	38	28.9	平安	土師器片	獨立柱建物6。
ピット429	A	N11	ai	AB	71×51	18	29.07			板瓦器、土師器片
ピット430	A	N11	ai	BA	37×15	45	28.79	平安	土師器片	獨立柱建物6、柱底跡は径15cm。
ピット431	A	M12	ii	QS	15×16	10	29.63			
ピット432	A	M12	ii	QS	16×19	12	29.64			
ピット433	A	M12	ii	QS	12	11	29.69			杭底跡
ピット434	A	M12	ii	QS	17×16	8	29.71			
ピット435	A	M12	ii	QS	27	17	29.63	11～12世紀	土師質小窓	堆土は第2層
ピット436	A	M12	ii	QS	9	16	29.66			杭底跡
ピット437	A	M12	ii	QS	23×30	18	29.61			
ピット438	A	M12	ii	QS						
ピット439	A	M12	ii	QS-RS	26×35	36	29.39	平安	縄文陶器、磨石	獨立柱建物6。
ピット440	A	M12	ii	QS	27×17	36	29.4			縄文器、土師器片
ピット441	A	M12	ii	QS	10×11	21	29.66			杭跡
ピット442	A	M12	ii	QS						欠番
ピット443	A	M12	ii	QS	8					杭底跡
ピット444	A	M12	ii	QS	11×12					杭底跡
ピット445	A	M12	ii	QS	11	6	29.78			杭底跡
ピット446	A	M12	ii	QS-RS	32×27	45	29.42			杭底跡
ピット447	A	M12	ii	RS	31×42	44	29.4	平安	土師器片、土師器小窓	獨立柱建物6。
ピット448	A	M12	ii	RS	21×22	19	29.64			
ピット449	A	M12	ii	RS	24×21	28	29.62			
ピット450	A	M12	ii	RS	7×8					杭跡
ピット451	A	M12	ii	RS	19×21	22	29.53			
ピット452	A	M12	ii	RS						欠番
ピット453	A	M12	ii	RS	7	19	29.59			杭底跡
ピット454	A	M12	ii	RS						欠番
ピット455	A	M12	ii	RS	8	13	29.7			杭底跡
ピット456	A	M12	ii	RS	9	17	29.66			杭底跡
ピット457	A	M12	ii	RS	8					杭底跡
ピット458	A	M12	ii	RS	7×9	18	29.65			杭底跡

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(7)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	形状及寸法	高さ cm	幅・深さ cm	時期	出土遺物	備考
ピット459	A	M12	II	RS	64×29	31	29.5	平安	黑色土器人頭形埴輪 軸、土器蓋片	獨立性遺物。
ピット460	A	M12	II	RS	17×24	8	29.6			
ピット461	A	M12	II	RS	23×35	22	29.55			
ピット462	A	M12	II	RS	33	22	29.56	平安		獨立性遺物6
ピット463	A	M12	II	RS	7×9	20	29.62			軸底座
ピット464	A	M12	II	RS	6	9	29.71			軸底座
ピット465	A	M12	II	RS	5×6	17	29.64			軸底座
ピット466	A	M12	II	RS	25×19	29	29.66			
ピット467	A	M12	II	RS						欠番
ピット468	A	M12	II	RS						欠番
ピット469	A	M12	II	RR	14×15	11	29.79			
ピット470	A	M12	II	RR	23	14	29.73			
ピット471	A	M12	II	RR	16	13	29.72			軸底座
ピット472	A	M12	II	RR	19×18	9	29.74			
ピット473	A	M12	II	RR	18×21	13	29.71			
ピット474	A	M12	II	RR						欠番
ピット475	A	M12	II	RR	18×15	5	29.76			
ピット476	A	M12	II	SR	17×13	9	29.72			
ピット477	A	M12	II	SR	19×17	11	29.69			
ピット478	A	M12	II	SR	47×30	27	29.53			
ピット479	A	M12	II	SR	32×25	6	29.7			
ピット480	A	M12	II	SR						欠番
ピット481	A	M12	II	SR	64×20	1	29.66			
ピット482	A	M12	II	SR	31×17	3	29.71			
ピット483	A	M12	II	SS	25×21	16	29.66			
ピット484	A	M12	II	SS	17×20	18	29.52			
ピット485	A	M12	II	SS	32×17	19	29.54			軸跡
ピット486	A	M12	II-a	TR-AR	67×61	52	29.67	古墳後期 土師器片	獨立性遺物4。柱底座10cm。	
ピット487	A	M12	a2	AR	73×50	63	29.87	古墳後期 上部器片	獨立性遺物4。柱底座22cm。B 熱河川201に認定される。	
ピット488	A	M12	a2	AR	79×62	38	29.26			獨立性遺物4
ピット489	A	M12	a2	AR	15×15	4	29.6			
ピット490	A	M11	II	QA	34×21	4	29.35	中世	壇土は第1層	
ピット491	A	M12	II	RS	6					軸跡
ピット492	A	M11	II	PA	25×22	27	29.21			軸跡
ピット493	A	M12	II	QT	19×35	19	29.32	平安 土師器片	獨立性遺物5。	
ピット494	A	M12	II	RT	9	6	29.46			軸底座
ピット495	A	M12	a2-a1	AR-AS	81×51	34	29.1	古墳後期	獨立性遺物4。	
ピット496	A	M12	a1	LS	39×30	28	29.72			ピット497を認める。
ピット497	A	M12	a1	LS	50×58	61	29.49	古墳後期	獨立性遺物3	
ピット498	A	M12	a1	LS	55×68	62	29.56	古墳後期	獨立性遺物3。小石	
ピット499	A	M12	a1	LS	34×35	5	30.08			
ピット500	A	M11	a10	MA	39×43	40	28	古墳後期	獨立性遺物1。柱底座17cm	
ピット501	A	M11	a10	MB-NS	58×54	19	39.02	古墳後期	獨立性遺物1	
ピット502	A	M11	a10	NB	53×52	42	28.94	古墳後期	獨立性遺物1。柱底座11cm。 板文瓦底座1。ピット233に認定される。	
ピット503	A	M11	a10	NA	215上	14	29.24	古墳後期		
ピット504	A	M11	a10	NA	14×13	5	29.31			
ピット505	A	M11	a10	NS	35					
ピット506	A	M11	a10	MA	27×21	5	29.31	中世	壇土は第1層	
ピット507	A	M12	a2	MR	74	35	29.69	古墳後期	獨立性遺物3	
ピット508	A	M12	a2	LR	62	44	29.71	古墳後期	獨立性遺物3	
ピット509	A	M12	a1	LS-MS	21×20					
ピット510	A	M12	a1	MS	16	1	29.90			
ピット511	A	M12	a1	MS	16×22	2	29.89			
ピット512	A	M12	a1	MS						欠番
ピット513	A	M12	a1	MS						欠番
ピット514	A	M12	a1	NS	28×26	8	29.83			壇土は第3層。

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(8)

遺構名	地区	100mE面	100mN面	5mE面	5mN面	幅または幅 cm	深さ cm	透かしバーゲン m	時期	出土遺物	備考
ピット515	A	M12	g1	MS	—	12×19	—	—	—	—	—
ピット516	A	M12	h1	OS	—	18	6	29.76	—	—	—
ピット517	A	M11	g10	MA	—	40×41	13	29.2	古墳後期	—	獨立柱建物1。柱直径13cm。
ピット518	A	N12	h1	BT	—	32×31	29	28.58	平安	土師器、瓦底陶片	独立柱建物1。柱直径12cm。
ピット519	A	N12	h1	AT	—	38×34	20	29.06	平安	復原器皿	独立柱建物1。柱直径14cm。
ピット520	A	N12	h1	AT	—	37×33	26	29.06	平安	土師器片	独立柱建物1。
ピット521	A	N12	h1	AT	—	42×35	28	29.07	平安	—	独立柱建物1。柱直径13cm。
ピット522	A	N11	z10	AA	—	35×31	24	29.06	平安	土師器片	独立柱建物1。
ピット523	A	N12-11	al-10	BT	—	22×18	23	29	—	—	—
ピット524	A	M12	j1	TS	—	37×32	31	29.24	—	—	異穴居居2
ピット525	A	N12	j1	TT	—	60×40	35	29.11	綠食	圓泡器、土師器片	獨立柱建物1。異穴居居2のピット576を切る。
ピット526	A	N12	z1	AT	—	49×49	46	29.02	—	—	異穴居居2
ピット527	A	N12	z1	AS	—	30×28	3	29.38	—	—	—
ピット528	A	N12	z1	BS	—	36×31	3	29.5	—	—	—
ピット529	A	N12	z2	AR	—	67	26	29.12	古墳後期	土師器片	獨立柱建物1。
ピット530	A	M12	j1	TT	—	24×22	21	29.19	—	—	—
ピット531	A	M12	j1	TT	—	46×39	19	29.2	—	—	—
ピット532	A	M11	j10	TA	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット533	A	M11	j10	SA	—	49×35	38	29.04	平安	—	獨立柱建物1。柱直径14cm。第244号切る。
ピット534	A	M12	j1	TT	—	37×30	18	29.26	—	—	—
ピット535	A	N12	z1	AT	—	20×18	32	29.02	—	—	—
ピット536	A	M12	h1	PS	—	23×21	14	29.72	—	—	獨立柱建物1。土坑20mに切られる。
ピット537	A	M11	g10	NA	—	60	8	29.27	古墳後期	—	欠番
ピット538	A	M11	g10	NA	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット539	A	M11	g10	NA	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット540	A	M11	j1	TT	—	53×28	23	29.27	—	—	異穴居居2を切る。
ピット541	A	N11	al-10	BA	—	38×27	13	29.76	平安	土師器片	獨立柱建物1。柱直径1cm。
ピット542	A	N12	z2	AR	—	66×45	23	29.97	古墳後期	—	獨立柱建物4。自然開川200mに切られる。
ピット543	A	M12	h1	PS	—	22	2	29.72	—	—	—
ピット544	A	M12	j1	QR	—	16	2	29.86	—	—	—
ピット545	A	M11	h10	OB	—	75×47上	50	28.82	古墳後期	土師器片	獨立柱建物1。
ピット546	A	M11	j10	SA	—	19×16	16	29.27	—	—	—
ピット547	A	M11	j10	SA	—	43×41	21	29.11	—	瓦片類、黑色土器A類、土師器片	柱直径19cm。
ピット548	A	M11	j10	SA	—	46×47	59	28.67	平安	—	獨立柱建物7。柱直径15cm。
ピット549	A	M12	j1	ST	—	24×31	21	29.33	—	—	—
ピット550	A	M12	j1	SS	—	29×34	22	29.5	—	—	—
ピット551	A	M12	j1	LS	—	32	17	29.85	—	—	—
ピット552	A	M12	j1	LS	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット553	A	M12	g2-g3	NR-NS	—	31×22	4	29.89	—	—	—
ピット554	A	M12	z1	NS	—	16×15	4	29.87	—	—	—
ピット555	A	M12	g2-g3	NR-NS	—	37×32	9	29.86	—	—	—
ピット556	A	M12	h1	PS	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット557	A	M12	z2	QR	—	20×16	11	29.76	—	—	—
ピット558	A	M12	z2	SR	—	48×37	25	29.49	古墳後期	—	異穴居居3。
ピット559	A	M11	j10	SA	—	14	23	29.96	—	—	—
ピット560	A	M11	j10	TA	—	27×38	29	29.02	平安	—	獨立柱建物1。柱直径10cm。
ピット561	A	M12	g11	TR-TS	—	41×35	8	29.54	—	—	—
ピット562	A	M12	j1	TS	—	27×25	13	29.5	—	—	—
ピット563	A	M12	j1	TS	—	16×17	7	29.57	—	—	—
ピット564	A	M12	j1	TR	—	52×46	12	29.46	—	瓦片類、土師器片。	—
ピット565	A	M12	j1	TR	—	41×34	16	29.47	—	—	—
ピット566	A	M12	j1	KT	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット567	A	M12	j1	KT	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット568	A	M12	j1	KS	—	—	—	—	—	—	欠番
ピット569	A	M11	e10	IA	—	16	3	29.24	—	—	—

別表1 福井遺跡A区 遺構一覧表(9)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	種別(柱等幅 cm)	高さ cm	高レベル m	時期	山上遺物	備考
ピット570	A	M11	B6	KA	16×15	1	29.38			
ピット571	A	M12	B	SS	84×49	32	29.38	縦倉	須恵瓦、土器破片	獨立柱建物B、横223を切る。
ピット572	A	M12	J1	SS	42×26	2	29.48	縦倉		独立柱建物B、横223を切る。
ピット573	A	M12	J2	SR	32×27					
ピット574	A	M11	H6	RA	16×18	13	29.18			
ピット575	A	M12	J3	ST	31	37	29.69			ピット390の裏側
ピット576	A	M12	J1	TT	51	45	29.04	古墳後原		壁穴建物2、獨立柱建物Bのピット526に近いところ。
ピット577	A	M11	J6	TA	25×22	9	29.28			ピット407の裏側
ピット578	A	M12	J1	TT	34×36	20	29.3			
ピット579	A	M12	J1	ST	35×23	10	29.3	縦倉	土器破片、土器器形盛	

自然河川201	A	N12-11	n2-1-10	AR-B4	69~360	43	29.08	黑色土壁、土師器、灰陶 器片等		
自然河川202	A	N12	42-1	AR-B5	260以上	66	29.97	灰陶器、土師器		

別表2 福井遺跡B・C区 遺構一覧表(1)

遺構名	地区	10m区画	10m区画	5m区画	柱丈た22幅 cm	厚さ cm	底レベル m	時期	出土物	備考
窓ち込み1	B-C	N11-12			800	146~191	27.14~26.74		竹生土器長頸壺、楕円 盤平底・片口・耳環	
窓ち込み2	C	N11	e9	ID	100~250	48	27.84		竹生土器短脚片	

自然河川1	B	N12							青色土器人顎片、楕円盤 片口・片耳・耳環、平底 盤平底	
自然河川1-A	B	N12	a1~2- b1~2	CT~	230	60	25.78~28.51	平安時代	楕円盤、土器圓筒・片 耳・片口・耳環、楕色土器B 類似、楕色土器A類似	
自然河川1-B	B	N12	a1~b1	DT~	230~260	82~100	27.95~28.21	平安時代	土器圓筒・楕・楕、楕圓盤 楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕 楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕	
自然河川2	B	N12	b2	DR	160以上	117	28.11	平安時代	土器盤・楕・楕・楕	

構1	B	N12	g1~	MK~	355	31	28.74	弥生後期	藍銅鏡・青・青銅鏡・小 刀・刀身・刀・刀・刀・刀 ・刀・刀・刀・刀・刀・刀 ・刀・刀・刀・刀・刀・刀	
構2	B-C	N11-12	d1~	HT~	626	28	28.46	弥生後期		
構3	C	N11	d9	HC-HD	約500	189	26.51	弥生後期		構4を明らか
構4	C	N11	d9	HC-HD	約150	98	27.42	弥生後期	弥生土器後縁壺・楕 ・高所、黒褐色土器	構3にこれららる。
構5	B	N11-12	b1~	DS~	670~1120	265	26.84		須恵圓底・楕・楕、楕圓盤 楕・土器圓筒・楕・楕・楕 ・楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕 ・楕・楕・楕・楕・楕・楕・楕	
構6	B	N12	f1	KS-KT	166×28	12	28.76			
構7										欠番
構8	B	N12	g1	MS	87×15	5	28.88			
構9	B	N12	g1	MS	35×15	10	28.82			
構10										欠番
構11										欠番
構12										欠番
構13										欠番
構14										欠番
構15	B	N12	d2	LQ	39×17	3	29.09			
構16	B	N12	d2	LQ	130×10	14	29.01			
構17	B	N12	d2	LQ	184×19	15	29.01			
構18	B	N12	d2	LR	82×19	2	29.01			
構19	B	N12	H1-g1	LS-MS	375×21	9	28.84			
構20	B	N12	f1	LS	58×16	4	28.88			
構21	B	N12	f1	LT	325×19	6	28.78			
構22	B	N12	f1	LT	63×12	2	29.81			
構23	B	N12	f1	LT	216×18	4	28.79			
構24	B	N12	f1	LT	75×16	4	28.79			
構25	B	N12	f1	LT	183×14	1	28.81	土師器	土師器	
構26	B	N12	f1-g1	LT-MT	90×15	3	28.78	土師器	土師器	
構27	B	N12	d2	HR	83×18			土師器	構2と同一の構	
構28	B	N12	d2	HR	204×15			土師器	構22と同一の構	
構29	B	N12	d1	CS	114×22	3	29.02	土師器		
構30	B	N12	c1-b1	GS-FS	450×29	7	29.03	土師器、弥生後期窓	構23と同一の窓	
構31	B	N12	g2	MQ						欠番
構32	C	N11	e9	KC-LD	19	13	28.43	弥生後期	盞	
構33	C	N11	e9	JG	614×135			弥生後期		B区の構1と同一の窓
構34	B	N12	b1	CS	299×32	20	29.04	古墳後期	須恵器・耳環、土師器 盞	
構35	B	N11-12	a1-10	BT-BA	162×64	26	28.99			
構36A	B	N11-12	a1-10	BT-BA	74	26	28.94	平安	上部鋸齿状	
構36B	B	N12	b1	CT	263×199	23	29			
構37	B	N12	d2	GQ-HQ	165×124				弥生後期土器	
構38	C	N11	e9	LD	105×16					

別表2 福井遺跡B・C区 遺構一覧表(2)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	幅または幅 cm	奥行き cm	高さ cm	時期	出土遺物	備考
土坑1	B	N11-N12	E1-E10	KT-KA	226×115	28	28.26	弥生後期	弥生土器・甕	第1と同C。
土坑2	B	N11-N12	E1-E10	KT-KA	223×97	30	28.25	弥生後期	甕・盒・器台・灰瓦・鉢	第1と同C。
土坑3	B	N12	f1-g1	L7-M7	965×165	14	28.71	弥生後期	甕・甕・灰瓦	
土坑4	B	N12	f1	L8	100×175	6	28.87	弥生後期	弥生土器	
土坑5	B	N12	g1-f1	L5-M5	297×137	21	28.69		遺意器	
土坑6	B	N12	f1	KY	163×100	30	28.49	弥生後期	弥生土器	
土坑7	B	N12	f1	KT-LT	149×80	10	28.66	弥生後期	甕・灰瓦	
土坑8	B	N12	f2	LQ	61×41	18	28.93			
土坑9	B	N12	f2	LR	93×51	6	28.99			
土坑10	B	N12	f2	LR	69×49	10	28.93			
土坑11	B	N12	f2	LR	49×36	8	28.97			
土坑12	B	N12	f2	LR	96×54	18	28.87	弥生後期	土器片	
土坑13	B	N12	f2	LR	64×36	11	28.88			
土坑14	B	N12	g2	MT	75×81	10	28.74			
土坑15	B	N12	g2	MT	106×45	5	28.78			
土坑16	B	N12	g2	MS	43×21	4	28.84			
土坑17	B	N12	a2	IR	97×78	18	28.83			
土坑18	B	N12	a2	IR	51×34	16	28.84	弥生後期	弥生土器	
土坑19	B	N12	a2	JR	55×52	15	28.82			
土坑20	B	N12	a2	JR	92×32	13	28.81	弥生後期	弥生土器	
土坑21	B	N12	a2	HK	80×53	19	28.91		弥生土器、遺意器	
土坑22	B	N12	a2	IR	207×117	18	28.83		弥生土器、遺意器	
土坑23	B	N12	a2	OQ-GR	168×72	19	28.96	弥生後期	弥生土器	
土坑24	B	N12	a2	GR	55×44	22	28.92	弥生後期	弥生土器	
土坑25	B	N12	d1-a2	GS-GR	616×155	61	28.51	中世	上田賀王城、御意器等	
土坑26	B	N12	a2	ER	56×47	12	28.08		遺意器	
土坑27	B	N12	c1	FS	56×35	17	28.99			
土坑28	B	N12	c1	PS	594×215	67	28.42		土器類小皿	
土坑29	B	N12	c1	FS	99×40	18	28.89			
土坑30	B	N12	c1	ET-FT	176×113	37	28.63		遺意器	
土坑31	B	N12	d1	GT	201×66	14	28.83		土師質土器、遺意器	
土坑32	B	N12	d1	GS	45×34	6	28.9			
土坑33	B	N12	d1	GT	99×71	11	28.82		土師器	
土坑34	B	N12	d1	GT	77×58	35	28.57		土師器	
土坑35	B	N12	d1	GT	50×36	20	28.72		土師器	
土坑36	B	N12	d1	GT	72×53	13	28.73			
土坑37	B	N12	d1	GT	42×41	15	28.67		土師器	
土坑38	B	N12	d1	GS	166×148	5	28.98		土師器	
土坑39	B	N12	d1	GS	78×20	13	28.91			
土坑40	B	N12	d1	GS	53×49	15	28.96			
土坑41	B	N12	c1-d1	PS-GS	67×41	27	28.81			
土坑42	B	N12	d1	GS-GT	87×61	7	28.85			
土坑43	B	N12	d1	GS	45×46	17	28.79			
土坑44	B	N12	f1	KT	43×29	9	28.44		土師器	
土坑45	B	N12	f1	KT	66×50	5	28.47		土師器	
土坑46	B	N12	f1	KT	34×28			弥生後期		
土坑47	C	N11	f9	LC	118×102	20	28.38	弥生後期		
土坑48	C	N11	f9	LC	90×78	22	28.35	弥生後期	甕	
土坑49	C	N11	f10	KB	61×77	22	28.38	弥生後期		
土坑50	C	N11	f9	JD-KD	149×80	19	28.37	弥生後期		
土坑51	C	N11	f9	KD-LD	570×78	22	28.31	弥生土器甕・甕、土師器		
土坑52	C	N11	f9	KB	100×71					
土坑53	C	N11	f9	JG-JD	80×73	27	28.27	弥生後期		
土坑54	B	N12	e2	IQ	89×87			遺意器、弥生土器甕		

別表2 福井遺跡B・C区 遺構一覧表(3)

遺構名	地区	100m区画	10m区画	5m区画	径または幅 cm	高さ cm	底レベル m	時期	出土遺物	備考
土坑55	B	N12	e2	LQ	56×27			弥生後期		
土坑56	B	N12	e2	LQ	55×27					
土坑57	C	N11	f9	LD	145×82			弥生後期	甕・壺形・盤・磨石	
土坑58	B	N12	d1	HT-GT	196×95			弥生後期	弥生土器後期片	横2を切る
土坑59	B	N12	d1	HS	70×62	32	28.39	弥生後期片	弥生土器後期片	横2を切る
土坑60	B	N12	d1	HS	57×50	24	28.52	弥生後期片	弥生土器後期片	横2を切る
土坑61	B	N12	d1	IS	20×18			弥生後期片		
土坑62	B	N12	d2	GS	55×43	12	28.86	中世	瓦器、土器器	横2を切る
土坑63	B	N12	e2	LQ-JQ	41×30					
土坑64	B	N12	e2	LQ	74×47				須恵器、土器器	
土坑65	B	N12	c1	PS	109×66	3	29.11	中世	瓦質下廻り、東層灰陶 片	
土坑66	B	N12	c1	PS	130×50	4	29.1	中世	瓦質	
土坑67	B	N12	e1	IT	107×70	18	28.45			
土坑68	B	N12	e1	IT	40×25	5	28.57			
土坑69	C	N11	e10	BB	66×93					
土坑70	C	N11	d10-e10	HR-EH	78×67					
土坑71	B	N11	b10	CA	114×34	18	28.96			自然河川1-Aに切られる。
土坑72	B	N12	c1	ET	202×76			弥生後期	高坪・盤片等	横5に切られる。

ピット1	B	N12	f1	LS	58×47	15	28.78	弥生土器または土器器 片		
ピット2	B	N12	f1	LS	27×25	28	28.62	弥生後期	甕・高井	
ピット3	B	N12	f1	KT	50×35	9	28.73	弥生土器または土器器 片		
ピット4	B	N12	f2	LR	29×28	2	29.11			
ピット5	B	N12	e2	MR	43×30	4	28.95			
ピット6	B	N12	f1	LT	36×31	16	28.69			
ピット7	B	N12	f1	LS	25×24	23	28.64			
ピット8	B	N12	e1	MS	37×34	23	28.64			
ピット9									欠番	
ピット10	B	N12	e1	MS	28×24	10	28.81			
ピット11	B	N12	e1	MT	22	4	28.81			
ピット12										
ピット13	B	N12	f2	LQ	30×30	2	29.08			
ピット14	B	N12	f2	LR	33×29	10	28.93	土器器片		
ピット15	B	N12	e1	MS					欠番	
ピット16	B	N12	f1	LS	42×33	6	28.86			
ピット17	B	N12	f1	LT					欠番	
ピット18	B	N12	f1	LT	34×33	9	28.82			
ピット19	B	N12	f1	LT	33×23	6	28.84			
ピット20	B	N12	e2	JR	24×19	3	28.92			
ピット21	B	N12	e2	JR	19×16	6	28.84			
ピット22	B	N12	f1	JR	25×24	9	28.78	土器器片		
ピット23	B	N12	e2	JR	36×30	7	28.95	土器器片		
ピット24	B	N12	e1	JS	34×25					
ピット25	B	N12	e1	IT	17×15					
ピット26	B	N12	e1	IT	13×12					
ピット27	B	N12	d1	HT	22×16	10	28.5			
ピット28	B	N12	e1	HT					欠番	
ピット29	B	N12	e1	IT	17×16					
ピット30	B	N12	d1	MS	20×18	17	28.63	土器器片		
ピット31	B	N12	e2	IR	18×10					
ピット32	B	N12	e2	IR	16×14					
ピット33	B	N12	e2	IR	17×17					
ピット34	B	N12	e2	IR	15×13					
ピット35	B	N12	e2	IR	14×13					
ピット36	B	N12	e2	IR	15×11					

別表2 福井遺跡B・C区 遺構一覧表(4)

遺構名	地點	100m区画	10m区画	5m区画	積土または幅 cm	深さ cm	延べ面積 m ²	時期	出土遺物	備考
ピット37	B	N12	e2	BR	10×6					
ピット38	B	N12	d2	GQ	33×22	7	29.08			
ピット39	B	N12	d2	HR	33×19	6	29.06			
ピット40	B	N12	d2	GR	40×32	8	29.06			
ピット41	B	N12	d2	GR	31×22				土師器片	
ピット42	B	N12	d2	GR	31×29	12	29			
ピット43	B	N12	d2	GR	14×13					柱跡
ピット44	B	N12	d2	GR	27×15	6	29.09			
ピット45	B	N12	e2	FR	34×26	7	29.08			
ピット46	B	N12	e2	FR	38×26					
ピット47	B	N12	e2	BR	27×22	19	29.02			
ピット48	B	N12	e2	BR	30×23	22	28.9			
ピット49	B	N12	d1	GT	30×22	5	28.76			
ピット50	B	N12	d1	GT	28×27	6	28.8			
ピット51	B	N12	d1	GT	20×15	6	28.92			
ピット52	B	N12	d1	GT	21×20	3	28.92			
ピット53	B	N12	d1	GT	14×13					
ピット54	B	N12	d1	GT	25×23					
ピット55	B	N12	d1	GS	22×20	8	28.95			
ピット56	B	N12	d1	GS	20×19	4	28.96			
ピット57	B	N12	d1	GS	17×15	11	28.87		土師器片	
ピット58	B	N12	d1	GS	16×15	7	28.9			
ピット59	B	N12	d1	GS	35×24	7	28.86			
ピット60	C	N11	f9	LC	49×30				土師器片	
ピット61	C	N11	f9	LC-LD	24×22					
ピット62	C	N11	f9	JC	31×30				須恵器片、土師器片	
ピット63	C	N11	f9	JC					欠番	
ピット64	C	N11	f9	JC	21×10				土師器片	
ピット65	C	N11	f9	JC	39×19					
ピット66	C	N11	f9	KD					欠番	
ピット67	B	N12	b1	CT	19×19	15	29.06			
ピット68	B	N11	a10	CA	27×11	10	29.03			
ピット69	B	N11	a10	CA	22×19	8	29.06			
ピット70	B	N11	a10	CA	21×21	14	28.93			
ピット71	B	N11	a10	CA	31×21	22	28.97			
ピット72	B	N11	b1	CT	26×34	33	28.86			
ピット73	B	N11	a10	CA	20×18	22	28.98			
ピット74	B	N11	a10	CA	13×12					
ピット75	B	N11	a10	BA	16×14					
ピット76	B	N12	a1	BT	46×32	33	28.96	平安		A区の獨立社建物5
ピット77	B	N12	a1	BT	31×27	25	29.05	平安		A区の獨立社建物5
ピット78	B	N12	a1	BT	46×34	13	29.18			
ピット79	B	N12	a1	BS					欠番	
ピット80	B	N12	b1	DT	26×26	16	28.97			
ピット81	B	N12	b2	CR					欠番	
ピット82	B	N12	b2	CR					欠番	
ピット83	B	N12	b2	CS	35×20	23	29.06			
ピット84	B	N12	b1	CS	15×15					
ピット85	B	N12	b1	CS	54×48	8	29.17			
ピット86	B	N12	b1	CS	39×35	32	28.92			
ピット87	B	N12	b1	CT	22×20	28	28.91			
ピット88	B	N12	b1	CT	18×16	17	29.05			
ピット89	B	N12	e2	IQ	13×13					
ピット90	B	N12	e1	IT	31×21	6	28.89			
ピット91	C	N11	f9	LD	35×29	7	28.35	弥生後期 生糞西廻廊の部分		

別表2 福井遺跡B・C区 遺構一覧表(5)

遺構名	地区	10m区画	10m区画	5m区画	幅または幅 cm	深さ cm	高さ cm	時期	出土物	備考
ピット92	C	N11	f9	LD		7	28.32		土師器片	
ピット93	C	N11	f9	KC	27×24	11	28.44	中世	瓦器片	
ピット94	C	N11	f10	LB	10×10					
ピット95	C	N11	f10	KB	24×13	3	28.62			
ピット96	C	N11	f10	KD	24×17	9	28.53		土師器片	
ピット97	C	N11	f10	HB	34×23					
ピット98	C	N11	e9	HC	17×15					
ピット99	B	N12	b1	DT	27×23	30	28.77			
ピット100	B	N12	c2	FQ	62×29					
ピット101	B	N12	c2	FQ	40×27					
ピット102	B	N12	c2	FQ	28×8					
ピット103	B	N12	d2	GE	42×31	18	28.64			
ピット104	B	N12	d2	HR					欠番	
ピット105	B	N12	d1	HS	17×15					
ピット106	B	N12	d1	HS	14×13					
ピット107	B	N12	d1	HS	15×14					
ピット108	B	N12	d1	HS	19×14					
ピット109	B	N12	d1	HS	21×19					
ピット110	B	N12	d1	HS	17×16					
ピット111	B	N12	d1	HS	19×18					
ピット112	B	N12	d1	GT	36×17					
ピット113	B	N12	d1	HT	16×14					
ピット114	B	N12	d1	HT	20×16					
ピット115	B	N12	d1	HT	13×13					
ピット116	B	N12	d1	HT	26×23					
ピット117	B	N12	d1	HT	35×28					
ピット118	B	N12	d1	HT	33×28					
ピット119	B	N12	e1	IT	38×34					
ピット120	B	N12	d1	HS-HT	26×18					
ピット121	B	N12	d1	HS	16×15					
ピット122	B	N11	f10	KA	31×30					
ピット123	B	N11	f10	KA	20×17					
ピット124	B	N12	f1	LS	17×15	3	28.84			
ピット125	B	N12	f1	LS	17×14	9	28.82			
ピット126	B	N12	f2	LR-LS	24×18				欠番	
ピット127	B	N12	f2	LR-LS	34×28				欠番	
ピット128	B	N12	d2	GR	30×28	18	28.94			
ピット129	B	N12	d2	GR	20×15					
ピット130	B	N12	d2	GR	28×27	11	29			
ピット131	B	N12	e2	JQ	36×18					
ピット132	B	N12	c2	ER	20×19	10	29			
ピット133	B	N12	c1	ES	23×17	27	28.85			
ピット134	B	N12	c1	ES	24×18	14	28.97			
ピット135	B	N12	c1	ES	20×18	33	28.76			
ピット136	B	N12	c1	ES	24×17	16	28.9			

図 版

図版 1
航空写真



調査地周辺（上方が北）



A区 全景（上方が北）



A区 北半部 全景（上方が北）



A区 南半部 全景（上方が北）



a. 調査区 北端部 全景（西から）



b. 調査区 北端部 全景（北から）



a. 調査区 全景（南から）



b. 調査区 全景（北から）



a. 調査区 北半部 全景（南西から）



b. 調査区 中央部 全景（北西から）



a. 掘立柱建物 3 全景 (西から)



b. 掘立柱建物 3 (ピット318) 断面 (北東から)



c. 掘立柱建物 3 (ピット308) 断面 (北東から)



d. 掘立柱建物 3 (ピット507) 断面 (東から)



e. 掘立柱建物 3 (ピット498) 断面 (北から)



a. 堪穴住居 1 全景（西から）



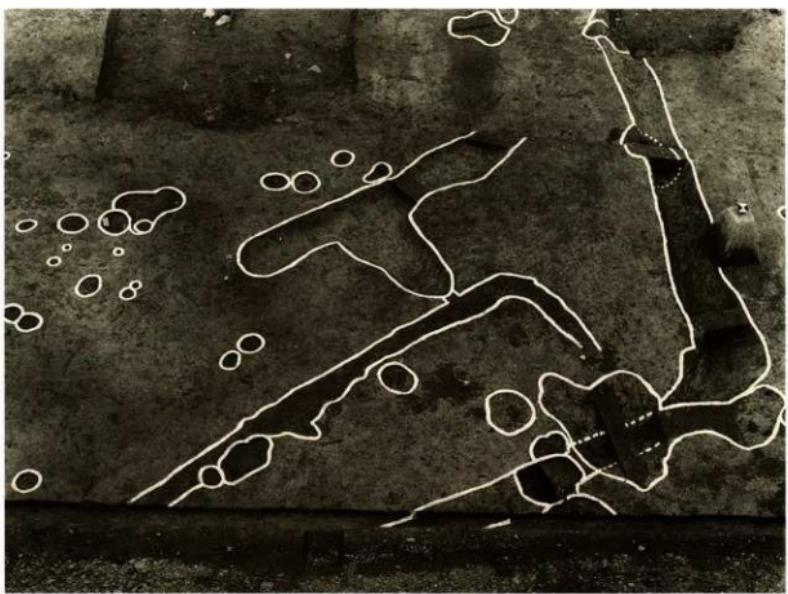
b. 堪穴住居 1 遺物出土状況（南から）



a. 掘立柱建物 1・2、竪穴住居 1 全景（南西から）



b. 竪穴住居 1、掘立柱建物 2 全景（東から）



a. 壴穴住居3 全景（西から）



b. 調査区 南半部 全景（東から）



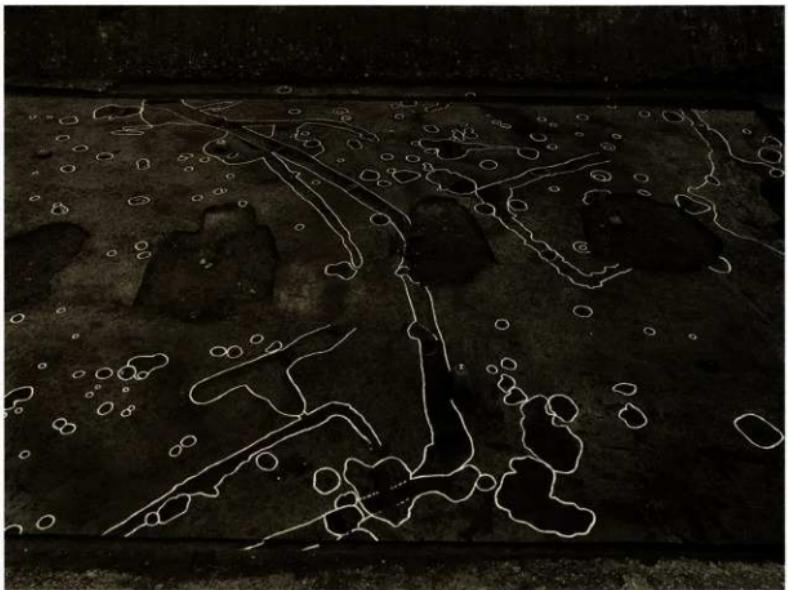
a. 掘立柱建物 1 全景（東から）



b. 掘立柱建物 1 (ピット228) 断面 (北から)



a. 掘立柱建物 4 全景 (南東から)



b. 調査区 南半部 全景 (西から)



a. 掘立柱建物 5 全景（南から）



b. 掘立柱建物 6 全景（西から）



B・C区 全景（上方が北）



a. 調査区 南半部 全景 (西から)



b. 溝1 全景 (西から)



a. 土坑 1・2 遺物出土状態（東から）



b. 落ち込み 1、溝 1 全景（西から）



a. 溝2 全景（東から）



b. 土坑3 全景（南から）



a. 溝5 全景（西から）



b. 調査区 北半部 全景（北から）



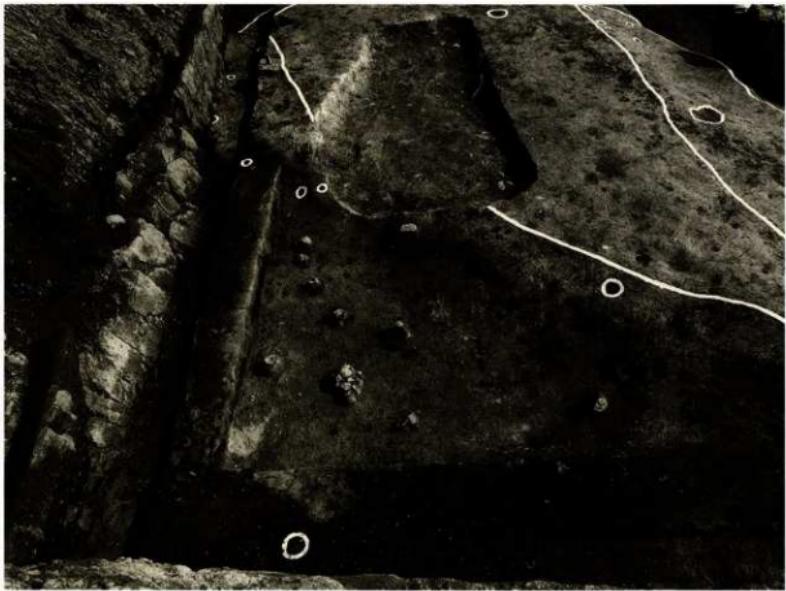
a. 溝34 遺物出土状況（西から）



b. 溝5 北肩部 遺物出土状況（東から）



a. B区 自然河川 1-A・1-B 全景



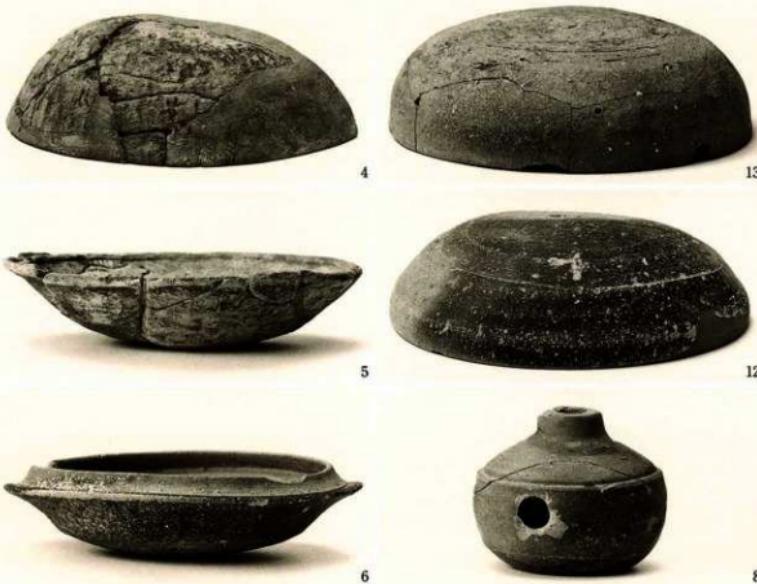
b. C区 溝2 全景（西から）



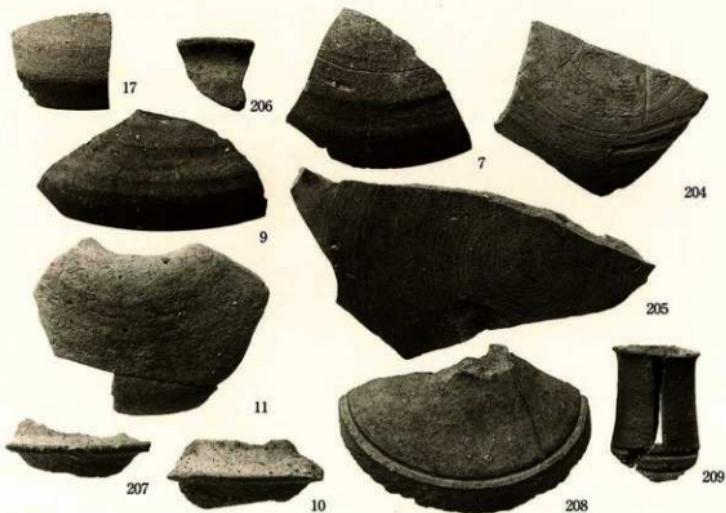
a. 落ち込み 1 断面（北東から）



b. 調査区 全景（北から）



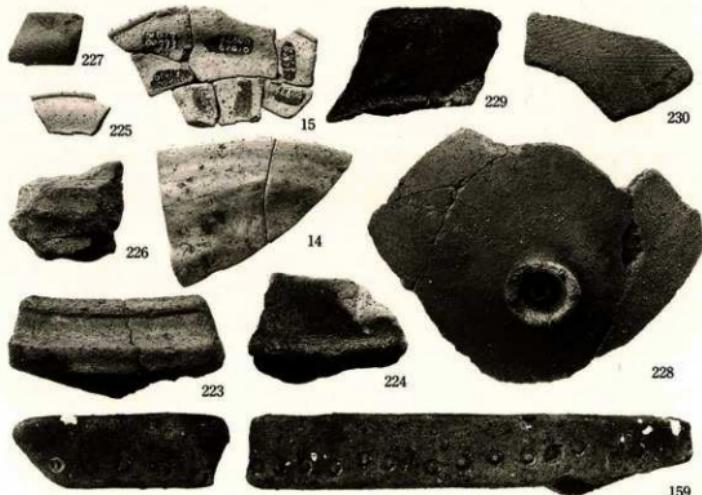
a. 壺穴住居 1 (4 ~ 6)、溝208 (12・13)、土坑213 (8)
壺蓋 (4・12・13)、壺身 (5・6)、甌 (8)



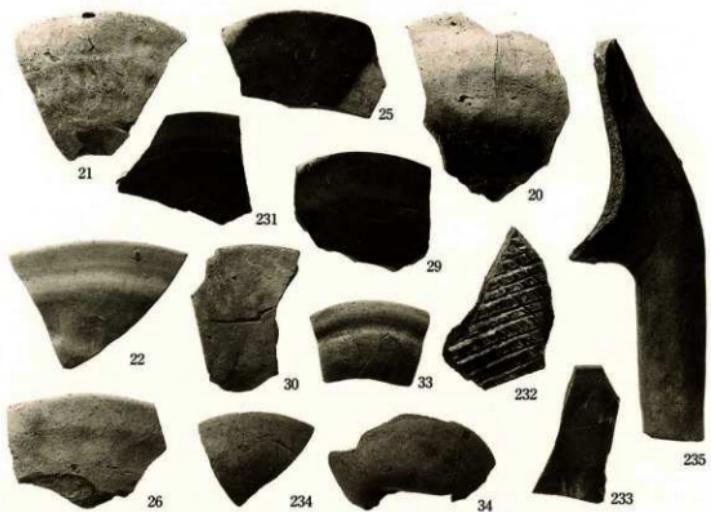
b. 土坑213 (7・204・205)、溝223 (10・208・209)、溝201 (9・206)、溝208 (11)、土坑204 (207)、土坑226 (17)
提瓶 (205)、壺蓋 (7・9・11・17・204)、壺身 (10・206・207)、甌 (208)、長脚二段高壺 (209)



a. 振立柱建物5(3・221・222)、振立柱建物6(1・2・210~217)、振立柱建物8(218~220) 瓢箪器壺蓋(221)・瓶(3)、黒色土器A類壺(211・215・216・220・222)、土師器壺(1)・甕(213)・羽釜(2・212)・皿(210)・把手(214)、不明陶器(217)、綠釉陶器(218)、瓦器椀(219)



b. ピット91(159)、ピット579(223)、ピット435(15・225)、ピット232(226)、ピット234(227)、溝216(14)、落ち込み201(228・229・230)、ピット244(224)
弥生土器器台(159)、土師器高壺(228)・甕(229・230)、土師器羽釜(223)・土師器小皿(15・225)、埴輪片(226)、瓢箪器壺蓋(227)、瓦器椀(14)、瓦器羽釜(224)



a. 落ち込み201

瓦器楕(20～22・25・26・29・30・231)、土師質小皿(34・33・234)、瓦質三足(235)、青磁楕(233)、瀬戸おろし皿(232)



b. 溝1 (68・69)、土坑1 (66・71)

高坏 (68・69)、土坑1 高坏 (66・71)



73



74



70



72



59



56



81



41

溝 1 (41・72・81)、土坑 1 (74)、土坑 2 (70・73・56)、土坑 1・2 (59)
高坏 (70・72~74)・甕 (81)・小壺 (41)・鉢 (56)・器台 (59)



40



45



92



78

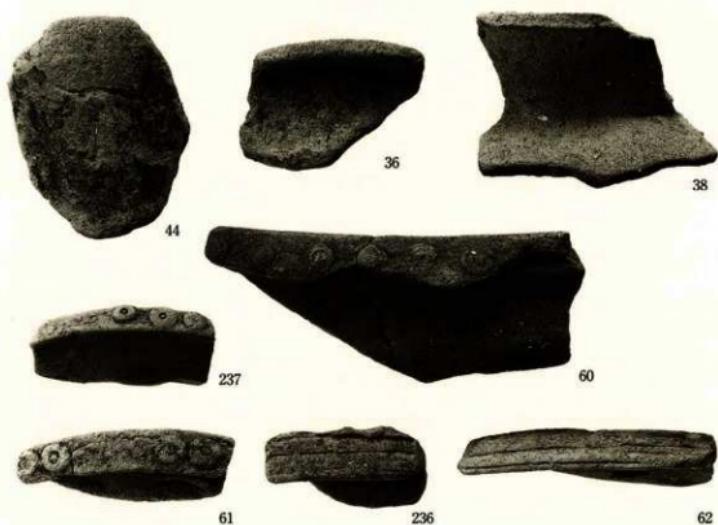


91



83

溝 1 壺 (40)
土坑 2 長頸壺 (45) · 壺 (78・83・91・92)

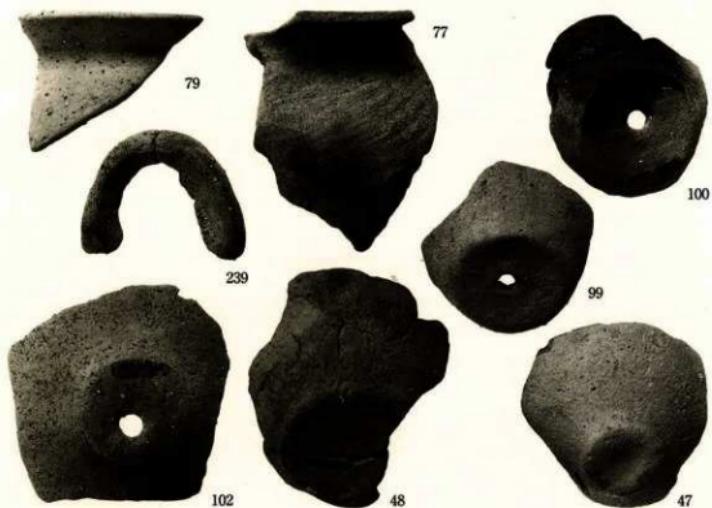


a. 溝 1
壺 (38・36)・長頸壺 (44)・器台 (61・62・236・237)・装飾高環 (60)

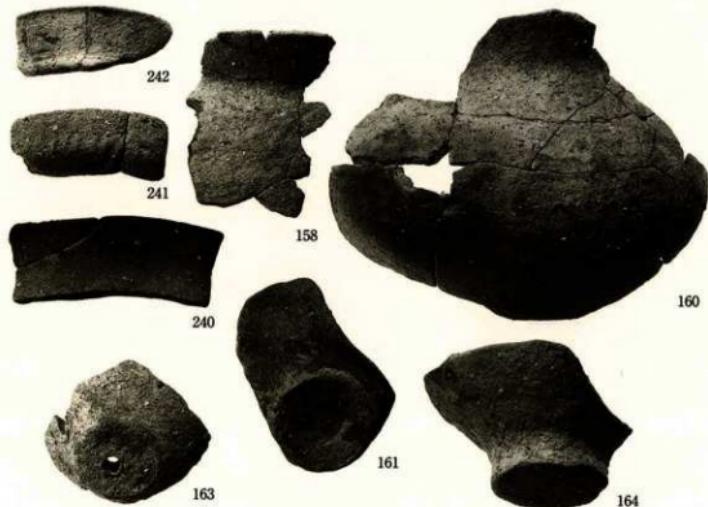


b. 溝 1
鉢 (52～55)・壺 (80・85・86・89・90)・把手付鉢 (238)

圖版29 福井遺跡B・C区
弥生時代後期 土器



a. 土坑1 (77・79・102・239)、土坑2 (47・48・99・100)
壺 (77・79)・壺 (47・48)・把手付鉢 (239)・底部有孔土器 (99・100・102)



b. 土坑72 (160・163)、土坑57 (240~242)、土坑3 (158)、土坑54 (161)
壺 (160・161)・底部有孔土器 (163)・壺 (158・240~242)



104



113



119



123

a. 溝2
壺 (104)・甕 (119)・ミニチュア (113)・高环 (123)



122



107



105



118



116

b. 溝2
壺 (105)・甕 (116・118)・長頸壺 (107)・高环 (122)



130



135



139



140

a. 溝4
甕 (130)・高環 (139・140)・鉢 (135)



132



129

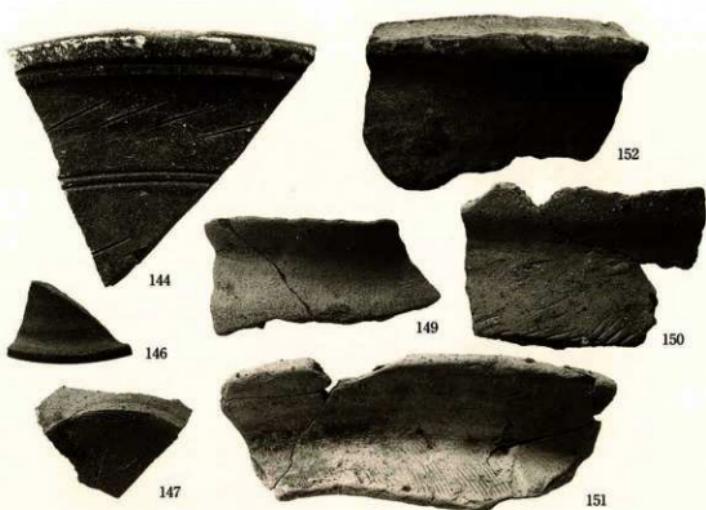


125



138

b. 溝4
甕 (129・132)・壺 (125)・高環脚部 (138)



a. 溝5
土師器羽釜（152）・壺（149～151）、須恵器脚部（146）・壺底部（147）・壺（144）



144



145



146



147



148



149

b. 溝5
須恵器提瓶（142）・横瓶（143）、土師器壺（153）、砥石（155）



142



143



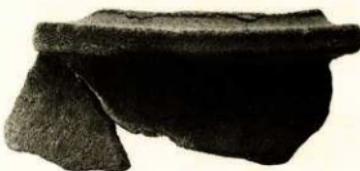
153



155



156



168

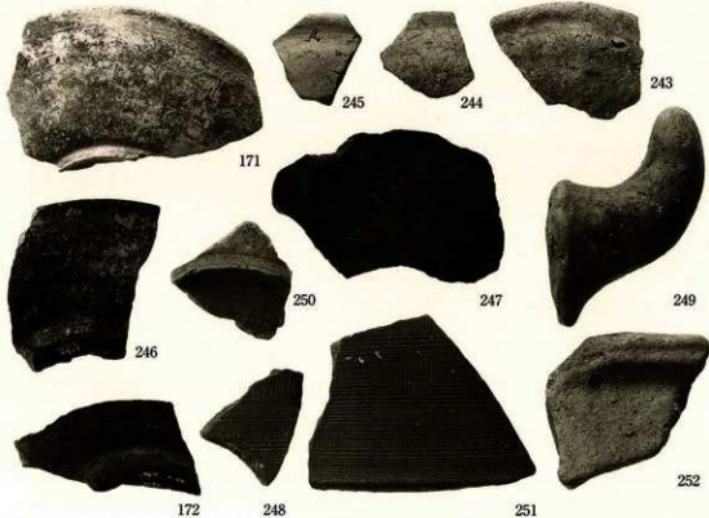


157

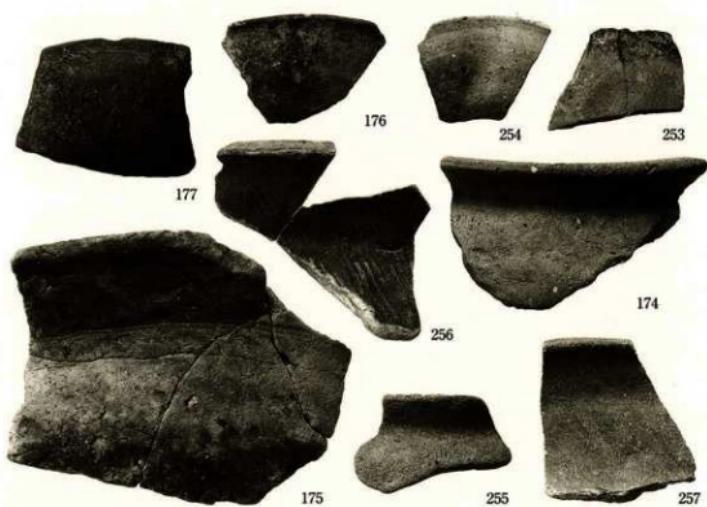


169

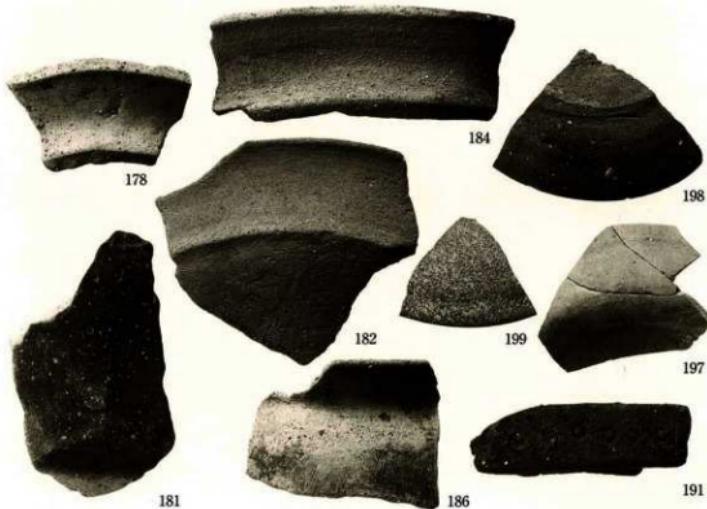
a. 溝34(156・157)、自然河川1(168)、自然河川2(169)
須恵器環蓋(156)・短頸壺(157)、土師器羽釜(168)・皿(169)



b. 自然河川1-A(171・172・243～251)、自然河川1(252)
土師器環(171・243・244)・皿(245)・輪(246・247)・把手(249)・埴輪(248・251・252)、黑色土器B類碗(172)・A類坏(250)



a. 自然河川 1 - B
須恵器甕(257)、土器片(176)・坏(254)・甕(174・255・256)・鍋(175)、黒色土器B類碗(177)・A類坏(253)



b. 落ち込み 1
弥生土器台(191)・壺(178・181)・甕(186)・須恵器坏(197)・高坏(182・184)・坏盖(199・198)



180



200



196



195



190



165



35



173



203

落ち込み 1 (180・190・200・196・195・203)、土坑57(165)、落ち込み201(35)、自然河川 1-B (173)
弥生土器長頸壺(180)・壺(190)・須恵器平瓶(200)・壺身(196)・壺蓋(195)・砥石(203)・磨石(165)・鐵釘(35)・錢貨(173)

報告書抄録

ふりがな	ふくいいせき
書名	福井遺跡
副書名	茨木市豊原町所在
卷次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2002-5
編著者名	宮崎泰史
編集機関	大阪府教育委員会文化財保護課
所在地	〒540-8571大阪府大阪市中央区大手前2丁目TEL06-6941-0351
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'."	東経 °'."	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふくい いせき 福井遺跡	いばらき し 茨木市 とよはらまち 豊原町	27211		34° 50' 17"	135° 33' 01"	2001年9月13日 ～ 2002年1月30日	2810m ²	府営福井住宅建て替えに伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
福井遺跡	集落跡	弥生時代	溝、土坑、ピット	弥生時代後期の土器	溝に囲まれた古墳時代後期の掘立柱建物と竪穴住居。居住域を区画する弥生時代後期の溝。
		古墳時代	掘立柱建物、竪穴住居、溝、土坑、ピット、自然河川	須恵器、土師器	
		平安時代	掘立柱建物、溝、土坑、ピット、自然河川	須恵器、土師器、綠釉陶器、黒色土器、錢貨	
		鎌倉～室町時代	掘立柱建物、溝、土坑、ピット	瓦器、土師質土器、白磁、青磁、鉄釘	

大阪府埋蔵文化財調査報告2002-5

福井遺跡

-茨木市豊原町所在-

発行年月日 2003年3月31日

編集・発行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目

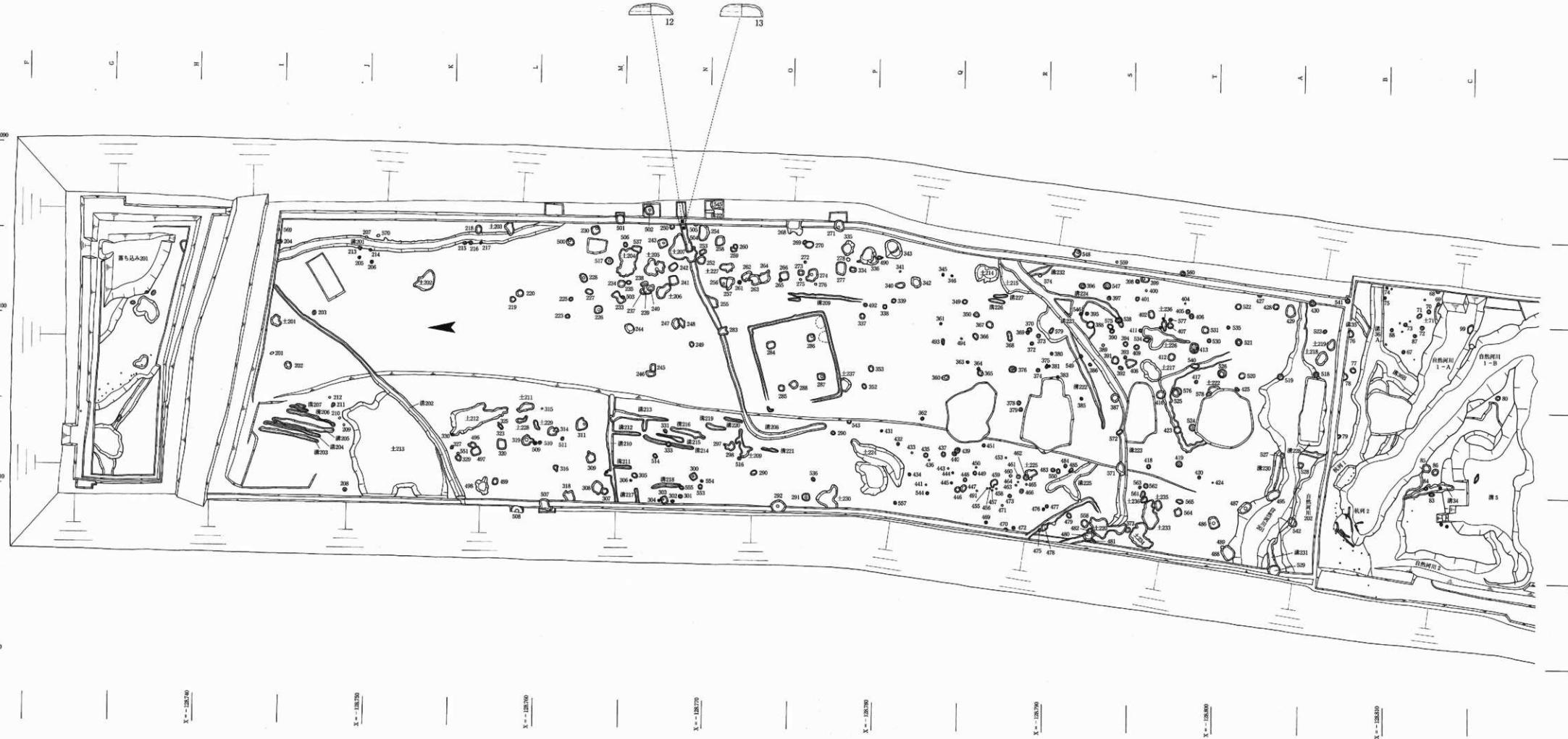
電話 06-6941-0351（代）

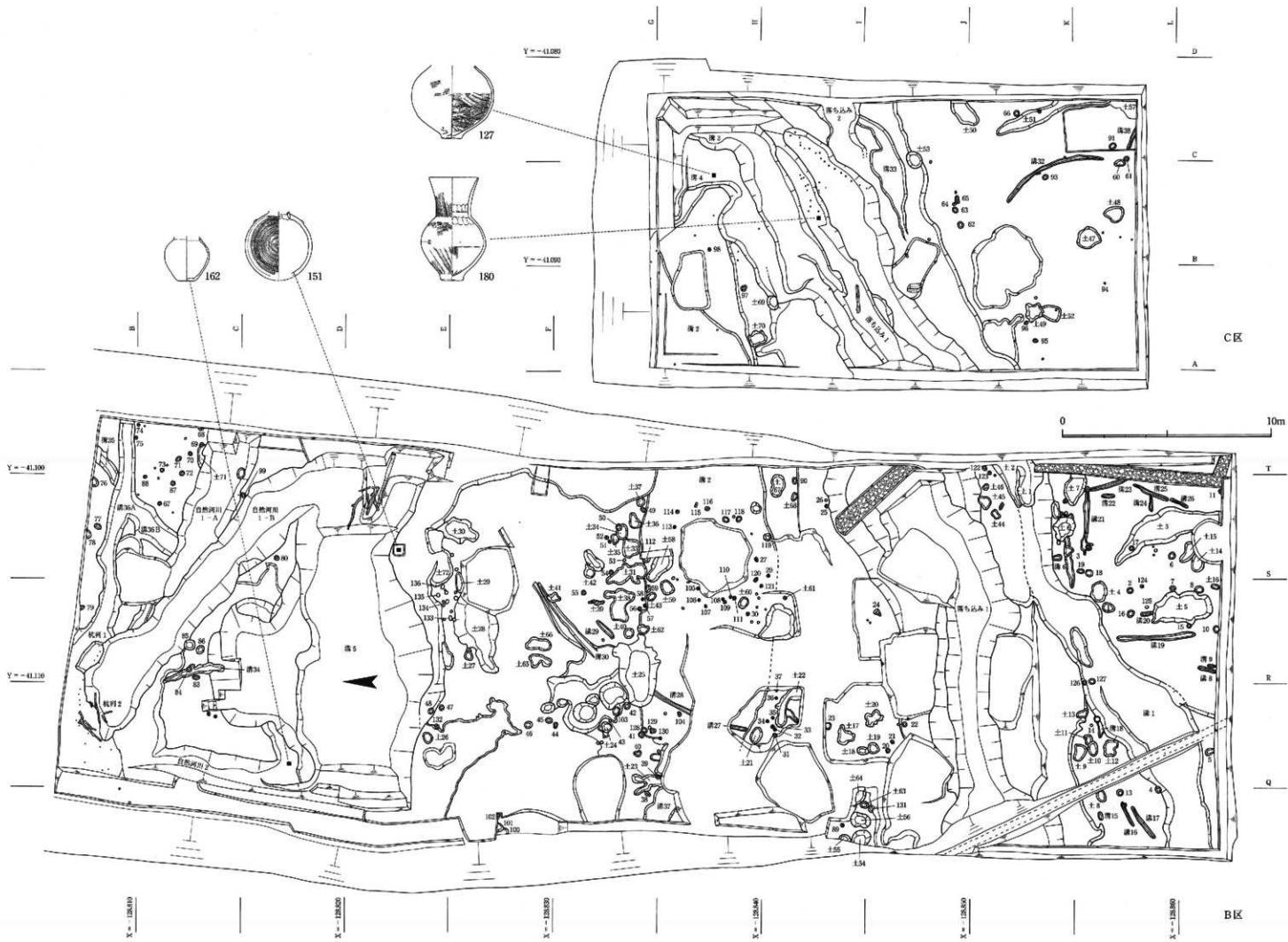
印 刷 所 株式会社 中島弘文堂印刷所

〒537-0002

大阪市東成区深江南2丁目6番8号

電話 06-6976-8761（代）





付図2 B・C区 造構配置図 (1/160)

